

平成25年度

事業
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉 2013

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

はじめに

「福祉社会の要請に応えるために」

当事業団が、東日本大震災救援事業に寄せられた寄付5000万円で岩手県陸前高田市米崎町に建設した「朝日のあたる家」は、2014年2月、開設1年を迎えました。認知症カフェ、生活相談室、囲碁の会など、地元の人たちを中心とした活動が続いています。それだけではなく。学校帰りの小学生が、床暖房の上にノートを広げて宿題をやったり、紙コップのコーヒーを片手にした主婦仲間が「ちょっとおしゃべりを」と立ち寄ったり。誰もが気楽に集まることができる地元密着の「コミュニティの核」として育ちつつあります。

震災から3年。米崎町でも、姿を消した瓦礫（がれき）のあとに、大規模スーパーの建設が進むなど、周囲の風景は急速に様変わりしようとしています。とはいえ、陸前高田市では、依然215人が行方不明で、身元不明者も10人を数えます（14年2月現在）。進む復興の一方で、仮設住宅暮らしとともに癒えない心の痛み。被災者支援は、安易に区切りをつけることを許さないものであると思い定めています。

2013年度は、「高齢者在宅ケアモデル事業」「自閉症支援センターを設立する事業」「グリーンステーションを全国に普及促進する事業」の3つの特定目的事業を柱とする「新3年計画」の始動の年となりました。大きな事業だけに、準備や計画立案に丁寧に取り組みました。14年度には具体化に向けたプロジェクトが動き始める予定です。東日本大震災被災者救援・復興支援事業は、「朝日のあたる家」の運営などにとどまらず、被災して不自由な生活を強いられている方々に、心豊かなひとときを過ごしていただこうと企画した「被災地ビジット」なども継続して実施しました。

事業団の基本方針である「子ども」「障害のある人」「高齢者」の3本柱は変わりません。社会的養護の意識拡大を図るネットワーク作りやシンポジウムの開催。自閉症支援の一環としての親と教師に向けたDVDの作製。高齢者や介護者が悩む「終（つい）のすみか」に焦点を合わせた連続講演会の開催等々。いずれも時代を先取りした企画として取り組みました。

いや応なしに迫ってくる「超・少子高齢化時代」に向けて、当事業団の取り組むべき課題は山積しています。社会の変化に目をこらしながら、時代の要請に応える事業を展開していきたいと思っております。今後も、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

2014年5月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

■ 2013年度（平成25年度） 朝日の社会福祉 ■

目

次

はじめに	1
東日本大震災	5
朝日のあたる家（岩手）	5
こども応援金	7
大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」	8
グリーフキャンプ	10
被災地ビジット（宮城・岩手 20カ所）	10
東日本大震災報道写真展（東京）	12
東日本大震災救援事業へのご寄付、13年度は4500万円	13
子どもの福祉	14
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金	14
社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」	15
ピア・キャンプの開催（静岡）	17
「子どもシェルター」の講演会（千葉）	17
講演会「大切な人を失った子どもたち～これからのグリーフケア～」（東京、大阪）	18
第60回朝日夏季保育大学（長野）	19
親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）	21
第30回福祉施設絵画展（名古屋）	21
障害のある人の福祉	22
自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）	22
メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」（鹿児島、山形、宇都宮）	23
朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援」	23
JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）会議（東京）	24
第30回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）	25
高次脳機能障害についての講演会（岩手、愛知）	26
第16回なるほど！なっとく！！高次脳機能障害 ～さらなる理解を求めて（名古屋）	28
朝日福祉ガイドブック「なるほど高次脳機能障害」	28
うつ病についての講演会（宮城、東京、大阪）	28
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）	29
愛知県重度障害者の生活をよくする会40周年記念行事（名古屋）	30

第51回心身障害問題を考える集い（名古屋）	30
第59回耳の日記念行事（全国）	30
第32回耳の日記念聴覚障害者と県民の集い（名古屋）	30
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京）	31
第32回肢体不自由児・者の美術展（東京、福岡）	31
第42回聴美会展（名古屋）	32
第48回名古屋市障害者作品展示会	32
第34回障害者歩くスキーマの集い（札幌）	32
第34回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（長崎）	33
第25回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（長崎）	33

高齢者の福祉 34

高齢者への暴力防止プロジェクト助成	34
連続講座「住まいの終活」（東京、大阪）	35
講演会「ひとり暮らしの認知症」（東京、大阪）	37
高齢期の豊かなくらし研究会講演会（大阪）	37
「フォーラム 認知症カフェを考える2013」（東京）	38
朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）	39
高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」（全国18カ所）	39

福祉啓発・公衆衛生など 42

第9回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」（福岡）	42
いのちの電話などに福祉助成金（福岡）	42
アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）	43
第65回保健文化賞（東京）	43
東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）	44
遺贈・遺言セミナー（東京、大阪、名古屋、福岡）	44
フィリピン台風被災者救援金	45

チャリティー事業 46

朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）	46
第63回メサイア演奏会（東京）	47
第55回各派合同三曲演奏会（大阪）	48
第61回洋舞合同祭（尼崎）	48
協賛能（大阪）	49
第60回各流合同茶会（大阪）	49
朝日関西学生チャリティー茶会（大阪）	50
第59回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）	50
第51回チャリティー大茶会（北九州）	51
彩季会チャリティーバザー（東京）	51

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）	51
上野学園第54回慈善演奏会（東京）	51
浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート（さいたま）	51

主な後援・協賛・協力事業一覧	52
チャリティー美術展に出展いただいた皆様	58
ご寄付をいただいた皆様	66
新3年計画 2013-2015	72
朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内	74
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	76
2012年度収支計算書	78
理事・監事・評議員名簿	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿	80

東日本大震災

2011年3月の東日本大震災から3年が過ぎました。死者・行方不明者は関連死も含めると2万人を超え、27万人が今なお避難中です。

朝日新聞厚生文化事業団は13年度も引き続き、この大災害で特に過酷な状況に置かれている子ども、障害のある人、高齢者に焦点を当てた独自の被災者救援・復興支援事業に精力的に取り組んでいます。

朝日のあたる家、こども応援金、子どもグリーフサポート、グリーフキャンプ、被災地ビジットなどが主なものです。

こうした活動には、朝日新聞厚生文化事業団の震災救援事業へのご寄付と、東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで）のご寄付のうち使途について「朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できた分を充てさせていただいています。

朝日のあたる家（岩手）

当事業団、NPO法人 福祉フォーラム・東北主催

岩手県陸前高田市米崎町の地域交流拠点「朝日のあたる家」＝写真上＝が1周年を迎え、14年2月23日、現地で記念式典が開かれました。

●コミュニティーハウス

「朝日のあたる家」は朝日新聞厚生文化事業団の震災救援事業に寄せられた寄付5千万円をかけて建設された「コミュニティーハウス」で、木造平屋建て床面積約240平方メートル。大小4つのホールや和室、キッチンがあり、グランドピアノやプロジェクターなども備えられています。運営には福祉フォーラム・東北（新田国夫会長）が当たっています。



●多彩な催し

心と体の健康、認知症、介護などの相談室のほか、「認知症カフェ」やグリーフケアのための「子どもの集い」、講演会やコンサート＝写真下＝など、さまざまな催しを開いてきました。また、料理教室＝写真次ページ上＝をはじめ、体操・手芸・囲碁の教室も定期的に開催しています。



●仮設住宅住民ら4千人が利用

学校帰りに子どもたちが気軽に立ち寄ることもあり、この1年間で、仮設住宅に暮らす方々をはじめ、子どもから高齢者まで延べ4千人に利用していただきました。また、月1回の広報紙「おはやがんす」を発行するなど、積極的に地域の方々に情報を発信しています。



●1周年記念式

1周年の記念式には、利用して下さった地域の住民と関係者ら約150人が出席。戸羽太・陸前高田市長から「これからもみんなが寄り添える場所、仲間意識を持って集える場所であってほしい」とごあいさつをいただきました。当事業団の池内文雄理事長が「ご支援いただいている多くの方々に感謝します。このような場所は、利用して下さる方々によって良くなっていきます。これからも朝日のあたる家を使い倒してください」と述べました。



その後、利用している住民らが高田音頭や気仙甚句などの歌や踊りを披露し＝写真中、地元有志の方々手作りの料理でにぎやかに1周年を祝いました。

●認知症カフェに注力

特に力を入れているのが認知症の介護をする家族や本人を招いての交流会「認知症カフェ」＝写真下＝の運営です。毎月第4木曜日の午後で開催され、お茶を飲んで歓談しながら情報交換をしたり、体操をしたり、歌ったりするプログラムのほか、スタッフが相談にのるコーナーなどがあります。地元で長く活動してきた「認知症にやさしい地域支援の会」の協力を得ながら進めています。



被災地では避難生活が長引く中で、新たに認知症と診断される高齢者が増えていると言われます。仮設住宅など不自由な環境での生活を強いられ、部屋に閉じこもりがちになり、認知症の症状が悪化したり、顕在化したりしていることが考えられます。「朝日のあたる家」のスタッフは、こうした高齢者のところへも訪ね、交流会への参加を呼びかけています。

住民、医師、看護師、介護サービス従事者などが職種を超え、被災地を支援する「包括的ケア体制」が望まれており、福祉フォーラム・東北と当事業団は、「朝日のあたる家」を拠点として、現地に密着した在宅ケア事業を構築することを目指しています。



(写真左は朝日新聞の声欄から。同右は朝日新聞の岩手版から)



こども応援金

当事業団主催

震災で両親を亡くした子ども（孤児）に「東日本大震災こども応援金」を届けています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接、渡しています。

震災直後から両親を亡くした子どもたちのことを考えていた私たちは、全国の多くの方々から、ご寄付と一緒に届く「被災地の子どもたちのために」という声にも背中を押され、取り組みを始めました。

経済的な不安を和らげ、子どもが夢をあきらめずに将来への希望を持てることに少しでも役立ちたいと、すべての孤児に渡すのを目標にしています。

11年7月から贈呈を始め、13年度にお渡ししたのは1人だけでしたが、14年3月末までに、対象と見込んできた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました。震災から3年がたち、子どもたちは成長の節目ごとに多くの不安を感じることもあるかも知れません。「被災した子どもたちのために」と寄付を寄せてくださる多くの方々の気持ちを、対象の子どもたち全員に届けることを目標に、14年度も受け付けを継続します。

こども応援金 贈呈者数の内訳

(2014年3月末現在 県名などは被災時)

	岩手	宮城	福島	合計
未就学児	8	8	3	19
小学生	34	45	10	89
中学生	24	21	2	47
高校生	16	27	4	47
合 計	82	101	19	202

大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」

当事業団、NPO法人子どもグリーフサポートステーション主催

東日本大震災の被災地で子どものグリーフに向き合う



東日本大震災などの災害や事故、自死、病気、離婚などで大切な人と死別・離別したり、虐待などで安心・安全な暮らしを失ったりした子どもたち。“喪失”による悲しみや寂しさ、会いたい気持ちなど（グリーフ）を抱えた子どもたちが、自分らしく歩むプロセスに寄り添う支援がグリーフサポートです。

このグリーフサポートの視点から東日本大震災で大切な人を失った子どもに寄り添うために、NPO法人子どもグリーフサポートステーションとともに、仙台市青葉区の仙台駅前に「子どもグリーフサポートステーション」を2012年9月に開設。子どもが、ファシリテーターと呼ばれる研修を受けたスタッフと好きな遊びをしたり、おしゃべりしたりするワンディープログラムを毎月2回程度実施しています。陸前高田市米崎町の朝日のあたる家でも定期的にプログラムを行い、13年度中に合わせて延べ約300人の子どもが参加しました。

2013年4月～2014年3月、仙台ワンディープログラムの参加者

参加者内訳(死別要因)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
震災	8	6	13	13	10	11	2	9	13	10	5	4	104
震災関連	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	6
病死	9	7	7	4	8	6	8	7	7	7	0	7	77
事故	6	3	4	3	4	4	3	4	3	3	0	3	40
その他	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	10
計	25	18	26	22	23	23	14	21	24	21	5	15	237

※その他は、父病死後に母自死のケース

これからも必要とされるグリーフサポート

震災から3年を経ても、亡くなった人に会いたい気持ちや寂しさ、喪失によって起こった自分を責める気持ちなどは無くなりません。私たちの実践は、こうした子どもの抱えたグリーフを取り除くものではなく、そうした想いに寄り添い、自分のペースで気持ちを整理し、一人ひとりが自分らしく歩むことを支えるものです。「話を聴いてくれる人がいる」「一緒に遊んでくれる人がいる」「同じような悲しみを持つ友だちがいる」。こうした居場所が「ステーション」です。

「ステーション」でのプログラム

「もし戻ってきたら、もう死なないでほしい」。7月、七夕飾りの短冊に書かれた子どもの思い。何げない会話の中で、「つらいことが重なって、死にたくなかったことがある」と子どもが話すこともあります。ステーションでは、遊びや季節行事などをとおして、子どもたちが「あのね…」と語り始めたときに、それがどんな気持ちでであっても、受け止め、寄り添うという姿勢を貫いています。

一日のプログラムの中盤には、「お話の時間」も設定しています。「亡くなった人を思い出したとき、どんな気持ちになりますか」などのテーマに沿って、子どもたちが気持ちを話します。もちろん、「話したくない」という気持ちも尊重され、無理なく、一人ひとりのペースで参加ができます。

グリーフを背負った全国の子どもたちに

東日本大震災で喪失体験をし、「ステーション」のような居場所を必要とする子どもたちは全国に散らばっています。一人でも多くのこうした子どもたちにサポートを届けるために、日本各地でグリーフサポートを始めようとしている人たちとの連携にも取り組み、大阪、札幌、東京、福岡ほかで講演会なども行ってきました。

グリーフサポートの手法で作る居場所は、自死や交通事故、虐待などで喪失体験をした子どもたちにも役立ちます。さまざまな困難を抱えた子どもにも、このサポートを届けたい、と私たちは考えています。深い喪失感とともに暮らす全国の子どもたちに、安心し、自分らしく人生を歩んでもらうために、東日本大震災の被災地を中心に、今後も全国に活動を展開していきます。

子どもグリーフサポートステーションと協働して行ったその他の主な事業

【東日本大震災などにより喪失を体験した子どものサポートをテーマにした講演会】		
13年	6月8日	福岡市・九州産業大学
	6月22日	朝日のあたる家（岩手県陸前高田市）
	6月29日	大阪市・ホテルコスモスクエア国際交流センター
	6月30日	東京・浜離宮朝日ホール
	11月27日	朝日新聞大阪本社会議室
	12月1日	宮城県・気仙沼市民健康管理センター「すこやか」
14年	1月12日	札幌市教育文化会館
	2月1日	北九州市総合保健福祉センター
	2月8日	東京・LEN会議室「新御茶ノ水」
	3月14日	仙台市民活動サポートセンター
【ファシリテーターの養成、実践者らのスキル向上のための取り組み】		
13年	6月23日	朝日のあたる家（岩手県陸前高田市）
	7月4日	子どもグリーフサポートステーション（仙台市青葉区）
	7月20、21日	福岡市市民福祉プラザ
	8月3、4日	サンザシの家（東京都板橋区）
	9月7、8日	サンザシの家
	10月12、13日	子どもグリーフサポートステーション
14年	1月13日	札幌市教育文化会館
	2月2日	北九州市総合保健福祉センター
	2月5、6日	埼玉県・越谷市市民活動支援センター
	2月22、23日	福岡市健康づくりサポートセンター
	2月27日～3月6日	米国ハワイ州・キッズハートツーハワイ
	3月15、16日	子どもグリーフサポートステーション
【仙台市、陸前高田市以外でのワンディープログラム】		
13年	8月31日、12月1日、14年1月25日	福岡市市民福祉プラザ
13年	12月22日	岩手県・宮古地区合同庁舎

※NPO法人子どもグリーフサポートステーションは、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた東日本大震災救援募金によって運営されています。

グリーンフキャンプ

日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、当事業団主催

東日本大震災で大切な人を亡くした子どもが、その喪失を現実として受け入れることができるようになる過程に息長く寄り添い見守る——。震災以来4回目を数えるグリーンフキャンプは、静岡県富士宮市の富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジを会場に14年3月29日～4月1日の3泊4日で開催しました。参加したのは、震災で両親を失った小学4年生から高校1年生の16人。当事業団の東日本大震災救援事業の「こども応援金」を贈った子どもたちです。

大雪の影響で予定していた静岡県立朝霧野外活動センターが使えず、急きょ会場を変更しました。標高約1000メートルにあり、3月末とはいえ春にはまだ早い朝霧高原で、静岡県キャンプ協会を核とした16人のスタッフに見守られながら、子どもたちはハイキングやアイススケート、野外炊事などでキャンプ生活を楽しみました。「おもいでの日」と名付けたグリーンワークのプログラムでは、亡くなった人について話す子もいました。あの日から3年、子どもたちにも、それぞれの時が流れました。彼らが経験するこれからの長い月日に、できる限り寄り添い続けます。



被災地ビジット（宮城・岩手20カ所）

当事業団主催

東日本大震災のため、不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるように、「被災地ビジット」を13年度も実施。通常の高齢者施設訪問「ゆうゆうビジット」のご協力者と一緒に、宮城県、岩手県の被災された方々を訪れました。

●おおかさん、大友さんが岩手・宮城を訪問

歌手のおおか静流さんとミュージシャンでマジシャンの大友剛さんが5月14日、15日に岩手県宮古市田老地区と山田町の3カ所でコンサートを開きました。仮設住宅340戸が集中する宮古市田老のグリーンピア三陸みやこの体育館では、近くの田老保育所の幼児37人や、仮設住宅暮らしの高齢の方々が参加し、おおかさんの歌に合わせて手遊びをしたり、一緒に歌を口ずさんだり。真っ白なノートが、おおかさんのかけ声とともに一瞬で絵本に変わる大友さんのマジックには、子どもたちもびっくり。歓声が館内いっぱいに響きました。



9月11日、12日には宮城県七ヶ浜町、多賀城市、名取市を訪問。多賀城市の大代保育園では、0歳から6歳の子ども70人が、大友さんのピアノ伴奏で、おおたかさんと一緒に、テレビでおなじみの「でんでらりゅうば」や「ぴっとんへべへべ」などを歌ったり、踊ったり＝写真前ページ。大友さんが翻訳した絵本「ねこのピート」の朗読とプレゼントもありました。

大友さんの被災地公演、100回超え 大友さんは当事業団の「被災地ビジット」以外でも積極的に被災地を訪問しており、被災地での演奏回数は計111回になりました。

●千住さん、山洞さんが渾身の「朝日のあたる家」コンサート

6月と9月にはバイオリニストの千住真理子さんとピアニストの山洞智さんが気仙地区を訪問。気仙沼市の愛耕幼稚園や児童養護施設旭が丘学園、陸前高田市の米崎小学校などでコンサートを開催しました。「朝日のあたる家」で初めてとなった被災地ビジットには住民ら約100人が詰めかけました。2人は「アメージング・グレイス」「チャルダッシュ」など、アンコールも含め、9曲を演奏。「浜辺の歌」では、立派だった震災前の松原を思い出し、涙を浮かべる人もおり、思いのこもった演奏に会場は熱気に包まれました。



10月29日、30日には岩手県釜石市などを訪問。津波で建物がすべて流失した翌月から集会所を借りて保育を再開し、13年6月に内陸の新園舎に移ったばかりの鶴住居保育園では、園児ら約50人を前に「愛の喜び」を「皆さんが元気になる曲です」と紹介して演奏したのをはじめ、「アベマリア」や「夕焼けこやけ」「もみじ」など7曲を披露。中妻子供の家保育園＝写真、釜石保育園も訪れました。

●石巻の保育園、川畠さんにラブコール続々



バイオリニストの川畠成道さんは、11月27日、28日に宮城県女川町と石巻市を訪問。高齢者施設2カ所と、保育園3カ所でコンサートを開きました。石巻市役所を通して、市内の保育園に案内をしたところ、多くの希望をいただきました。限られた時間内の訪問のため、そのすべてでコンサートを開催することは難しく、次の訪問を約束し、その中から同一地区の保育所3カ所を訪問することにしました。

子どもたちがどんどん減っている地域で、最も少ない大川保育所＝写真＝では、園児11人を前に、クラシック音楽だけでなく、映画音楽などを披露。女川町地域医療センターの介護老人保健施設では、アンコールのリクエストに応え、6曲を演奏しました。センターは震災で1階が浸水し、老人保健施設の利用者の自宅も大半が被災しました。94歳の入所者は「最高！ バイオリン大好き！！」と笑顔を見せました。

13年度は石巻市役所、被災地障がい者センターみやこ、福祉フォーラム・東北など、現地で活動している皆さんのご協力をいただき、計20カ所を訪問しました＝次ページに表。11年度からの通算の訪問先は73カ所になりました。出演にご協力をいただいている皆さんの「支援を継続したい」というお気持ちを受け止め、14年度も引き続き被災地を訪問する予定です。

訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
おおたか静流・大友剛	5月14日	岩手県宮古市	グーリンピア三陸宮古体育館
	5月14日	岩手県山田町	サポート拠点センター
	5月14日	岩手県宮古市	グラウンド仮設集会所
千住真理子・山洞智	6月25日	宮城県気仙沼市	愛耕幼稚園
	6月25日	岩手県陸前高田市	朝日のあたる家
	6月25日	宮城県気仙沼市	児童養護施設旭が丘学園
おおたか静流・大友剛	9月11日	宮城県七ヶ浜町	特別養護老人ホーム第二清楽苑
	9月11日	宮城県多賀城市	大代保育園
	9月12日	宮城県名取市	名取が丘保育所
千住真理子・山洞智	9月25日	宮城県気仙沼市	特別養護老人ホーム唐桑園
	9月25日	岩手県陸前高田市	米崎小学校
	10月29日	岩手県釜石市	鶴住居保育園
	10月29日	岩手県大船渡市	児童養護施設大洋学園
	10月30日	岩手県釜石市	中妻子供の家保育園
川島成道	10月30日	岩手県釜石市	釜石保育園
	11月27日	宮城県女川町	特別養護老人ホームおながわ
	11月27日	宮城県女川町	女川町地域医療センター
	11月28日	宮城県石巻市	大谷地保育所
	11月28日	宮城県石巻市	大川保育所
	11月28日	宮城県石巻市	二俣保育所

東日本大震災報道写真展（東京）

朝日新聞社、当事業団主催。三菱商事協賛

東日本大震災報道写真展を14年3月7日から19日まで、朝日新聞社との共同主催で東京・有楽町朝日ギャラリーで開きました＝写真。大震災から3年の節目に、朝日新聞社の記者が被災地を中心に撮影した写真約60点などを展示し、被災直後の被害状況や福島第一原発事故の影響、生まれ育った土地を離れて暮らす被災者、復興に歩む様子などを紹介しました。期間中に約2600人が訪れました。



11年4月～5月と12年3月、13年3月に続き4回目の開催で、これまでと同様に会場で当事業団による募金活動も実施、44万994円の寄付が寄せられました。

東日本大震災救援事業へのご寄付、13年度は4500万円

13年度の朝日新聞厚生文化事業団の東日本大震災救援事業に寄せられたご寄付は4572万1384円に上りました。東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで実施）も含めたご寄付の累計は14年3月末現在で約9万件、総額36億7265万8342円となりました。

12年度までの年度別では10年度が17億1703万9856円、11年度が17億9627万3050円、12年度が1億1362万4052円です。

【ご参考】

●事業団一任のご寄付の使途

東日本大震災救援募金（12年3月末まで）は、11年7月から原則として朝日新聞厚生文化事業団独自の震災救援事業のためのご寄付に切り替えさせていただきました。東日本大震災救援募金のうち、使途について「朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できたご寄付と、当事業団の震災救援事業へのご寄付を合わせて、「こども応援金」「子どもグリーフステーション」「グリーフキャンプ」「朝日のあたる家」「被災地ビジット」など、当事業団独自の被災者救援事業に充てさせていただいています。

●お預かりしたご寄付の配分

救援募金のご寄付のうち、いわゆる「義援金」として寄託された分や、使途についてのご意思が確認できない分は「お預かりしたお金」として総額24億6991万9348円を12年10月までに配りました。内訳は以下の通りです。

- ①岩手県災害義援金募集委員会、宮城、福島両県災害対策本部に各2億円の計6億円（11年4月）
- ②宮城県（災害孤児・遺児支援基金）2億5千万円、岩手県（いわての学び希望基金）2億円、福島県5千万円の計5億円（11年7～8月、いずれも震災で親を亡くした孤児・遺児のための使途指定）
- ③日本赤十字社に4億6741万9348円（11年3～4月と7月、12年3月、4月、10月）
- ④宮城、岩手、福島、茨城の各県社会福祉協議会に各1億円の計4億円（11年3月）
- ⑤宮城、岩手、福島県の各共同募金会に被災した施設・団体への助成金として各1億円の計3億円（11年11月）
- ⑥災害ボランティアセンター運営費として被災地の市区町村社会福祉協議会70団体に計1億9千万円（11年5～8月）
- ⑦福島県内の社会福祉施設に放射線量測定器計250台を配るため同県社会福祉協議会に1250万円（11年7月）

子 ど も の 福 祉

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

当事業団主催

2014年の春に高校を卒業し、夢の実現に向けて進学する高校生に、入学時に必要な入学金など、最大100万円を贈る「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」を実施し、内定者のうち辞退者6人を除く20人に合計約900万円を贈りました。

3月23日、24日には19人が参加して、「進学応援金の集い」を開催。23日は東京都江東区の東京スポーツ文化館で、将来の暮らしや学生生活の抱負、施設を出る不安などをグループごとに語り合いました
＝写真。



この日は、前年度に進学応援金を受けて進学した2人が激励に訪れました。さらに児童養護施設で育ち、同じように社会的養護などで暮らす子どもや若者を支援しているNPO法人なごやかサポートみらいの清水真一さん、関戸敏夫さん、NPO法人ふたばふらっとホームの原島一実さんも加わり、子どもたちの声に耳を傾けました。

話し合いの後は、シンガー・ソングライターの高橋涼子さんによるコンサートを楽しみました。曲の合間に、高橋さんのオリジナルソング「守って下さい」への思いを紹介した関戸さんは「つらいときには頑張り過ぎず、助けを求めてもいい」と参加者に呼びかけました。



参加者が思いを書き込んだ手形

翌日は東京ディズニーシーを観光しながら、交流を深めました。

●社会的養護で暮らす子どもの進学

児童養護施設には約3万人の子どもが暮らしています。この子どもたちの高校卒業後の進学率は約2割で、全国の高校卒業者の平均と比べ大きな差があります。中学を卒業し就職する子ども、高校を中退する子どもも少なくありません。虐待など、さまざまな困難を経てきた子どもたちにとって、「進学」はまた困難なものになっています。進学後も親などに頼ることができないために、経済的に困窮したり孤立したりして、中退せざるを得なくなる子どももいます。

12年度に進学応援金の贈呈を受けた人を対象に事業団が行ったアンケートでは、熱心に勉強に取り組み、生き生きとした学校生活を送る様子の報告がある一方で、生活費や学費を得るためにアルバイトと勉強を両立することの困難な状況や生活への不安がつづられています。

アンケートの回答の一部

- ・アルバイトをしなければ家計が成り立たない。休む暇がなく精神的に疲弊し、よく体調を崩す
- ・アルバイトが朝は早く、夜も遅いため、勉強の時間の確保が困難
- ・時間がない
- ・学費を稼ぐのが大変
- ・多額の奨学金を借りているので、少し将来に不安がある

●多くの子どもが安心できる社会に

「自分が勉強できることがどれほど恵まれているのか。そのありがたみをかみしめて、より勉学に力を注いでいきたいです。そして、私が社会人になったら、事業団に寄付をして、児童養護施設や里親家庭で暮らした子どもをサポートしたいです」。アンケートには、これから児童養護施設などを巣立つ高校生らを応援したいという意見も多く寄せられました。

この進学応援金で支援ができる高校生の人数には限りがあり、申込者の多くにやむを得ずお断りをしなければならない状況が毎年続いています。限られた人数ですが、贈呈した一人ひとりの未来が拓（ひら）かれることが、私たちの何よりの願いです。そして、彼らが自立して暮らし、社会的養護で暮らす子どものために社会に働きかけ、影響を与えてくれればとも、期待をしています。

多くの子どもたちが安心して自分の未来を描ける社会が実現されることを目指し、今後も取り組んでいきます。

社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」

●全国ネットワークで情報交換

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことがある人たちが中心になって活動するグループと朝日新聞厚生文化事業団が、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」を2010年4月に結成。以来、月に一度程度の定例会議で情報交換をしながら具体的な活動について話し合っています。

●研修会「社会的養護のピアサポートグループで最も大切なこと」

米国のキッズハートツーハワイの創始者シンシア・ホワイトさん＝写真＝とディレクターの伊藤ヒロさんを講師に、社会的養護の当事者団体で活動する人を対象にしたリーダーズトレーニング「社会的養護のピアサポートグループで最も大切なこと～グリーフケアの視点から～」(社会的養護の当事者グループ全国ネットワークこどもっと、朝日新聞厚生文化事業団主催)を11月23日、24日に朝日新聞東京本社で開催。日本国内の8つの当事者団体で中心となって活動する人ら12人が参加しました。



ホワイトさんは、社会的養護の当事者活動の意義として、「子どもたちが意見を言うことや自分の生き立ちを語ることによって、社会福祉を変えていくことができると思っています」とキッズハートツーハワイの姿勢を紹介。当事者の声が制度を変えたハワイ州の例に触れ、「みなさんは、



日本のシステムを変えていく実践者になれます。どこを変えるべきか、どこを変えてはいけないのかを知っているからです」と話し、「みなさんの声は力です」とエールを送りました。

「同様の経験をしている」というピアサポートの強みの視点から、当事者によるグループ運

営についても解説。グループの中で当事者活動をする人が自分の喪失体験などを語るることによって「あなたに起こったことは、話をしても大丈夫なんだ、と子どもに伝えることができます。また、支援をする私もあなたと対等だ、と知ってもらうこともできます」と述べ、同じように施設で育った人と出会い、話し合うことにより、さまざまな問題を、自分一人のこととして抱え込まずに済むと話しました。

研修では、自分自身の生き立ちを振り返ったり、子どもの話を寄り添って聴いたりするためのワークショップや自分の感情の変化やグリーフに気づくためのトレーニング、グループのコーディネートトレーニングなども行い、実践的で濃密な研修となりました。



●社会的養護と当事者の声

虐待をはじめ何らかの事情で実の親と離れて暮らさなければならない子どものために、家庭に代わる養育の場として制度的に用意されているのが児童養護施設や乳児院、里親家庭などです。こうした制度を「社会的養護」と言い、約4万6千人の子どもがこの制度を利用しながら全国で暮らしています。

虐待などの不安定な生活環境に置かれていた子どもは、心や体の成長に遅れや偏りがあることが少なくありません。そのため、安心できる環境の中で周囲の人に大切にされながら、じっくりと養育を受けることが欠かせません。

しかし第2次大戦後に「戦災孤児の保護」のために整えられ、大きな見直しを経ずにきた社会的養護は、子どもたちが安心できる暮らしや、自分らしく社会で生きるための準備をする環境を整えることができていないのが実情です。制度そのものが子どもへの「社会的な虐待状態」と言われることすらあります。

例えば、施設で暮らす多くの子どもは高校卒業と同時に自立を迫られます。中学校卒業や高校中退と同時に施設を出る子どももいます。しかし、不安定な環境に育ち、頼れる親族も、帰る場所も、お金もない彼らの多くは、努力だけでは抜け出せない大変な困難を強いられます。

この社会的養護について、構造を含めての見直しが少しずつ始まりました。

あるべき社会的養護を実現するためには、そこで暮らす子どもや暮らしたことのある人たち「当事者」の声が制度に生かされなければなりません。各地で活動を始めた、社会的養護を受けたことのある人による当事者団体が「子どもの声」を聴き、力を合わせ、様々な立場の人の協力を得ながら、社会的養護の改革の核となることが期待されます。

ピア・キャンプの開催（静岡）

当事業団、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」主催
日本キャンプ協会、静岡県キャンプ協会後援、原田積善会協賛、サポートいずみ、ひだまり協力

こどもっと設立以来、継続しているピア・キャンプは、9月14日、15日に、静岡県立朝霧野外活動センターで実施。参加者とスタッフで合わせて約30人が参加しました。例年通り2泊3日のプログラムを予定していましたが、台風の接近に伴い、安全を考慮し、1泊2日に短縮しました。

ピア・キャンプでは①高校生が楽しむこと②高校生同士や当事者スタッフがじっくりと語り合うこと③そのために少人数の班でプログラムを行うことを大切にしています。

前年度からは、参加者がゆっくりと気持ちを話し合ったり、分かち合ったりするための活動として、「仲間や先輩と語ろう～未来に向けて」を行っています。今回も、同じような体験をしている仲間や先輩と一緒にキャンプを過ごし、関係を深め、日頃の暮らしの中で話をする機会が無かったり、話をしにくかったりすることを安心して話し合えるよう、全体のプログラムを検討し、準備を進めてきました。

台風のために、サイクリングやキャンプファイアーなど、一部のプログラムは中止となりましたが、仲間と過ごした時間は、高校生にとって貴重なものになったようです。

【参加者アンケートから】

- ・同じような環境で生活をしているから共感して話を聞き、いろんなことを理解できたと思いました。
- ・当事者活動をして、社会的養護（特に施設）の状況の改善のための話をしたい。
- ・自分だけが苦しい思いをしているわけじゃなかった。理由はみんなバラバラだけど、「仲間がいる」って思った。
- ・来年、また私を参加させてほしい。きれいな星空をみたい。
- ・みんな楽しそうでこういう活動がもっとあればいいなと思いました。



「子どもシェルター」の講演会（千葉）

当事業団、子どもセンター帆希主催
千葉県、千葉市、協同組合千葉県若人自立支援機構、子どもシェルター全国ネットワーク会議、千葉県弁護士会後援

シンポジウム「子どもシェルター～居場所のない子どもたち～」を1月25日に千葉市稲毛区の千葉大学けやき会館大ホールで開催し、300人が参加しました。

子どもシェルターは、虐待などにより家庭で暮らすことのできない10代後半の子どもを一時的に保護する施設です。虐待する親などから本人の意思で分離された子



どもは、シェルターに常駐する職員や弁護士らの支援を受けます。現在、東京や京都、和歌山など9都道府県で運営されています。

こうした子どもシェルターを千葉県内に設立する準備を進めている子どもセンター帆希(ほまれ)と朝日新聞厚生文化事業団が協働し、このシンポジウムを行いました。



オープニングで、作家の落合恵子さん＝写真＝が「私たちにできること」と題して講演をした後、子どもシェルター帆希事務局長の安井飛鳥さんが登壇。「助けを求めても、助けてくれる場所が無く、そうした大人もいない子どもたちは、自己肯定感や他者への信頼を失ってしまう。自傷や犯罪に至ってしまうこともある。こうした今まさに助けが必要な子どもたちのためのシェルターを作りたい」と語り、シェルターの必要性を訴えました。

続くパネルディスカッションで、日本で初めての子どもシェルター「カリヨン子どもの家」などを東京で運営する坪井節子さんは「子どもたちは、私たちが経験したことの無いほどのつらさを経験しています」と述べ、支援の必要性、留意点を解説するとともに、支援者一人にできることには限界があると指摘。そのうえで、「私たちにできることは、その子を独りぼっちにしないこと」と、関係者が一体となって子どもが安心できる環境を整える意義を訴えました。

講演会「大切な人を失った子どもたち～これからのグリーフケア～」(東京、大阪)

当事業団、子どもグリーフサポートステーション主催

講演会「大切な人を失った子どもたち」を6月29日に大阪市住之江区のホテルコスモスクエア国際交流センター(NPO法人ぐりーふサポートハウス後援)、30日に東京・浜離宮朝日ホールで開きました。合わせて約450人が参加、これからのグリーフ(悲嘆)ケアのあり方を探りました。

30日の東京での講演会では午前中、米国ハワイを拠点にしているNPO「キッズハートツーハワイ」のエグゼクティブ・ディレクター、シンシア・ホワイトさんが「大切な人を失った子どもを支えるということ」と題して講演しました＝写真。



「キッズハートツーハワイ」は、2001年にホワイトさんがパートナーの伊藤ヒロさんと創設した団体で、死別や離婚、虐待などで親や身近な人を喪失した子どもへのグリーフサポートに取り組んできました。ホワイトさんは、この活動を、サポートを受けている子どもたちの生き生きとした映像に合わせて紹介し、11年から続けている東日本大震災の被災児支援の取り組みにも触れました。続いて、脳の機能にも影響を与える「トラウマ」と、喪失への自然で健全な反応である「グリーフ(悲嘆)」との違いを踏まえて、子どもたちのケアの手法を説明。癒やしを生み出すことができる人々や場所、支えになるピア(仲間)グループ、いつも利用できる人々のつながり、などの社会的ネットワークも重要であることを強調しました。



午後には作家の落合恵子さんが「悲しみに向き合う」の演題で講演＝写真。「知性とは、他者の痛みに対する想像力から生まれるもの」であることを教えてくれたという母とのつながりをはじめ、自らの歩みを振り返りました。自分の悲しみ、

痛みと向かい合う一方で、社会の中のさまざまな差別や偏見と戦ってきたことをユーモアを交えて披露。グリーフケアのあり方を深く考えさせる内容に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

講演会の最後は「これからの日本のグリーフケア」をテーマにしたトークセッション＝写真。ホワイトさん、落合さん、NPO法人「子どもグリーフサポートステーション」代表の西田正弘さん＝写真＝の3人が、自らの喪失体験やグリーフとの向き合い方や社会のあり方も含めて語り合い、「人は、いろんな人とのつながりの中で悲しみ、痛みを振り回されない『体力』をつけていける」（西田さん）など、人のつながりの大切さ、子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合っていく大切さを確認しました。



子どもに寄り添うファシリテーターについて、「話をちゃんと聴いてくれる人がいると、話せるようになる」「ファシリテーターは子どもたちからもらうものの方が多い」「ファシリテーター自身も自分のグリーフを見つめ、自身を大事にする必要がある」などの発言もありました。



29日の大阪での講演会では、大阪のぐりーふサポートハウス副理事長の佐藤まどかさんによる実践報告もありました。

第60回朝日夏季保育大学（長野）

当事業団主催。長野県、諏訪市、全国社会福祉協議会、
長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援。大同生命厚生事業団協賛

保育従事者の技術と教養の向上のために始まった朝日夏季保育大学。13年度は第60回の記念の開催となりました。7月26日、27日、長野県諏訪市の駅前市民会館で開き、保育士をはじめ、幼稚園の先生ら、「乳幼児の健やかな育ち」を願うのべ約900人が参加しました。

オープニングは、作家で子どもの本の専門店クレヨンハウスを主宰する落合恵子さんの講演「子どもと絵本～この時代を生きる～」。

落合さんは、東日本大震災で被災した人に絵本を送るプロジェクト「HUG & READ」などの活動に触れながら、「子どもたちが、生まれてきて良かったと思える社会と時代をつくる責務が私たちにはある」と語りました。また、子どもたちと向き合うために、子どもの頃の自分や自分自身に向き合うことの必要性を説きました。

続いて、白梅学園大学の汐見稔幸さんは、日本の子どもの自尊感情の低さを、複数の調査などをもとに解説し、ありのままの子どもを受け止めることの大切さを語りました。また、「本来必要な『褒め方』は、その子らしさを認めてあげること」と話し、子どもの絵を褒める場面の例をあげて具体的に説明しました。

初日の最後の講演「子どもの最善の利益を考慮した保育の実践」で、武蔵野大学客員教授の網野武博さんは「子どもの行動を『反抗』と思うのは、力関係の有利な大人の立場からのとらえ方。子どもを人として尊重する視点でとらえれば、意見や思い、願いをぶつけていると理解できる」と話し、「子どもを尊重し、信頼し、見守る」ことの必要性を繰り返し述べました。また、「声なき声も含めて子どものニーズを受け止め、寄り添う保育をしましょう」と呼びかけました。

2日目の午前中は、絵本作家の長谷川義史さん、歌手のおおたか静流さん、ミュージシャンでマジシャンの大友剛さんによるステージ、「絵本と音楽とマジックの世界～子どもの世界を彩る3つの魔法～」＝写真。長谷川さんによる、絵を描きながら物語を展開する「ライブ紙芝居」、絵本の朗読、ウクレレの演奏、おおたかさんの歌遊び、大友さんのマジック、ピアノ・鍵盤ハーモニカの演奏など盛りだくさんのステージが展開されました。歌と演奏に合わせてイメージを描く「ライブペインティング」では、赤ちゃんをテーマにしたおおたかさんの歌に合わせて、おなかの中にいる赤ちゃんのイメージを長谷川さんが描きました。大友さんは、マジックを披露しながら、東日本大震災の被災地で子どもたちにマジックを教えたときのエピソードを紹介。「マジックを覚えた子どもが、親や周りの人に披露し、みんなが笑顔になった。マジックを通して子どもが自信を持ってくれたら」と話しました。



午後は、朝日夏季保育大学で、近年特に力を入れている「発達障害の子ども」に関する講座。今回は、児童精神科医の藤岡宏さんに発達障害の子どもをはじめすべての子どもが安心して暮らすために有効な「構造化」について解説していただきました。藤岡さんは、構造化を、活動場所の環境を整える「物理的構造化」と予定を視覚的に理解するための「スケジュール」、子どもが自主的に活動するための「ワークシステム」、視覚的にものごとを理解するための「視覚的構造化」に分類。「構造化は考える力を身に付け、育てるもの。成長に合わせて構造化も変えていく必要がある」と話し、構造化の工夫や改善方法を具体的に説明しました。

第60回記念の最後の講座は、社会運動家の湯浅誠さんによる「貧困の実態～次世代のためにすべきこと～」。湯浅さんは「主に経済的な理由で他の子どもができていないことができない状態にいる子どもたちの存在は、見ようとしなければ見えない」と話し、困難な状況に置かれる子どもの実態を解説。「子どもを支えることは社会をも支えること。様々な課題に向き合い、豊かな社会を作る人になりましょう」と参加者にエールを送りました。

テーマと講師、スケジュールは次の通り（敬称略）。

7・26(金)		7・27(土)	
10:10 10:30	開講式	9:30 12:00	「絵本と音楽とマジックの世界 ～子どもの世界を彩る3つの魔法～」 ◆長谷川義史【絵本作家】 ◆おおたか静流【シンガー、ヴォイス・アーティスト】 ◆大友剛【ミュージシャン、マジシャン】
10:30 12:00	「子どもと絵本～この時代を生きる～」 ◆落合恵子【作家、子どもの本の専門店クレヨンハウス主宰】		
	昼食休憩		昼食休憩
13:00 14:30	「子どもの自尊感情を育む一保育の専門性の向上のための大切な視点」 ◆汐見稔幸【白梅学園大学学長、東京大学名誉教授】	13:00 14:30	「一人ひとりに安心できる環境を～構造化と再構造化～」 ◆藤岡宏【児童精神科医】
14:45 16:15	「子どもの最善の利益を考慮した保育の実践」 ◆網野武博【武蔵野大学客員教授】	14:45 16:15	「貧困の実態～次世代のためにすべきこと～」 ◆湯浅誠【社会運動家】

親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

当事業団主催

恒例の「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日午後1時から東京・有楽町朝日ホールで開催、家族連れら約600人がクリスマスのひと時を楽しみました。

出演したのは中川ひろたかさん（シンガー・ソング絵本ライター）と新沢としひこさん（シンガー・ソングライター）、下畑薫さん（ギタリスト）、大友剛さん（ミュージシャン）。



最初は中川さんによる絵本やパネルシアターのコーナー。次は中川さんと下畑さんの演奏で会場はちょっぴり大人の雰囲気になりました。その後登場した大友さんが、ご自身が翻訳した絵本「ねこのピート」を、会場とのかけあいを織り交ぜながら披露しました。

最後に新沢さんが加わり、出演者4人で「にじ」や「はじめの一步」「ともだちになるために」など8曲を演奏＝写真。子どもたちも一緒に口ずさみ、中川さんと新沢さんの数々の名曲を堪能しました。

絵本コーナーやパネルシアターでは、子どもがステージに上がり一緒に楽しむ場面も。2曲のアンコールを含め、計18曲が演奏されるなど、盛りだくさんの内容で、子どもも大人もみんなで楽しめるコンサートとなりました。

第30回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催、当事業団後援

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会の福祉施設に入所、通所する人の作品を展示する絵画展を7月下旬から8月下旬に市内の地下街ギャラリーなどで開きました。

25施設から593点の応募があり、特賞8点、入選37点、佳作56点が選ばれました。朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は「夢のおうち」を描いたサポートセンターbeing小本の戸島武次さんが受賞しました＝写真。



障 害 の あ る 人 の 福 祉

自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）

自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会、当事業団主催

厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、全日本手をつなぐ育成会、日本知的障害者福祉協会後援

「自閉症カンファレンス NIPPON 2013」を8月24日、25日、東京都新宿区の早稲田大学で開催、全国から福祉・教育・医療関係者、家族ら約1200人が参加しました＝写真。自閉症の人たちへの支援の会議としては国内最大級で、今回が12回目。

佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授＝写真左＝の開会宣言に続き、内山登紀夫・福島大学大学院教授と米国・ノースカロライナ大学の元TEACCH部部長ゲーリー・メジボフ教授＝写真右＝が「自閉症とASD（自閉症スペクトラム）—あたらしい診断の指針」と題して、アメリカ精神学医学会の診断の手引（DSM）の改訂で、これまでの知的障害の重い自閉症とアスペルガー症候群・高機能自閉症などの捉え方の変化による影響を解説。午後はメジボフ教授が「自閉症支援に最もたいせつなこと」の演題で大切にしている言葉を軸に支援の考え方を語りました。



2日目の「教育と就労と自閉症のもんだい」では、ヒューバート・真由美（立命館大学特別ニーズ学生支援室）、山田愛子（広島県発達障害者支援センター）、高橋亜希子（ジョブジョイントおおさか）、坂井聡（香川大）、志賀利一（国立のぞみの家）の各氏が、高等教育を受けた人が就労で困っている実態と支援の取り組みについて話し合いました。午後は佐々木教授が「自閉症の人たちと出会って」と題して、自身の半世紀の歩みを振り返りながら、「自閉症のまま、学び、働き、適応できる環境を作る」意義を強調。メジボフ教授が「TEACCHプログラム・コアバリュー2013」と題して、「自閉症の違いを文化として理解し、受け入れ、好きになり、敬意を持つこと」「自閉症スペクトラムの人や家族の生活を変えるようなスキル、行動、可能性の拡大を目指すこと」の重要性を指摘しました。

3分科会計15の国内の実践報告や、各地の活動を報告するポスターセッション、入門解説講座「基礎からの構造化」、「基礎からの評価と自立課題」、特別講座「医療サポートセミナー」、「コミュニケーション機器セミナー」のほか、最新DVD「自閉症の人が求める支援」の上映なども行われました。

自閉症の人たちへの支援のプログラムとして根付いた日本の「TEACCHプログラム」の実践の始まりは、1989年にプログラムの創始者、故エリック・ショプラー教授と3人のトレーナーを日本に招き、当事業団などが開いたトレーニングセミナーです。その後自閉症の人への理解を深めようと2002年から毎年、このカンファレンスを開催してきました。今回の2日間も佐々木教授を中心とした実行委員会と、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって運営されました。「自閉症を正しく理解する」支援者の輪をさらに広げ、新たな未来を開いていくことを目指します。

メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(鹿児島、山形、宇都宮)

当事業団など主催

「自閉症カンファレンス」のために来日したノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授の講演会「自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと」を8月27日に鹿児島市・みなみホール、31日に山形国際交流プラザ山形ビッグウイング大会議室、9月1日に宇都宮市・とちぎ健康の森講堂で開催。合わせて約1050人が参加し、「自閉症の人たちの学習スタイル～正しく理解する」「構造化された指導～自閉症の学習スタイルに合わせた支援」「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー」の5時間の話に耳を傾けました。

原因が特定できず、理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえ正しく理解されていないことが多く、そのことが本人たちの生活の上での困難をさらに増やし、複雑にしています。適切な支援をするために必要なのは「自閉症の人たちを正しく理解すること」です。いま世界で最も認められ、実践されている自閉症の人たちへの支援モデルであるTEACCHプログラムを今日の世界規格に育て上げたメジボフ教授は、「自閉症は脳の障害（damage）ではなくて脳の働き方の違い（difference）であり、その違いを正しく理解することが大切」と強調しました。

講演会は2004～08年度に熊本、長野、京都、青森、奈良、09年度は札幌と沖縄県豊見城、10年度は高松、11年度は福岡、宮崎、12年度は長崎、盛岡、福島、仙台の各市で開催、地元の関係者に多大なご協力をいただきました。講演会をきっかけに、自閉症の人たちへの支援活動が地域で根を張り充実するように、今後も各地の関係者と協力しながら、活動を積み重ねていきます。

(鹿児島会場は鹿児島県自閉症協会、当事業団主催、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、鹿児島県医師会、鹿児島県社会福祉協議会、南日本新聞社後援、山形会場は山形県自閉症協会、当事業団主催、山形県、山形市、山形県教育委員会、山形県発達障がい者支援センター、山形県社会福祉協議会、宇都宮会場は栃木県自閉症協会、当事業団主催、栃木県、宇都宮市、栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会、栃木県発達障害者支援センター、栃木県障害施設・事業協会、栃木県社会就労センター協議会后援)

朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援」

朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～」を制作、13年秋から頒布を始めました。自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した、画期的なDVDです。

①「スケジュール」や「視覚支援」などの具体的な要素を解説した「基本編 基礎からわかる構造化」②学校の教室を例に生徒に合わせた環境の作り方などを具体的に紹介した「実技編 構造化と再構造化のしかた」③さまざまなケースを収録し、共通する支援の考え方と方法、それぞれに合わせた個別の支援について、より理解を深められる「実践編 自立のための構造化」の3巻で、監修は佐々木教授とメジボフ教授。3巻セット特別価格9900円(14年9月末まで)、各巻4320円(ともに税込み)。



J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク) 会議 (東京)

当事業団、NPO法人J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク) 主催

「ジョブコーチ」とは、障害のある人と企業の双方をサポートする役割を担う支援者です。そのネットワーク「J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク)」は、当事業団の支援で2004年度に創設され、05年度にはNPO法人を取得し、厚生労働省指定の「職場適応援助者養成研修」などの事業を積極的に展開しています。

当事業団は、ジョブコーチの正しい理解、普及を図り、障害のある人の就労を支援する人材や資源を育成するために、J C-N E Tとの共同主催で、3月8日、9日に「J C-N E T会議」を東京都多摩市の大妻女子大学多摩キャンパスで開催。就労支援の専門家ら約400人が参加し、障害のある人の雇用制度が激変する中での就労支援のあり方などについて話し合いました＝写真。



この「J C-N E T会議」は今回で10年の節目(9回目)を迎えました。この間の制度の充実に伴う社会状況の変化と、何より障害のある人の就労支援に関わる環境が激変する中で、ひとまず当事業団の役割は終えたものと判断し、13年度事業をもって主催での開催を終え、NPO法人J C-N E Tに引き継ぐことになりました。

10年目で9回目というのは、11年3月12日(土)、13日(日)に開催を予定していた10年度の会議が、その前日に起こった東日本大震災により、急きょ中止せざるをえなかったからです。寄付の受け付けなど、震災対応の準備のかたわら、夜を徹してメール、ファクス、電話による参加予定の方々への連絡や、中止の手続きの各方面への連絡、参加費の返金作業や資料送付作業などに奮闘したことが思い起こされます。

今回の会議の概要は次の通りです。(敬称略)

【8日】「キーノート・スピーチ」小川浩(J C-N E T理事長・大妻女子大学)

▽シンポジウムⅠ「医療と就労支援」

▽ワークショップⅠ

- ①「第2号ジョブコーチの役割と必要な知識～事例を通して検証する」
- ②「発達障害者の就労支援～想像力の障害に配慮する。経験と振り返りを組み合わせた支援」
- ③「就労支援における就労相談の課題とこれから」

▽入門講座Ⅰ「ジョブコーチとは」「アセスメントとジョブマッチング」

【9日】ワークショップⅡ「ジョブコーチセミナーを活用した就労支援ネットワーク作り」

▽実践発表分科会Ⅰと実践発表分科会Ⅱ

▽入門講座Ⅱ「分かりやすく教える技術と環境の工夫」「ジョブコーチの役割とナチュラルサポート」「フェイデングとフォローアップ」

▽シンポジウムⅡ「若手が語る就労支援～これまでの歩み そしてこれから目指すもの」

第30回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

全日本ろうあ連盟、当事業団、朝日新聞社主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。NEC協賛。東京都聴覚障害者連盟協力

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」を8月31日に東京都中央区晴海の第一生命ホールで開催しました。

1984年から始まったこの催しは、今回で30回目。全国の応募者97人から原稿と映像の審査で選ばれた高校生10人が約500人の来場者の前で、手話と音声と同時に使ったスピーチを披露し、日ごろの練習の成果を競いました＝写真。

第1位には静岡県立沼津西高2年の山内菜帆さん＝写真上＝が輝きました。山内さんは「見えない壁を乗り越えて」と題して、耳が一時、聴こえなくなった時に手話と出合った体験を柱に、力強いしぐさでスピーチ。「真のバリアフリー社会を築くために貢献したい」と抱負を述べました。

2位には幸田美花さん（東京・恵泉女学園高校3年、写真中）、3位には三宅花奈さん（兵庫県立尼崎高校3年、写真下）が選ばれました。

入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやスマートブックなどの賞品が贈られました。また、参加者全員にNECから手話スピーチの録画DVDと記念品が贈られました。

開会式では、秋篠宮妃紀子さまが手話を交えたスピーチで出場者を励まされるとともに、「聴覚障害の方の生活や手話に対する理解が深まり、皆が豊かに暮らせる社会が築かれるよう願います」とお述べになりました。

30回の節目となった今回は、会場入り口にコンテストの30年の歩みをパネルの形で紹介。過去のポスターや朝日新聞紙面のほか、第1回の大学生の部で1位になり、現在は世田谷福祉専門学校の手話通訳学科長を務める飯泉菜穂子さんと、第22回2位で女優の貴田みどりさんからいただいたメッセージなども展示。紀子さまも、長女の眞子さまとともに熱心にご覧になりました。

特別プログラムでは、ろう学校出身の弁護士で聴覚障害者の人権と福祉の向上に取り組んできた松本晶行さんが「聴覚障害者の暮らしと運動」をテーマに講演しました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、君島淳二・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、宮本一郎・東京都聴覚障害者連盟理事長、久松三二・全日本ろうあ連盟事務局長、西滝憲彦・全日本ろうあ連盟理事、各務滋・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。



3位までを除く入賞者と出場者は次の通りです。(敬称略)

奨励賞＝具志堅友香(沖縄県立真和志高校3年)、冨塚楓(神奈川県立横浜南陵高校2年)▽審査員特別賞＝菅沢亮太(大分・楊志館高校3年)

出場者＝金丸琴音(北海道・石狩翔陽高校2年)、橋本舞花(東京・神田女学園高校3年)、尾崎葵(愛媛県立大洲農業高校2年)、切通恵太(福岡県立久留米筑水高校2年)

講演会「高次脳機能障害の当事者が伝えたいこと」(岩手、愛知)

当事業団など主催

交通事故や病気で脳を損傷した高次脳機能障害の人たちは、日常生活の中でさまざまな問題に直面しています。当事業団では、当事者とその家族、医療・福祉関係者らを対象に講演会を開催してきました。2009～12年度の「高次脳機能障害を理解する」「高次脳機能障害のひとを支援する」「高次脳機能障害がよくなるということ」「高次脳機能障害の当事者・家族を支援する」に続き、13年度は「高次脳機能障害の当事者が伝えたいこと」と題して、岩手、愛知の両県で実施しました。

高次脳機能障害の当事者は、受傷、発症前の経験も、その後の後遺症もさまざま。この障害に対する一般の理解が進んだとはいえ、まだまだ家族や友人、学校、職場など、人との関わりの中で、当事者がどのように悩み、感じているのか、十分理解できていないのが実情です。当事者たちの言葉に耳を傾け、彼らが作った木工や手芸作品などに触れ、周りの人たちがどのように理解し、どう寄り添うのかを考えるのが講演会の狙いです。

●岩手

7月20日、盛岡市大通1丁目の県産業会館で、NPO法人いわて脳外傷友の会イーハトーヴと当事業団の主催で開催、120人が参加しました。

国立成育医療研究センター・発達評価センター長の橋本圭司さんが「当事者との接し方」について、「高次脳機能障害は左脳にダメージを受けると、集中力が低下しうつ病のような症状が出ることもあるが、周囲の環境を整え、具体的な指示や提示をすることで作業ができるようになることもある。とにかく本人が自分で決定することが大事だ」と説明しました。

続いて、橋本さんと対談した河原和子さん＝写真＝は、1990年、結婚して1カ月後に通勤の途中で交通事故に遭い、くも膜下出血、硬膜外血腫、脳挫傷を発症し、左脳の萎縮、右半身のしびれが残りました。

退院後、高次脳機能障害と気づかぬまま、出産、育児と家庭生活を続けてきました。自身が高次脳機能障害であることは、3年前に診断を受けて初めて知りました。障害が軽度だったために、周囲の人たちに気持ちを理解してもらえず、生きづらさをずっと感じてきたそうです。

休憩の後、小学生の時、脳出血で失語、記憶障害、軽



片まひが残る高山仁志さんが見事なバイオリン演奏を披露しました。

シンポジウム「輝いて生きるということ」には、河原さん、高山さんに、交通事故で重度の身体障害がありながら、歩くことに生きがいを見いだしたという堀間真さんが加わりました。

コーディネーターを務めた栃内第二病院主任臨床心理士の山舘圭子さんは「高山さん、堀間さんのポジティブなエネルギーが周囲を変えている。誰もが輝き、お互いの輝きを生かし合える存在になれば、私たちの社会はもっと良くなるはず」。オブザーバーの橋本さんは「当事者は支援を受けるばかりでなく、もっと発信していく存在にならないといけない」と締めくくりました。

●愛知

11月16日、愛知県豊橋市・あいトピアで、NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」と当事業団の主催、大同生命厚生事業団後援で開催、150人が参加しました。

橋本さんがまず、「姿勢を正して、深呼吸をすることと、運動が大事」と語り、障害の基本的な理解、対応の仕方を説明した後、脳出血で高次脳機能障害と身体障害を発症した川内美紀さんと、交通事故で高次脳機能障害になった大西あずささんと、鼎談（ていだん）。

「事故や発症の前後で、どのように変わったのか」という質問に、川内さんは「人の顔が覚えられなくなり、複雑な事務処理もできなくなりました」。今は金融機関にパートタイムで勤め、顧客のアンケートの入力作業をしているといいます。現在、アルバイトで顧客の住所の宛名入力をしている大西さんも「どこまで入力したのか、時々わからなくなる。作業中に話しかけられると、何をしていたのか忘れてしまいます」。2人とも、人との関わりが難しくなったと一様に答えました。

休憩後、石井雅史さん、智子さん夫妻が登壇し、雅史さんは高次脳機能障害の当事者として、智子さんは家族として、それぞれの思いを語った後、主治医でもある橋本さんが再登場し、鼎談に移りました＝写真。



雅史さんは、競輪選手だった2001年にトレーニング中の交通事故で言語や記憶の障害に苦しみ、障害者自転車競技に転向、08年の北京パラリンピックで金メダルを獲得しました。翌年にはイタリアでの世界選手権で2度目の事故を起こし、上半身数カ所を骨折、肺や腕神経叢（わんしんけいそう）の損傷も負いましたが、12年のロンドン・パラリンピックでも6位になるなど、活躍を続けています。「身体障害と高次脳機能障害を持ちながらのロンドンの6位は、北京の金以上に価値がある」と橋本さんから評価されていました。

また、「人は絶望の淵に立たされた時、『感謝』か『絶望』かのどちらかを選択するが、石井夫妻は？」と、橋本さんが話題を智子さんに向けると、智子さんは「夫の事故で絶望と混乱はあったが、自分に仕事があることで、気持ちの切り替えができた。精神的に行き詰まった時に橋本先生に出会い、夫が子守りをして、私が働きに出てみたらというアドバイスをいただき、閉塞感のあった私にとって突破口になりました」と振り返りました。雅史さんも「妻に笑顔が戻ったことで、家族としての幸福を感じた」と笑顔で応じました。

第16回なるほど！なっとく!!高次脳機能障害 ～さらなる理解を求めて（名古屋）

NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」主催。当事業団後援

高次脳機能障害の理解を広めることを目的として、毎回テーマを絞ってのシリーズ開催です。今回は14年2月9日に名古屋市中区の朝日ホールで開きました。東京慈恵会医大の渡辺修教授（リハビリテーション医学）が「高次脳機能障害の理解と支援」をテーマに講演。病院を出た後の社会制度の使い方について、症例を交えて話されました。渡辺氏を交えての対談では、高次脳機能障害を地域でどのようにつなぎ支えていくべきかを話し合いました。家族や行政、医療、福祉関係者ら約200人が参加しました。

朝日福祉ガイドブック「なるほど高次脳機能障害」

高次脳機能障害とは、脳の役割のうち、言葉や動作、物事の理解や記憶などに関わる広範な機能に問題が生じる障害のことを言います。この障害は誰もが当事者になる可能性があり、その数は50万人以上とも言われています。

当事業団が13年春から頒布を始めた朝日福祉ガイドブック「なるほど高次脳機能障害～誰にもおきる見えない障害」は、「見えない障害」とも言われる高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、退院、リハビリテーション、社会参加まで、その人の人生にかかわる全体のことを網羅し、やさしく解説しています。

監修は、豊富な臨床経験をもつ国立成育医療研究センター・発達評価センター長の橋本圭司さん。B5判88ページ、1296円（税込み）。



うつ病についての講演会（宮城、東京、大阪）

当事業団主催。地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会など後援

うつ病への理解を深め、うつ病の人を支える仕組みを考える講演会を宮城、東京、大阪で開催し、合わせて約470人が参加しました。

●宮城、東京

2011年3月に起きた東日本大震災の後、深い喪失によるうつ病などの精神的な問題を早期発見するために、宮城県女川町では、行政、民間、医療機関などが連携してネットワークを築き、住民の心のケアに取り組む仕組みを作りました。このような地域再生の取り組みは、被災地に限らず、これからの日本社会のどの地域でもとても参考になるものです。

女川町の取り組みを例に、住民の「こころ」を支えていくための地域精神保健のあり方を考えるため、講演会「うつ病の予防と早期発見～被災地の喪失への支援を被災地に学ぶ～」を6月1日に宮城・エルパーク仙台で、6月15日に東京・浜離宮朝日ホールで開催しました。

保健師などの支援者や一般の方々など、仙台で約100人、東京で約200人が参加。精神科医で国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター長の大野裕さん＝写真、東京会場＝が被災地の喪失とその支援に焦点をあて、うつ病の予防と早期発見について講演し、女川町健康福祉課の保健師佐藤由理さん、東北大学大学院医学系研究科松本和紀さんが女川町及び宮城県の取り組みを実践報告し、最後に講師3人によるパネルディスカッションを行いました。



「人とのつながりや地域への信頼はうつ病を予防する」ことを示し、女川町で地域の再構築を目指し作られた「女川町こころとからだづくりの相談センター」の取り組みを例に、支援の仕組みを日本社会にどのように広げていくか、その可能性について探りました。

（仙台：仙台市、みやぎ心のケアセンター、地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援、東京：地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援）

●大阪

「みんなでうつを考えよう～うつ病の人への支援～」と題し、6月29日、大阪YMCA国際文化センターで開催、うつ病の当事者や家族ら約170人が参加しました。

宮城、東京に続き、まず大野裕さんが講演。うつ病を分かりやすく整理するとともに、面接の例を映像で流し、うつ病の人の声に耳を傾ける姿勢や認知行動療法について解説しました。その後、精神保健福祉士でNPO法人精神障害と社会を考える啓発の会代表理事の佐藤恵美さんが、うつ病の人を支える制度について紹介し、制度の使い方や支援の求め方を話しました。最後に大野さんと佐藤さんによる対談で、うつ病の人を支えるために、学校や職場、地域でどのような環境を整えていけばよいのかを参加者と一緒に考えました。

（精神障害と社会を考える啓発の会、地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援）

視覚障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）

当事業団、聖明福祉協会主催

視覚障害のある大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」の貸与式を7月6日、東京都内のホテルで開催し、第45期生の田原光さん（沖縄国際大学）と松本葵さん（和光大学）の2人の門出を祝いました。田原さんの夢は英語の教員になることで、松本さんの夢は教員か児童相談所の職員になることです。

貸与式では、聖明福祉協会の本間昭雄理事長が「社会に出て活躍している先輩達に負けないように期待したい」と励ましました。当事業団の大井屋健治事務局長が審査経過を報告したあと、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課の君島淳二・自立支援振興室長が「視野を広げて勉強し、きちんとしたことがいえる大人になってほしい」とエールを送りました。

この奨学金制度は、国内で初めての視覚障害の学生を対象とした奨学金として1969年に始まり、13年度で貸与者総数は198人になりました。

愛知県重度障害者の生活をよくする会40周年記念行事（名古屋）

愛知県重度障害者の生活をよくする会主催。当事業団後援

愛知県重度障害者の生活をよくする会は1973年の設立で2013年に40年を迎えました。発足した9月にあわせ、障害者運動の明日について考える記念行事を9月22日に名古屋市中区の朝日ホールで開きました。

「私が主役！楽しくなければ福祉じゃない!!」がテーマ。第1部の記念講演で山田昭義・初代会長（当事業団評議員）が40年間にできた、できなかったことなどを振り返り、「若い人の突破力に期待します」と結びました。第2部は「愛知・日本の障害者運動の明日について語ろう」と題してシンポジウム。平山晶士会長のほか、全国から集まったシンポジストと会の役割を振り返りつつ、今後のありようなどを語り合いました。第3部は歴史をたどる40年のスライド上映や、車椅子ダンスなどのパーティーがあり、大いに盛り上がりました。

第51回心身障害問題を考える集い（名古屋）

社会福祉法人あさみどりの会主催。当事業団後援

心身障害問題の今日的な課題を取り上げる第51回心身障害問題を考える集いが6月22日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれました。東京大学高齢社会総合研究機構特任教授の辻哲夫さん（元厚生労働事務次官）が「超高齢社会における地域の包括的な支援の行方と障害児者のケア」と題して講演。超高齢社会とはどんな社会なのか、地域でどんなシステムが必要になるのかを千葉県柏市の先進事例を通して説明しました。このあとあさみどりの会の島崎春樹理事長と、すべての人が安心して暮らせる社会づくりについて話し合いました。

第59回耳の日記念行事（全国）

日本耳鼻咽喉科学会主催。厚生労働省、文部科学省、日本医師会、当事業団など後援

日本耳鼻咽喉科学会は、ろうや難聴の予防と聴覚障害者に対する適切な指導・治療を図るため、3月3日を「耳の日」と定め、その前後に聴覚や音声の重要性についての啓発や無料相談などを各都道府県の地方部会を中心に企画しており、14年も例年同様に実施。東京では3月2日に有楽町朝日スクエアで、補聴器が上手に使えない人や日常会話が聞き取りにくい人らを対象にした無料相談会（日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会主催）を開催、約100人の相談に専門医が応じました。

第32回耳の日記念聴覚障害者と県民の集い（名古屋）

愛知県聴覚障害者協会、愛知県社会福祉協議会主催。当事業団など後援

健常者と聴覚障害者の交流を通して聴覚障害者への理解を深める集い。14年3月9日に愛知県春日井市の市民会館で開かれました。式典のあと、記念講演で聖路加国際メディカルセンターの日

野原重明理事長が「障害者と一緒に人生をどうよく生きるか」と題して講演しました。手話スピーチコンテストやアトラクションもあり、別会場でのバザーを含めて盛りだくさんのプログラムを約千人の参加者が楽しみました。

「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京）

内閣府主催。当事業団ほか後援

誰もが地域や職場・学校などで共に支え合って暮らす「共生社会」の実現を目指して、障害のある人となない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障害のある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」が13年も募集されました。最優秀賞（内閣総理大臣賞）受賞者の表彰式が12月3日、中央合同庁舎の会議室で行われ、受賞した5人に賞状と副賞が贈られました。受賞者は次のみなさんです（敬称略）。

【作文】小学生＝佐賀県鳥栖市立鳥栖小学校6年 平山玲和▽中学生＝京都府京丹後市立橘中学校3年 堀優理香▽高校生・一般＝保田健太

【ポスター】小学生＝宮崎県新富町立富田小学校4年 片山愛梨▽中学生＝愛知県犬山市立南部中学校2年 濱口紗衣

第32回肢体不自由児・者の美術展（東京、福岡）

日本肢体不自由児協会など主催。厚生労働省、文部科学省、当事業団など後援

肢体不自由児・者の生きがいつくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に、「第32回肢体不自由児・者の美術展」が12月5日から10日まで東京芸術劇場（東京都豊島区）の5階ギャラリーで開催されました。この美術展には、全国の肢体不自由児・者から合計774点の応募があり、その中から選ばれた入賞作品122点のうち、92点（特賞24点、優秀賞33点、佳作賞35点）が展示され、初日には入賞者の表彰式も行われました。当事業団からは、特賞のうち、2作品（絵画、書）に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。

同展は全国各地を巡回して実施され、14年2月24日から3月2日まで、福岡市中央区天神のアクロス福岡と福岡市役所でも開催されました。

入賞者のうち、主な特賞は次のとおりです（敬称略）。

【厚生労働大臣賞】絵画 野上政義（北海道・北広島リハビリセンター）▽書 渡辺綾（新潟県・つどいの郷）

【文部科学大臣奨励賞】絵画 湯田拓馬（長崎県立諫早特別支援学校高等部3年）▽書 船橋総一朗（青森県立青森第一高等養護学校3年）

【東京都知事賞】書 植田佳樹（東京都・筑波大学付属桐が丘特別支援学校小学部1年）▽天沼臨（東京都・ドリームヴィ書道クラブ）

【朝日新聞厚生文化事業団賞】絵画 有島春輝（鹿児島県立鹿児島養護学校中学部1年）▽書 小山田祐太（青森県立青森第一高等養護学校2年）

第42回聴美会展（名古屋）

中部聴力障害者美術同好会主催。当事業団など後援

聴覚に障害がある美術愛好者らが自主運営する美術展「聴美会展」が7月30日から8月4日まで、名古屋市中区の名古屋市民ギャラリーで開かれました。27人から絵画、彫刻、写真などの作品80点が集まりました。優秀作品に贈られる朝日新聞厚生文化事業団賞は、トールペイントの工芸作品を出品した野々山孝子さんが受賞しました。手話サークルの支援者や障害者施設の人ら約1800人が訪れ、過去最多を記録しました。

第48回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会主催。当事業団など後援

名古屋市障害者作品展示会が14年2月26日から3月2日まで、名古屋市瑞穂区の市博物館で開かれました＝写真。障害のある4歳から88歳までの人が5部門308点（書道58点、絵画97点、写真43点、手芸61点、工芸49点）を出品しました。点数は13年を50点上回りました。5部門の優秀作品には当事業団が「朝日賞」の楯と賞状を贈りました。会期中に家族や友人ら754人が訪れました。



第34回障害者歩くスキーの集い（札幌）

当事業団、朝日新聞北海道支社主催。三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒にスキーを楽しむ「第33回障害者歩くスキーの集い」を14年1月19日、札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で開催しました。

1キロ、3キロ、5キロ、7キロの4コースに分かれ、155人が参加。会場は雪がぱらつき、スタートの午前10時ごろには公園の温度計が零下4度を示す中、参加者たちは笑顔で歩き始め、それぞれのペースで元気にゴールを目指しました。15年ほど参加し続けているという全盲の福嶋義忠さん（39）は伴走者とともに7キロコースを楽しみ、「今シーズン初めての歩くスキー。歩くうちにだんだん温かくなって気持ちよかった」と話していました。今回も多くのボランティアが、運営に加わり、大会を盛り上げました。



（写真は朝日新聞1月20日朝刊北海道版の記事）

第34回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（長崎）

九州車椅子バスケットボール連盟、当事業団主催

第34回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が12月7、8日、長崎市の県立総合体育館（アリーナかぶとがに）で開かれました＝写真。九州・沖縄の10チームがトーナメント方式で戦った結果、「佐世保WBC」（長崎）が初優勝を果たしました。

今大会は、14年秋に国体開催を迎える長崎県で行われ、注目は「第13回全国障害者スポーツ大会」で3位入賞を果たした長崎県チームに向けられました。「佐世保WBC」は準決勝で、この大会で優勝経験のある「福岡Limitz」に63対50で勝ち、初の決勝に進むとともに、念願の全国大会への出場権を獲得。決勝でも勢いは止まらず、前年を含め17回の優勝を誇る「太陽の家スパーズ」（大分）を83対22の大差で破り、長崎県に初の優勝旗をもたらしました。3位決定戦は「福岡Limitz」が「薩摩ぼっけもん」（鹿児島）を61対39で下しました。上位2チームは14年5月に東京で開催の「第42回日本車椅子バスケットボール選手権大会」へ九州地区代表として出場します。



第25回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（長崎）

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催、当事業団共催

第25回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は9月21、22日、長崎県大村市のシーハットおおむらで11チームが参加して、熱戦が繰り広げられました＝写真。

ツインバスケットボールはフリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。下肢だけでなく上肢にも障害を持つ人も参加でき、日本で考案されました。高低2つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートを打つことができます。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められているなど、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮でき、達成感を感じることができる競技です。

決勝は、これまで決勝の一步手前で苦汁をなめ続けた博多パトラッシュ（福岡）が、昨年の覇者・太陽の家ブレイカーズ（大分）を破り勢いに乗る沖縄フェニックスとの戦いとなり、博多パトラッシュが74対63で勝ち、念願の初優勝を飾りました。3位決定戦ではMauG's（マウゴッツ、熊本）が62対41で福岡BEATを下しました。



高 齢 者 の 福 祉

高齢者への暴力防止プロジェクト助成

当事業団主催。厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団後援

高齢者が自尊心を損なわれることなく安心して穏やかに過ごすことの出来る社会の実現をめざして、虐待につながる状況や行為を未然に防ぐための取り組み、研究などの活動を応援する助成金制度「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」を実施しました。

この助成事業は2010年度に創設、11年度実施事業から助成を始め、13年度実施事業募集の第3回をもって終了しました。

3回目は募集期間の12年11月17日から13年1月17日までに、全国から43件の応募があり、審査の結果13団体への助成を決め、5月17日の朝日新聞朝刊生活面で発表しました＝写真。

助成総額は1090万円。3年間で最終的に35件、3029万円を助成しました。

今回助成を受けた13団体は以下の通りです。

認知症にやさしい地域支援の会（岩手県陸前高田市、菅野不二夫会長）、村山市社会福祉協議会（山形県村山市、佐藤清会長）、多摩西北部高齢者・障害者サポート協会（東京都福生市、笠間秀行理事長）、日本ウェルネット（東京都八王子市、福田稔理事長）、Uビジョン研究所（東京都渋谷区、本間郁子理事長）、高齢者を支える学際的チームアプローチ推進ネットワーク（東京都新宿区、辻彼南雄理事長）、全国介護者支援協議会（東京都豊島区、上原喜光理事長）、ステップあいち一心の健康と発達を守る会（名古屋市、石田まり子理事長）、甲南女子大学（神戸市、枡田聖子）、介護保険市民オンブズマン機構大阪（大阪市、岡本祐三代表理事）、劇団道化（福岡県太宰府市、篠崎省吾理事長）、KAプロジェクト（熊本県上天草市、田中万里理事長）、嬉野市地域婦人連絡協議会（佐賀県嬉野市、芦塚典子会長）



連続講座「住まいの終活」(東京、大阪)

当事業団主催

人生の終末をどこで、どう過ごしたいか。「長年住み続けた自宅」「子との同居」を希望するのか。それとも老人ホームやグループホームなどの施設、もしくはサービス付き高齢者向け住宅のような施設と住宅の中間的な位置づけとなる形態を選択するのか。13年度は「終(つい)のすみか」に焦点を当て、高齢期を見据えた住み替えと、最期を迎える場所の選択など、「住まいの終活」について考える、3回連続講演会を東京と大阪で開きました。



第1回のテーマは「あなたに向く住まいのカタチ」。人生の終末をどこで過ごすかを考えると、まず施設の種類の多いことに気づきます。そこで高齢者住宅問題に詳しいコミュニティネットワーク協会・高齢者住宅情報センター大阪センター長の米澤なな子さんらに、最近よく聞くサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)など、さまざまな施設についてチャートを使ってわかりやすく解説していただきました。また、実際にサ高住や住宅型有料老人ホームに入居している方に、選ぶまでの経緯や現在の暮らし、良かったことや困ったことなどについてお話をうかがいました。実家のたたみ方や家族との関係など、住み替え準備に必要なことについてもお話しいただきました。

第2回は「自分の家で逝きたい」というテーマで、在宅を希望する人や住み替えたくてもできない人のために、制度の上手な利用法や手続き、バリアフリー工事にかかる費用や福祉用具レンタル、くらしの保健室(東京都新宿区)や小規模多機能ホームなどを利用しながら住み慣れた家で暮らすために必要なことなどについてお話しいただきました。また、1998年に宮崎県に設立されたのを皮切りに全国に広まりつつあるホームホスピスについて、「神戸なごみの家」の松本京子さんに設立の目的や実際の生活などを紹介していただきました。

最終回は認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長で社会学者の上野千鶴子さんに「おひとりさまの住まいの終活」についてお話しいただきました。「最近、死の臨床についての常識が変わってきたなという気がします。在宅ホスピス、家で死ぬ、家で看取(みと)ることがだんだんと広まるようになってきました」。上野さんは、往診に同行取材した単身高齢者の例を紹介しながら、さまざまな選択肢があり、住まいを確保した上でサービスを外付けすれば何とかできることがわかってきたことを強調。「家族がいてもいなくても、家で死んでいけるシステムに作り替えていくことが大事。そのために介護保険を使い勝手の良いものに変えていかなくてはならない。消費者が目利きにならないと、高齢者へのサービスの質も上がらない。自分の老後の安心は自分で決める、自分で選ぶことが大事になっている」と述べました。

後半は、高齢者の住宅問題に詳しいコミュニティネットワーク協会・理事長の近山(ちかやま)恵子さんと上野さんに「新しい住まいのカタチ」というテーマで、会場からの質問も交えながら、対談していただきました＝写真。

プログラムの詳細は以下の通り(敬称略)。

東京会場

【第1回】あなたに向く住まいのカタチ 9月22日、浜離宮朝日ホール（来場者126人）

《第1部》講演「あなたに向く高齢期の住まいのカタチ」（13：00～14：25）

講師＝米澤なな子／コミュニティネットワーク協会・高齢者住宅情報センター・大阪センター長

《第2部》「わたしがココを選んだ理由」（14：55～15：25）

お話＝サービス付き高齢者向け住宅入居者・黒尾昭三（聞き手＝米澤なな子）

《第3部》「高齢期の住み替え準備」（15：25～16：00） 講師＝米澤なな子

【第2回】自分の家で逝きたい 10月13日、浜離宮朝日ホール（来場者172人）

《第1部》講演「在宅で最期を迎えるためには」（13：00～14：30）

講師＝秋山正子／白十字訪問看護ステーション・統括所長、暮らしの保健室室長

《第2部》講演「『とも暮らし』という選択～ホームホスピス」（15：00～16：00）

講師＝松本京子／ホームホスピス「神戸なごみの家」代表（※講師をお願いしていた市原美穂・ホームホスピス宮崎理事長が急病のため、交代しました）

【第3回】新しい住まいのカタチ 14年2月16日、日経ホール（来場者467人）

《第1部》基調講演「おひとりさまの住まいの終活」（13：00～14：00）

講師＝上野千鶴子／認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長・立命館大学特別招聘教授・東京大学名誉教授・日本学会議会員・社会学者

《第2部》対談「新しい住まいのカタチ」と質疑応答（14：30～16：00）

上野千鶴子、近山恵子／コミュニティネットワーク協会理事長

大阪会場

【第1回】あなたに向く住まいのカタチ 9月8日、大阪YMCA会館ホール（来場者217人）

《第1部》講演「あなたに向く高齢期の住まいのカタチ」（13：00～14：25）

講師＝田中由利子／コミュニティネットワーク協会高齢者住宅情報センター大阪相談室長

《第2部》「わたしがココを選んだ理由」（14：55～15：25）

お話＝住宅型有料老人ホーム入居者・向田貞子（聞き手＝田中由利子）

《第3部》「高齢期の住み替え準備」（15：25～16：00） 講師＝田中由利子

【第2回】自分の家で逝きたい 10月6日、大阪YMCA会館ホール（来場者187人）

《第1部》講演「在宅で最期を迎えるためには」（13：00～14：30）

講師＝杉原優子／京都府介護福祉士会会長、小規模多機能ホーム「十四軒町の家」マネージャー

《第2部》講演「『とも暮らし』という選択～ホームホスピス」（15：00～16：00）

講師＝松本京子

【第3回】新しい住まいのカタチ 10月20日、インテックス大阪・国際会議ホール
（来場者268人）

《第1部》基調講演「おひとりさまの住まいの終活」（13：00～14：00）

講師＝上野千鶴子

《第2部》対談「新しい住まいのカタチ」と質疑応答（14：30～16：00）

上野千鶴子、近山恵子

「ひとり暮らしの認知症」（東京、大阪）

当事業団主催、認知症の人と家族の会後援

現在の日本では、65歳以上の男性のうち10人に1人、女性の5人に1人が一人暮らしと言われています。家族がいても遠方に住んでいたり、仕事で日中は留守だったり、という人も多く、これからはますます「家族に頼らない介護」が大切になります。介護の負担が重いとされる認知症になっても「家族に頼らない介護」は可能か。認知症の人を取り巻く現在の社会制度ではどのようなサポートを受けられるか。こうした課題を考える講演会を開催しました。

9月29日に大阪YMCA国際文化センターで、2月1日に東京・浜離宮朝日ホールで開催しました。講師には、地域の病院で長年に渡って認知症の方や家族らと関わってきた医師の杉山孝博さんと、一人暮らしの認知症の友人を介護し、任意後見人として支えるノンフィクションライターの中澤まゆみさんをお招きしました。

杉山さんは、一人暮らしの認知症高齢者介護の特徴や、認知症になっても一人暮らしを続けるために本人や周りの人がすべきことなどを話しました。また、認知症の人が最期まで住み慣れた地域で過ごすためには、特に周囲の人による認知症への理解が不可欠だとして、認知症を理解するための「9大法則・1原則」を紹介しました。

中澤さんは、友人を任意後見人として支えるようになったきっかけや、10年間にわたる友人への支援の内容について、語りました。おひとりさま高齢者の味方として成年後見制度を挙げたほか、今後受けることになる予想される医療やケアについて、事前指示書を準備してはどうか、と提案しました。

2人の講演の後は、会場から寄せられた質問を中澤さんが取り上げ、杉山さんに尋ねるという対談形式で進めました＝写真は東京会場。大阪会場では「認知症予防のために有効なことは何か」という質問に対し、杉山さんは①生活習慣病の予防が認知症予防にもつながる ②よく歩く ③適度に脳に刺激を与えることを挙げました。東京会場では「認知症は自分で気づくことができるか」という質問に対して、初期だと自分で心配になって調べる人も多い、もの忘れをすることが多くなったら医療機関に相談することや、チェックシートなどを使って調べたりするのがよい、というアドバイスがありました。



高齢期の豊かなくらし研究会講演会（大阪）

高齢期の豊かなくらし研究会、当事業団主催、NPO法人高齢者外出介助の会共催

超高齢社会に入った日本が直面する高齢者の問題は根が深く、多岐にわたります。市民の目線に立って高齢期の問題を考え、情報の提供をしていこうと、学者や医療、看護、介護、福祉の専門家らが「高齢期の豊かなくらし研究会」（佐瀬美恵子代表）を13年7月に立ち上げました。当

事業団は同研究会とともに、専門家の情報交換会と市民向けの講演会を開催していくことになりました。

その第1回の講演会が11月23日、朝日新聞大阪本社・アサコムホールで「豊かな高齢期を迎えるために」という題で開催されました＝写真。ごみ屋敷や孤立死、引きこもり、生活困窮など、制度のはざまに陥っている人たちを支援する「ライフセーフティネット」の仕組みに取り組んでいる、豊中市社会福祉協議会の中心的な担い手、勝部麗子地域福祉課長を講師に招き、61



人が参加しました。現代社会では生活困窮は特別な問題ではなく、誰にでも忍び寄る課題で、家族や地域社会のつながりが弱まり、病気や倒産などのトラブルを抱えると、突然生活が破綻（はたん）してしまう、と勝部さんは指摘。「他人事と考えず、関係者のネットワークとともに地域の住民の協力が不可欠です」と訴える言葉に、聴講者は熱心に耳を傾けていました。

「フォーラム 認知症カフェを考える2013」（東京）

朝日新聞社、当事業団、立教大学社会デザイン研究所主催

日本での患者数が予備軍を含めると400万人を超えと言われる認知症は、いつ自分や家族がかかってもおかしくない、身近な病となりました。しかし認知症に対する理解は十分でなく、誤解も根深く残っています。そのような中、認知症の人や支援する家族らが集う交流の場「認知症カフェ」が注目されています。

認知症カフェとは何なのか。認知症の人やその家族がリラックスして過ごせる、相談の場にするにはどうすればよいのか。「フォーラム 認知症カフェを考える2013」が12月1日、東京都豊島区の立教大学で開かれ、約420人が参加、運営者や参加者が認知症カフェの工夫や今後の課題を話し合いました。

認知症カフェは、認知症の人やその家族の居場所作りや支援が目的で、全国に数十カ所あるとされ、当事者や家族の交流のほか、介護、医療の専門職らに相談ができるカフェもあります。厚生労働省は認知症施策の5カ年計画「オレンジプラン」でカフェを支援策の一つに掲げ、運営する25市区町に13年度から補助金を出しています。

フォーラムでは宇都宮市の「若年性元気応援サロン」、京都市の「オレンジカフェ今出川」のほ



か、岩手県陸前高田市に当事業団が開設したコミュニティーハウス「朝日のあたる家」のカフェが紹介されました。朝日のあたる家では、当事業団と福祉フォーラム・東北、地元住民の「認知症にやさしい地域支援の会」が協力し、月1回開催をしています。常勤で滞在し、現地の支援にあたっている福祉フォーラム・東北の職員で臨床心理学が専門の行本清香さんは「東日本大震災で地域コミュニティーが喪失した。こうした交流を広げたい」と語りました。

後半の討論では、行本さんと「若年性元気応援サロン」の杉村美稍子さん、「オレンジカフェ今出川」を運営する医師の武地一さんに、厚生労働省認知症・虐待防止対策推進室長補佐の三浦正樹さんも加わり、運営の課題やこれからのあり方などについて意見を交わしました。三浦さんは「認知症カフェや関連の施策について、まだ自治体の理解が進んでいない部分もあり、より周知していきたい」と話しました。コーディネーターの勝野とわ子・首都大学東京教授は「認知症カフェが認知症に対する社会の理解を広げることにつながっている。これからは資金面の課題の解決と同時に、認知症の人の生活をどう地域で支えるか、考えなければならない」と述べました。

朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）

愛知高齢者福祉研究会、当事業団、朝日新聞社主催

高齢者を支える医療や福祉を考える「朝日高齢者福祉セミナー」が6月16日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれました。107歳まで生きた双子姉妹の姉・成田きんさんが取り組んだ筋力トレーニングや、日常生活の暮らしぶりなどから、長寿のこつを学びました。

約170人が参加。きんさんに筋トレを指導した同市南区の久野接骨院院長、久野信彦さんが講演。筋トレ中のきんさんの映像を見ながら「長続きのこつは、楽しみながら無理せず、目標を持って体を動かすこと」と説明しました。筋力を鍛えることが長寿につながるとして、会場で椅子やボールを使った簡単な方法を指導しました＝写真。



シンポジウムでは、きんさんの四男、成田幸男さんが生前のきんさんを振り返り、井戸の水運びで足腰が鍛えられたことや、編み物などで手先が器用だったことなど、長寿に役立ちそうなエピソードを披露しました。

高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」（全国18カ所）

当事業団主催

日ごろ外出の少ない、高齢者向けの施設の入居者や利用者らを対象に、一流の音楽家や力士らが訪問し、質の高い楽しいひと時をお届けする「ゆうゆうビジット」は5年目。13年度は全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など18カ所を訪問しました。

1回目の訪問者は日色ともゑさんとマリオネット（ポルトガルギター・湯浅孝さん、マンドリン・吉田剛士さん）。4月12日に岡山県倉敷市の特別養護老人ホーム「庄の里」を訪問し、日色さんは、あまんきみこ作「白いぼうし」などを朗読。後半はマリオネットの伴奏で「シャボン玉」や「故郷（ふるさと）」など、懐かしい曲の歌詞を日色さんが朗読したあと、入所者と「蘇州夜曲」を大合唱して締めくくりました。10月4日には高知市の福祉ステーション「いきいきの里」も訪問しました＝写真。



おおたか静流さんと大友剛さんは、5月15日に盛岡市の特別養護老人ホーム「すずらんガーデン」、9月12日に仙台市のケアハウスイン「いわきり」へ。2月12日には大阪府枚方市の特別養護老人ホーム「サール・ナート」を訪問しました＝写真。「サール・ナート」では100人の入所者を前に、おおたかさんが「赤とんぼ」を大友さんの伴奏で歌い出すと、会場も自然と大合唱に。「さすが大阪。今までに経験のない盛り上がりです」と、おおたかさんから感激の言葉が漏れました。大友さんのマジックには、驚きと笑いがあふれました。入所している100歳の女性は「赤とんぼ」や「故郷」を歌って小学校の先生を思い出し、「長生きしたおかげで楽しかった」と話していました。



バイオリニストの千住真理子さんは、6月24日に仙台市の特別養護老人ホームケアハウス「松涛館」、9月24日に岩手県一関市の特別養護老人ホーム「関生園」と平泉町の特別養護老人ホーム「ふくしの里慶泉荘」の2カ所を訪問。10月30日には岩手県釜石市の特別養護老人ホーム「あいぜんの里」を訪れました。

バイオリニストの川畠成道さんは、7月21日に愛知県豊川市の特別養護老人ホーム「千両荘」を訪れ、入所者50人にクラシックの名曲を楽しんでもらいました。11月28日には仙台市の特別養護老人ホーム「サン・つばき」を訪問しました。

高砂部屋の力士たちの「ゆうゆうビジット」では、7月22日に愛知県南知多町の特別養護老人ホーム「大地の丘」を朝弁慶と朝乃丈が訪問。11月25日には北九州市の特別養護老人ホーム「ゆーとびあ宇佐町」を朝乃丈と朝興貴、1月27日には長野県佐久市の特別養護老人ホーム「佐久平愛の郷」を朝ノ島と朝興貴、3月24日には兵庫県尼崎市の特別養護老人ホーム「ほがらか苑」を朝興貴と朝上野がそれぞれ訪れました。朝上野＝写真＝は今回



が初めての訪問で、少々照れながらの演技披露でしたが、入所者に積極的に握手をしたり、最年長者の女性をお姫様だっこしたりするなど、たっぷりサービスしてくれました。どの施設訪問でも、力士の技の披露や松田哲博マネジャーの相撲甚句、その後の松田さんが調理したちゃんこ鍋の入所者へのふるまいが好評でした。

ギタリストの福田進一さんは、9月8日に神戸市の特別養護老人ホーム「KOBÉ須磨きらくえん」、11月23日に広島市の特別養護老人ホーム「ふくだの里」、12月16日は山口市の老人保健施設「ニューライフあじす」を訪問しました＝写真。



「ニューライフあじす」では、クラシックギター曲の中でも演奏が難しい、バッハの「二つのメヌエット」やモーツァルト「魔笛」などを披露。締めくくりの「禁じられた遊び」には親しみもあり、惜しめない拍手が送られました。

10年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は通算で66回に。13年度の全訪問先は次の通りです。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地 域	訪問先
1	日色ともゑ・マリオネット	4月12日	岡山県倉敷市	特別養護老人ホーム「庄の里」
2	おおたか静流・大友剛	5月15日	盛岡市	特別養護老人ホーム「すずらんガーデン」
3	千住真理子	6月24日	仙台市	ケアハウス「松涛館」
4	川畠成道	7月21日	愛知県豊川市	特別養護老人ホーム「千両荘」
5	高砂部屋	7月22日	愛知県南知多町	特別養護老人ホーム「大地の丘」
6	福田進一	9月8日	神戸市	特別養護老人ホーム「KOBÉ須磨きらくえん」
7	おおたか静流・大友剛	9月12日	仙台市	ケアハウスイン「いわきり」
8	千住真理子	9月24日	岩手県一関市	特別養護老人ホーム「関生園」
9	千住真理子	9月24日	岩手県平泉町	特別養護老人ホーム「ふくしの里慶泉荘」
10	日色ともゑ・マリオネット	10月4日	高知市	福祉ステーション「いきいきの里」
11	千住真理子	10月30日	岩手県釜石市	特別養護老人ホーム「あいぜんの里」
12	福田進一	11月23日	広島市	特別養護老人ホーム「ふくだの里」
13	高砂部屋	11月25日	北九州市	特別養護老人ホーム「ゆーとぴあ宇佐町」
14	川畠成道	11月28日	仙台市	特別養護老人ホーム「サン・つばき」
15	福田進一	12月16日	山口市	老人保健施設「ニューライフあじす」
16	高砂部屋	1月27日	長野県佐久市	特別養護老人ホーム「佐久平愛の郷」
17	おおたか静流・大友剛	2月12日	大阪府枚方市	特別養護老人ホーム「サール・ナート」
18	高砂部屋	3月24日	兵庫県尼崎市	特別養護老人ホーム「ほがらか苑」

福 祉 啓 発 ・ 公 衆 衛 生 ほ か

第9回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」—思いとどまってもらうために— (福岡)

福岡いのちの電話、当事業団主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援、大同生命厚生事業団協賛

「尊い命を守れないか、私たちにできることは何なのか」を考える自殺防止公開講座が2013年11月9日、福岡市の都久志会館で開かれ、約200人が参加しました。作家で反貧困ネットワーク副代表の雨宮処凛（かりん）さん＝写真＝を招き、朝日新聞の岩崎生之助記者がインタビューする対談形式で、自殺の多い若者に焦点を当て、生きづらさについて、お話を聴きました。

全国の年間自殺者数は12年に15年ぶりに3万人を下回りました。雨宮さんは自らの経験や取材の成果を紹介し、自殺者数が減ったことについて、自殺の背景に社会、経済、時代の空気などの問題があることの啓発が行われ、社会全体で自殺防止に取り組んできたことが大きい、と指摘しました。

20代に自殺が多いことについて、進学して勉強するために奨学金を借り、抱えた債務を返済するためブラック企業でも就職してしまう。過労死寸前の人もいれば、絶望して自殺する人もいる。SOSの発信には自己肯定感が必要で、「自殺したい」と言ってくれる時点で、そのハードルはクリアしている。惨めな思いをした人たちは弱みを知られたくない意識がある。日頃からの付き合いで「助けて」と言ってもらえる人間関係を築くことが大事だ、と話しました。

終了後のアンケートには、「体験の説得力、力強さを感じた」「若者に厳しい現実があることを改めて気づいた」「処凛さんの『ここに人間がいる』を感じた」などと多数の感想が寄せられました。



いのちの電話などに福祉助成金 (福岡)

当事業団では、福岡県内で地道な社会福祉活動を続け、継続的な支援が必要な団体を支援するための助成を続けています。助成金は運営費として活用できます。

ボランティア相談員が年中無休の24時間体制で電話相談に応じ、さまざまな事情から自殺を思うほど精神的危機に直面し、失いかけた生きる力の回復を手伝う努力をしている、福岡いのちの電話（福岡市）と北九州いのちの電話（北九州市）、さらに交通事故遺族の救済、福祉更生の援助や慰霊祭、励ます会、就学援助、奨学生の推薦などを行っている、福岡県交通遺児を支える会（福岡市）の3団体に各15万円を贈りました。贈呈式は14年3月11日に朝日新聞西部本社で行いました＝写真＝は3月12日朝日新聞朝刊福岡版。



アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）

当事業団主催

育児に悩む親のため、デパート内に無料の育児相談室を設け、医師や歯科医師、栄養士などの専門家が病気や発育についての相談や栄養相談などを行っています。

あべのハルカス（大阪市）にリニューアルオープンした近鉄本店。同店は、1957年に全国で初めてデパート内に無料相談室を開設し、毎年約1500人が訪れています。大阪市立大学医学部付属病院小児科や看護学部教員のほか、カウンセラーや保育士などによる相談は「小さな疑問にもていねいに相談に乗ってもらえる」と好評です。

最近妊婦を対象にした「妊娠中からの母乳・子育て相談」を行ったり、育児中の親のメンタルヘルスケアや、育児に悩む親が専門家を交えてグループでフリートークをしたりするなど多彩なプログラムを展開しています＝写真上。相談者からは「他人の子育てと比較して自分の子が遅れていると思ったが、そうではないと気づくことができた」「自分のやってきたことは間違っていなかったと確認できた」という声が寄せられています。

秋（9月）と春（3月）には保育の専門家によるパネルシアターや手遊び、管理栄養士による「パパカアップ講座～離乳食について」など、ファミリーで参加できるイベントや父親向けの講座なども開催しました＝写真下。

そのほか、西武百貨店高槻店（高槻市／1974年開設）では毎週木曜日、小児科医が相談にあたり、西武百貨店大津店（大津市／2004年開設）では第1、3日曜日に専門相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスしています。

各相談室の13年度の利用者数は次の通りです。

- ・あべのハルカス近鉄本店 1342人（1回平均16.4人）、ミニ講演会 262人
- ・西武高槻店 467人（1回平均約9.5人）
- ・西武大津店 70人（1回平均約2.9人）



第65回保健文化賞（東京）

第一生命保険株式会社主催。厚生労働省、当事業団など後援

保健衛生の向上や、向上に寄与した研究・発見をした団体、個人に贈られる第65回「保健文化賞」の贈呈式が10月23日、東京都港区のホテルオークラで行われ、9団体と個人5人に賞金（団体各200万円、個人各100万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。

この賞は1949年に制定されて以来、この分野の民間の表彰事業として最も定評のあるものです。受賞団体・個人は次の通りです。(敬称略)

【団体】とちぎ思春期研究会(栃木)、千葉県食生活改善協議会、東京都薬剤師会、愛徳福祉会大阪発達総合療育センター、出雲の精神保健と精神障害者の福祉を支援する会(島根)、愛媛県精神保健福祉協会、大牟田市介護サービス事業者協議会(福岡)、大分県医師会、沖縄周産期ネットワーク協議会

【個人】東北大学加齢医学研究所教授・渡辺彰(宮城)、歯科医・塩見聡(兵庫)、近畿中央胸部疾患センター名誉院長・坂谷光則(奈良)、訪問看護ステーション管理者・荒巻初子(福岡)、精神科医・吉田修三(鹿児島)

東海グループホームスタッフ研修会(名古屋)

東海グループホームスタッフ研修会主催。当事業団後援

障害の種別を超えたネットワークづくりを目指して、東海3県のグループホーム関係者らが研修や交流活動に取り組んでいます。名古屋市中区の朝日ホールを会場に13年度は3回開催しました。

- ①「きほんのきを考える」(7月6日) 総合福祉法で制度が変わろうとしているなかで、制度・法律が変わっても支援の形に変わりはないことをいま一度、確認し考える機会を設けました。
- ②みんなのための「総合福祉法を学ぶ」(11月23日) 総合福祉法を読み解き、理解を深めました。
- ③「グループホームの安全とふつうに暮らすことについて考える」(2月8日) 消防法の改定と建築基準法の規制緩和について学びました。

遺贈・遺言セミナー(東京、大阪、名古屋、福岡)

当事業団主催

生前の意思に沿って自分の財産を活かす「遺贈」や、遺産の分配方法を記す「遺言」は、生前に整理をしておかないと、残された家族や親族、関係者がトラブルに巻き込まれる恐れがあります。財産をどのように次世代に残せばよいのか。13年度も遺贈・遺言セミナー「おいじたく～あなたの財産を未来に」を東京、大阪、名古屋、福岡の4会場で開催しました。参加者は、講師の用意したレジュメを参考に遺言書にまつわる豊富な事例や遺言書の書き方、遺贈にあたっての留意点、遺贈先の選び方などについて学びました。

セミナーは6月21日に東京都中央区の朝日新聞東京本社＝写真＝で、7月5日に大阪市北区の大阪市中中央公会堂、8日に名古屋市中区の朝日ホール、10月



1日に福岡市博多区の福岡朝日ビルで開催しました＝写真。

参加者は東京39人、大阪81人、名古屋36人で、福岡が10人でした。講師は、高齢者の財産管理や成年後見制度、相続問題に詳しい弁護士にお願いし、東京、大阪、名古屋の3会場は中山二基子さん、福岡では石井将さんに引き受けていただきました。

中山弁護士は遺言が大いに役立った事例やその逆、遺言がなかったためにトラブルになった例を紹介し、残された家族を相続紛争に巻き込まないように、簡単でも良いので法的に有効な遺言書を残すことが大切と述べました。

石井弁護士には「知っておくと役立つ遺言と相続と法律知識」を民法の解釈と絡めながら、事例を引用し、「争族」を含むトラブルを避けるためには何をすべきか、遺言しておく、何故安心なのかを、わかりやすく説明していただきました。

セミナー後半ではすべての会場で、参加した方からの質問に答える質疑応答を実施しました。もっとも多く寄せられたのは、遺言執行人の要件や執行人に支払う報酬など遺言執行に関するもので、参加者の関心の高さがうかがえました。



フィリピン台風被災者救援金

台風30号で大きな被害を受けたフィリピンの被災者救援のため、当事業団は11月14日から12月20日まで、朝日新聞社と協力して募金の呼びかけを行いました。

朝日新聞の読者の皆様をはじめ、全国各地から寄せられた「フィリピン台風被災者救援金」は、朝日新聞社からの500万円を含め、1018件、総額1843万1503円に上りました。日本赤十字社に12月3日に1千万円、12月27日に803万1503円、2月27日に40万円を送り、現地での活動に役立てられました。

ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

(写真は、台風で水浸しになったフィリピン・レイテ島沿岸部＝2013年11月)



チャリティー事業

朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）

当事業団、朝日新聞社主催

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京で開催しました。2013年度も文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑（ちょうそ）家、書家、宗教家、茶道家、各界の著名人ら約2800人にご協力をいただき、販売作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など3800点に上りました。

●名古屋展

第60回名古屋展は12月5日から7日まで、名古屋市中区栄の丸栄百貨店で開催しました＝写真。約800人の作家から約1千点のご協力をいただき、入札と即売で展示・販売しました。

伊勢湾台風のあった1959（昭和34）年も休まず続けてきた東海地方有数の歴史を誇ります。60回の節目に大勢のお客様を迎えることができ、何よりでした。

三重県鈴鹿市の洋画家打田幸男氏の「遺作コーナー」も好評でした。11年に89歳で亡くなり、遺族から遺作の一括寄贈の申し出を受けて急きょ、特別企画として設けました。教員をしていたころの教え子の女性に「先生に小学校で教わりました。懐かしくて」と買い求めていただく光景もありました。初日のにぎわいぶりを朝日新聞が取材して東海三県の地域面に掲載。メ〜テレ（名古屋テレビ）も夕方のワイドニュース番組で取り上げ、より多くの方にチャリティー展を知っていただく機会になりました。



●大阪展

87回目を迎えた大阪展は、12月21日から23日まで、大阪・なんば高島屋で開催しました。約1千人の作家から1274点の寄贈をいただき、入札と即売で販売しました＝写真。好評の「イラストレーター・絵本作家・漫画家」「動物絵画・工芸」はもちろん、新しく「漆工芸」コーナーを入札会場に設け、多くの入場者の関心を集めました。3日間で5016人と昨年並みの来場者がありました。

今回から名古屋展の作業の一部を大阪で請け負うことになったため、広い部屋が必要になり、大阪・南港のヤマト倉庫に作業別室を開設。また12年までの高島屋グランドホールが改修工事に入り、特設のグランドホールでの開催となりました。



●東京展

８９回目の東京展は１４年３月７日から１０日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、約１千人の作家から寄贈された作品１５００点を入札と即売形式で販売しました。

７、８日は日本画家、洋画家、９日、１０日は工芸家、著名人他の作品を販売。前期、後期ともに初日は早朝から多くの人が列を作りました。今年は特別企画としてイラストレーター・絵本作家・漫画家コーナーを新設し、約５０人の作品を入札形式で展示販売。熱心な愛好家らでにぎわいました＝写真。



Next Art 展も 次世代のアートを担う若手作家の作品を推薦するNext Art展を同じ会場で開催し、応募作１８７点から選ばれた３１作品を展示、入札販売しました。売り上げは、作家のさらなる創作活動と当事業団の社会福祉事業に役立てます。会場では、作家が自身のフェイブックなどで情報を公開し、訪れたファンとの交流を図る姿も。新たなファンの獲得の場として活用されており、若い作家の活躍の場を広げるという面からも、同展の意義は高まっています。

（チャリティー美術展に作品を出展していただいた方々のお名前は５８～６４ページに、Next Art展の推薦作品の制作者は６５ページに掲載しました）

第６３回メサイア演奏会（東京）

当事業団、朝日新聞社主催。東京藝術大学音楽学部協力、ＪＲ東日本特別協賛

「メサイア・チャリティーコンサート」を１２月２０日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました＝写真。高関健さんの指揮で、藝大フィルハーモニアと東京藝術大学音楽学部声楽科の学生ら約２００人が「メサイア」全曲を披露。壮麗な調べや「ハレルヤ」の大合唱に約２千人が聴き入りました。



「メサイア」はキリストの生涯と復活、栄光を題材にしたオラトリオ（聖譚曲）で、「社会福祉の目的以外に演奏を認めない」という作曲者ヘンデルの遺志をくみ、現在も世界中の多くのチャリティーコンサートで演奏されています。１９５１年から歌い継がれ、「藝大メサイア」の愛称で知られる演奏会は６３回目。長年のファンに支えられおり、チケットは今回も完売でした。

出演は一流プロへの登竜門とも言われ、ソリストは毎年、学内の厳しいオーディションにより選考されています。今回は、いずれも大学院生の松原みなみ（ソプラノ）、平山莉奈（アルト）、宮下大器（テノール）、堺裕馬（バス）のみなさんが務めました。この演奏会は社会貢献の一環として協力いただいている東京藝術大学音楽学部の教員、学生のみなさんの力によるものです。１９９７年からは美術学部の教員の協力も得てポスターやプログラムを制作しており、今回は東京藝術大学先端芸術表現科教授の日比野克彦さんにご協力いただきました。

第55回各派合同三曲演奏会（大阪）

当事業団主催

琴、三絃、尺八の世界で活躍する各派の社中が競演する邦楽演奏会を11月24日、大阪市北区中之島のフェスティバルホールで開催しました＝写真。

新しく生まれかわったホールで19社中が次々と演奏し、舞台も客席も華やかな雰囲気にも包まれました。約1500人の観客は、優雅で伝統的ながら新鮮な和の響きに浸りました。出演社中と曲目は次の通り（出演順、敬称略）。

須山知行・中島警子社中「祝典箏協奏曲」▽八千代会「明治松竹梅」▽中里会「日本の曲 荒城の月抄・さくら舞曲」▽新都山流大阪府支部「頌和楽」▽大阪正絃社「水郷のうた」▽菊武厚詞社中「松の寿」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「峠」▽菊田歌雄社中「相聞万葉」▽都山流大阪府支部「本曲 紅葉」▽月清古曲保存会「野菊」▽菊井箏楽社「さくら変奏曲」▽遊琴会「合奏曲 六段」▽箏曲栄琴会「千鳥の曲」▽中村双葉社中「TOSA によせる 海鳥の詩」▽中扇喜琇鳳社中「三つの景色」▽菊扇弘子と琴栄会「篝火」▽博覧民恵社中「肥後の夜まつり」▽酒井典彦社中「協奏曲『礫』」▽菊塚春秋会「万才」



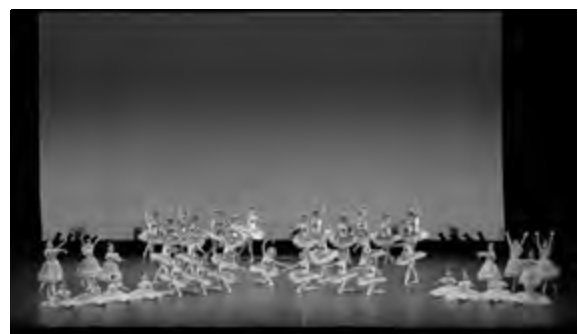
第61回洋舞合同祭（大阪）

当事業団主催

朝日新聞チャリティー「洋舞合同祭」を12月25日から27日までの3日間、大阪市北区のフェスティバルホールで開催しました。

戦後間もない1946（昭和21）年に舞踊家の江口乙矢さんが呼びかけて開催した「関西舞踊家集団公演」をきっかけに、7年後の1953年から毎年、歳末助け合いを目的に続けてきました。“食料が少なく、なかなか食事を口にできない子どもたちにパンを届けたい”との思いから始まったモダンダンスとクラシックバレエの祭典は、2013年に61回目を迎えました。

今回は新たに下田春美バレエ教室が加わり、関西洋舞界17団体、約900人にご出演いただきました。オープニングを飾ったのは波多野澄子バレエ研究所の「児童の部」の皆さん。子どもたちの愛くるしい踊りに、会場から大きな拍手が送られました。4月にリニューアルオープンしたフェスティバルホールの舞台に立つために研鑽（けんさん）を積んだ出演者による、色鮮やかで美しい踊りは、来場者たちを魅了しました。



江川バレエスクール（児童の部）の演技

また、第2回から60回出演いただいた江川バレエスクール、50回出演の宝塚音楽学校付属宝塚コードモアテネと畑節子バレエ学院、10回出演の本田道子バレエ団に、それぞれ表彰状と記念品を贈呈しました。

出演団体は次の通りです。(出演順)

【25日】児童の部＝波多野澄子バレエ研究所、江川バレエスクール、大阪バレエアカデミー、法村友井バレエ学校▽大人の部＝大阪バレエアカデミー、江川バレエスクール、法村友井ジュニアバレエ団、波多野澄子バレエ研究所

【26日】児童の部＝宝塚音楽学校付属宝塚コードモアテネ、本田道子バレエスクール▽大人の部＝貝谷バレエ団関西研究所、MRB松田敏子リラクゼーションバレエ、山本小糸バレエスクール、渡バレエ学校、本田道子バレエ団

【27日】児童の部＝野辺恵バレエスタジオ、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所▽大人の部＝田村弘子バレエ研究所、スズキ・バレエアート・スタジオ、高田由紀子バレエ学園、下田春美バレエ教室、畑節子バレエ学院



表彰状を贈られる宝塚音楽学校付属宝塚コードモアテネの岩崎文夫校長

協賛能（大阪）

能楽協会大阪支部、当事業団主催

「歳末助け合い」の協賛能を12月23日、大阪市中央区の大槻能楽堂で開催しました。関西で活躍する観世、宝生、金剛、金春、喜多の五流と狂言の大蔵流、和泉流が出演。歳末恒例の能舞台上、今回は能「橋辨慶（はしべんけい）」「杜若（かきつばた）」「雷電」に加え、狂言「清水」が演じられました。午前と午後の2回公演でしたが、いずれも能楽堂の前には開演待ちの列ができ、関心の高さをうかがわせました。後日、収益金47万8263円の寄付を受けました。

第60回各流合同茶会（大阪）

当事業団主催

京阪神を中心に活動する各流派の茶道宗匠の協力を得て実施するチャリティー茶会です。60回を迎えた今年度も14年3月1日と2日、大阪美術倶楽部（大阪市中央区今橋）で開催しました。各日6流派のお茶席が体験できる、初心者も気軽に楽しめると人気の催しで、両日で延べ5千人以上が訪れました。正座の苦手な方には椅子席（立礼）も好評です＝写真。

懸釜担当の宗匠は以下の通り（敬称略・順不同）。



【1日】表千家＝木村雅基▽裏千家＝杉本宗璋▽武者小路千家＝佐伯江南斎▽藪内流＝藪内流大阪支部五葉会▽遠州流＝筍新会▽習軒流＝坂田柏苑

【2日】表千家＝森泰輔▽裏千家＝村司宗紫、村上宗秀▽武者小路千家＝木津宗詮▽古石州流＝本庄扇宗▽花月菴流＝花月菴流大阪支部

《協賛宗匠》表千家＝表千家同門会大阪支部、生形貴重▽裏千家＝矢野宗菁、中尾宗勢▽武者小路千家＝芳野宗春、三宅真翁▽藪内流＝随竹庵▽宗徧流＝宗徧流大阪支部▽庸軒流＝柿本梅軒▽松尾流＝上西宗慶▽松風清社＝泉谷亘風▽一茶庵＝佃一輝

朝日関西学生チャリティー茶会（大阪）

関西学生チャリティー茶会実行委員会、当事業団主催。大阪美術倶楽部協力

関西の7大学の茶道部で活動する学生たちが、14年3月3日、大阪市中央区今橋2丁目の大阪美術倶楽部で茶会を催し＝写真、収益の14万4858円を朝日新聞厚生文化事業団の児童養護施設や里親家庭で暮らす高校生の進学応援金に寄託しました。参加大学は、大阪市大、関西学院大、近畿大＝以上表千家、大阪医科大、大阪府立大、同志社大＝以上裏千家。大阪薬科大は運営で協力。



どの茶道部も、ふだんは学内での活動がほとんどで、学園祭などで茶会を開くことはあっても、一般の人にお茶をたてる機会はあまりありませんでした。

13年5月に実行委員会をつくり、毎月20人近くが集まり準備を重ねてきました。

延べ800人の参加者からは、「初々しく、すがすがしい」「なごやかで楽しかった」という声が多く寄せられ好評でした。会場には学生の絵画や生け花などの展覧席も設けられました。

第59回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）

当事業団主催。名古屋美術倶楽部協賛

名古屋の茶道8流派によるチャリティー茶会を12月8日、名古屋市中区の名古屋美術クラブで開きました＝写真。冬晴れの日、約900人が各流派のお点前を楽しみました。和服姿の女性が多く華やかな歳末茶会となりました。



お点前の順番を待つ間、先生持参の道具類を会記と見比べてめでたりする光景もありました。

ご協力いただいた各流派と席主は次の通り（敬称略）。

第1席 志野流（蜂谷宗玄）、裏千家（庄司宗文）、遠州流（丸山宗翠）、宗徧流（寺尾宗康）

第2席 久田流（加藤久道）、松尾流（松尾宗典）、尾州久田流（下村瑞晃）、表千家（谷口宗清、柴田紹和、棚橋和雄）

第51回チャリティー大茶会（北九州）

茶道裏千家淡交会北九州支部主催。当事業団など後援

第51回チャリティー大茶会が9月7日、8日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。女性客を中心に2日間で約1100人が訪れ、茶道裏千家淡交会北九州支部の会員がたてたお茶を楽しんでいました。会場では東日本大震災の被災者支援を訴える、被災地の製菓会社がつった和菓子などが販売され、多くの方が買い求めていました。後日、同支部の梶岡清枝、渡部俊子副幹事長から収益金70万1342円が当事業団に寄せられました。

彩季会チャリティーバザー（東京）

彩季会主催。当事業団後援

皮革工芸品の研究団体「彩季会」（八尾緑代表）による恒例のチャリティーバザーが11月29日と30日に、東京都杉並区浜田山の彩季会皮革工芸研究所で開かれました。会員の手作りの小物やアクセサリー、バッグなどが展示即売されました。収益が今年も当事業団に寄託されました。

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）

一般財団法人杵勝会主催。当事業団後援

長唄演奏家の集まり「杵勝会」の「歳末チャリティー長唄演奏会」が12月14日、東京・有楽町朝日ホールで開かれ、八代目家元の杵屋勝三郎さん、理事長の杵屋勝国さんや会員ら約70人が出演。「連獅子」「喜撰」など14曲を披露しました。10万円が当事業団へ寄付されました。

上野学園第54回慈善演奏会（東京）

上野学園主催。当事業団後援

上野学園主催の第54回慈善演奏会が12月16日、東京都台東区の石橋メモリアルホールで開かれました。オーボエ奏者の広田智之さんとピアニストの島田彩乃さんがドニゼッティ「オーボエ・ソナタ」、北爪道夫「歌う葦」などを演奏。収益26万4490円が当事業団に寄付されました。

浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート（さいたま）

浦和学院高校吹奏楽部主催。当事業団後援

浦和学院高校吹奏楽部の第9回チャリティーコンサートが14年1月5日、さいたま市民会館おおみやで開かれ、ディープ・パープルのメドレーなど多彩な曲を披露。越谷市立中央中学校吹奏楽部もテレビドラマ「あまちゃん」のテーマ曲を演奏しました。1月8日には同高校吹奏楽部員が朝日新聞さいたま総局を訪れ、17万8170円を当事業団の東日本大震災救援事業に寄付しました。

主な後援・協賛・協力事業一覧

(※各事務所の区分は管内別)

本 部 (東 京)				
日 程	催 事		主 催 者	会 場
4/15・16	第5回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」	特別 後援	ゴールデンウェーブ開催委員会、横浜みなとみらいホール	横浜みなとみらいホール
4/29	第1回アジア合唱フェスティバル	後援	文化芸能国際交流機構	第一生命ホール
5/3・4	第18回ウオーキングフェスタ東京ツデーマーチ	後援	日本ウオーキング協会、朝日新聞社、小金井市ほか	都立小金井公園など多摩・武蔵野地域
5/3～5	第41回日本車椅子バスケットボール選手権大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟、日本障害者スポーツ協会ほか	東京体育館
5/7～13	東日本大震災・被災動物シェルター「にゅんだーガード」新宿写真展	後援	にゅんだーガード新宿写真展実行委員会	新宿区立区民ギャラリー
6/2～11/10	第7回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	新荒川大橋球場ほか
6/12～16	第28回全国聴覚障害者写真コンテスト	後援	全日本ろうあ連盟	山形県郷土館文翔館
6/14	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	日比谷公会堂
6/14・15	第62回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	群馬県・正田醤油スタジアム
7/9～15	東日本大震災・被災動物シェルター「にゅんだーガード」千葉写真展	後援	にゅんだーガード千葉写真展実行委員会	そごう柏店
7/23～28	第28回療育音楽指導者養成研修会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	新宿区、小平市ほか
7/24～26	第62回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	千葉県・市川市スポーツセンター
7/27	夏の交通遺児家庭を励ます会	後援	交通遺児等を支援する会	埼玉県・東武動物公園ほか
8/8～11、15～18、23～25ほか	朝日キャンプ	後援	NPO 法人朝日キャンプ	群馬県片品村・武尊牧場キャンプ場ほか
9/1	第17回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	水戸市・塚原運動公園武道館
9/12	第50回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビックホール
9/18～20	第40回国際福祉機器展 H. C. R. 2013	協賛	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京ビッグサイト
9/19	日本点字図書館・秋のチャリティー映画会	後援	日本点字図書館	なかのZERO
9/21・22	きょうされん第36回全国大会 in 東北・ふくしま	後援	きょうされん	郡山ユラックス熱海
9/27	第43回朗読録音奉仕者感謝の集い	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	弘済会館

日 程	催 事		主 催 者	会 場
9/29・30	第 39 回みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホールほか
10/4、 12/7・8	第 38 回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	東京都江東区・潮見野球場ほか
10/24	第 2 回ニューヨーク合唱フェスティバル	後援	文化芸能国際交流機構	カーネギーホール (米国ニューヨーク市)
10/26	第 45 回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会(東京・目黒区)
10/27	交通遺児等を支援する会第 10 回チャリティーバザー	後援	交通遺児等を支援する会	エステック情報ビル前 広場(東京・西新宿)
10/30	第 26 回全国障害者将棋大会	後援	全国障害者将棋大会実行委員会	北とぴあ(東京・北区)
11/1~3	サイトワールド 2013	後援	日本盲人福祉委員会	すみだ産業会館
11/2~4	第 36 回日本スリーデーマーチ	後援	日本ウオーキング協会、埼玉県、東松山市、朝日新聞社ほか	埼玉県東松山市などの 比企丘陵一帯
11/9	第 10 回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	ビッグボックス(東京・高田馬場)
11/9・10	第 17 回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会	後援	埼玉聴覚障害者福祉会、全国ろう重複児・者家族連絡会ほか	さいたま市・埼玉会館、 市民会館うらわ
11/15	平成 25 年度全国社会福祉大会	協賛	厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会	日比谷公会堂
11/22~24	情報アクセスビリティフォーラム	後援	全日本ろうあ連盟	秋葉原 UDX
11/27	第 25 回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール
11/30	本間一夫記念チャリティコンサート「岡村喬生 シネマコンサート」	後援	日本点字図書館	イタリア文化会館
12 月	交通遺児等を支援する会越年助成金	後援	交通遺児等を支援する会	
12/2~6	第 51 回弘済学園・わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会	JR 東京駅丸の内北口 地下動輪の広場
12/6~8	第 13 回全国障害者芸術・文化祭やまなし大会	後援	厚生労働省、山梨県、甲府市ほか	甲府市・アイメッセ山梨
12/20	第 62 回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会	東京都庁第一本庁舎大 会議場
12/20~25	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
12/22	第 7 回全国柔道事故被害者の会シンポジウム「スポーツ指導とハラスメント」	後援	全国柔道事故被害者の会	日本青年館会議室 (東京・新宿区)
13 年 3/1	メンタルヘルスの集い (第 28 回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	東京・有楽町朝日ホール

(※各事務所の区分は管内別)

名古屋事務所				
日程	催 事		主 催 者	会 場
4月～10月	第65回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県庁本庁舎ほか
4/14	第33回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	あま市甚目寺総合体育館ほか
4/27～5/26	平成25年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋・星ヶ丘ボウルほか
5/9～11/24	第10回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	瑞穂公園陸上競技場ほか
5/25～27	第16回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2013～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
6/22～23	第24回東海聴覚障害者体育大会	後援	東海聴覚障害者連盟	豊橋市総合体育館
7/7	第30回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	蒲郡市民会館
8/10～15	第30回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会親の会ほか	アイプラザー宮
8/17～23	第28回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション連合会	鈴鹿青少年センター
8/18～23	第41回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	ホテル ボンセジュール（蒲郡市）
9/10～12/10	第61回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
9/29	第37回 '13愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ひろば
10/5	生き生き長寿フェア2013「はつらつ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園（大府市、東浦町）
10/20	第41回医療講演会	共催	三重県重症心身障害児（者）を守る会	アスト津
10/24	第61回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
11/2	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	鯉城ホール（名古屋市）
11/10	第58回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市熱田文化小劇場
12/8	第53回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会ほか	小牧市民会館
14年2/16・22	平成25年度知的障害者支援者養成講座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ほか
3/1	NPO法人あいち福祉オンブズマン主催セミナー	後援	同NPO法人	朝日ホール

(※各事務所の区分は管内別)

大 阪 事 務 所				
日 程	催 事		主 催 者	会 場
通年	第 49 期電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	大阪府立羽衣青少年センター
通年	平成 25 年度「地域保健福祉研究助成」「ボランティア活動助成」	後援	公益財団法人 大同生命厚生事業団	大同生命厚生事業団
4/14	第 31 回日本ライトハウスチャリティコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール
4/18～20	第 19 回総合福祉展「バリアフリー 2013」	後援	大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪
5/26	第 20 回共生・共走リレーマラソン	後援	同マラソン実行委員会	花博記念公園・鶴見緑地
6/1・2	第 8 回堺国際ツーデーマーチ	後援	堺市、日本ウオーキング協会、朝日新聞社、南海電鉄ほか	堺市大仙公園一帯
6/2	第 20 回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員会	大阪市長居障がい者スポーツセンター体育室
6/7	「若さの栄養学」春の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
6/8	「共に生きる 17」コンサート	後援	共に生きるコンサート実行委員会	箕面市立メイプルホール大ホール
6/9	第 12 回全国ＬＤ親の会公開フォーラム	後援	NPO法人全国ＬＤ親の会	ドーンセンター
6/15	素のままフェスタ 2013	後援	素のままフェスタ実行委員会	豊中市立アクア文化ホール
6/15・16	第 29 回DP I 日本会議全国集会 in 神戸	後援	DP I 日本会議ほか	神戸市勤労会館
7/1・2	第 63 回近畿児童自立支援施設野球大会	後援	大阪府、近畿児童福祉施設協議会	久宝寺硬式野球場
7/1～9/30	2013 ボランティア・市民活動体験	後援	大阪市社会福祉協議会、大阪市ボランティア情報センター	大阪市内ほか
7/13	H25 年度合同求人説明会 福祉の就職総合フェア 2013 in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪 2 号館
7/13～21	2013 年度子供の城・障害児教育夏期連続講座	後援	財団法人 子供の城協会	公文教育会館地下ホール
7/18	第 63 回施設従事者激励会	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	新歌舞伎座
7/23～28	第 34 回子どもたちの讃歌展	後援	大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会ほか	大阪府立江之子島文化芸術創造センター
8/8～13	第 30 回土と水と緑の学校	後援	社団法人 アジア協会アジア友の会	和歌山県新宮市高田公民館ほか
8/10	2013 すいた共生・平和のつどい	後援	すいた共生・平和のつどい実行委員会	吹田市内本町コミュニティセンター
8/23～25	吃音親子サマーキャンプ	後援	日本吃音臨床研究会	滋賀県立荒神山少年自然の家
8/24～26	自閉症児キャンプ「のびのびキャンプ」	後援	大阪府青少年活動財団、NPO法人アサヒキャンプほか	奈良県・吉野宮滝野外学校

日 程	催 事		主 催 者	会 場
9/7、10/5	講座「わかればちょっと楽になる!『発達障害って』」	後援	精神障害と社会を考える啓発の会	大阪市立総合生涯学習センター
9/9・10	第6回全国精神保健福祉家族大会 ～みんなねっと大阪大会	後援	全国精神保健福祉会連合会、大阪府精神障害者家族会連合会	大阪国際会議場
9/22	第54回大阪知的障がい者福祉大会	後援	大阪手をつなぐ育成会ほか	八尾市文化会館プリズムホール
10/14	大阪YMCA第19回チャリティーラン2013	後援	大阪YMCA、ワイズメンクラブ 国際協会西日本区ほか	大阪城公園
10/19、20、26	第32回スポーツフェスタ2013 大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	大阪市長居陸上競技場ほか
10/20	ファインエリアフェスティバル2013	後援	同フェスティバル実行委員会、 大阪府立障がい者交流促進センターほか	大阪府立障がい者交流促進センターほか
10/27	第41回全大阪ろうあ者文化祭	後援	社団法人大阪聴力障害者協会、 大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障がい者スポーツセンター
11/9・10	第49回肢体不自由児者を支援する チャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由児者父母の会 連合会ほか	八尾市・買物公園
11/10	第37回福祉まつり	後援	第37回福祉まつり実行委員会	総合福祉施設「関目学園」と周辺
11/19	第14回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	太閤園
11/22	「若さの栄養学」秋の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
11/23・24	第22回全国ボランティアフェスティバル高知	連絡会議 構成団体	「広かれボランティアの輪」連絡 会議、全国社会福祉協議会ほか	高知県立県民文化ホールほか
11/28	平成25年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター
11/29	平成25年度医療社会事業従事者講習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪府社会福祉会館
12/4～7	第20回ノーマライゼーション絵画・創作展	後援	ノーマライゼーションクラブ	なんば高島屋
12/9～13	第37回チャリティー画展	後援	日曜画家協会	大阪市中心公会堂
12/22	平成25年度認知症講演会	後援	公益財団法人大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター
13年1/12	第34回みんなでつくるコンサート	後援	同コンサート実行委員会	西宮市ブレラホール
1/17～20	第31回ふれあいの街・チャリティーバザール	後援	大阪府社会福祉協議会成人施設 部会・セルブ部会ほか	高島屋堺店
1/23～28	第33回障がいのある子どもに学ぶ図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援 教育部、大阪市小学校特別支援 教育担任者会	大阪市長居障がい者スポーツセンター
2/15・16	TEACCHコラボレーション	後援	TEACCHプログラム研究会	京都染織会館
2/16	府民のつどい「大きく変わる難病対策の全体像」	後援	大阪府、大阪難病支援センター、 大阪難病連	エル・おおさか

日 程	催 事		主 催 者	会 場
2/22	福祉の就職フェア WINTER in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	大阪マーチャーズマート（OMM）ビル
2/12	第 52 回衛生教育大阪大会 第 56 回公衆衛生大阪大会	後援	大阪府、大阪公衆衛生協会ほか	大阪薬業年金会館
3/5～8	第 29 回肢体不自由児者の作品展	後援	大阪府肢体不自由者協会ほか	ドーンセンター
3/15～23	世界ダウン症の日写真展 In 大阪 2014	後援	日本ダウン症協会大阪支部	梅田スカイビル
3/27～29	大阪授産事業振興センター祭	後援	大阪府授産事業振興センター	あべのハルカス近鉄本店ウイング

(※各事務所の区分は管内別)

西 部 事 務 所

日 程	催 事		主 催 者	会 場
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（4 回）	後援	西日本カラオケ連合	北九州市内の生涯学習センターほか
13 年 3/10、 5/26、8/18	第 3 回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	鹿児島市小野球場、福岡県・大牟田市延命球場
5/26	第 51 回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市障害者スポーツ協会ほか	本城陸上競技場など
5/28～6/2 6/19～24	第 48 回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本鶴屋百貨店
6/2	日本リウマチ友の会第 53 回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	サンホテルフェニックス（宮崎市）
6/2	第 31 回北九州精神障害者家族会連合会総会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	あかつき会「さんらいず小芝事業所」
7/12～15	第 34 回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
8/9～11	第 58 回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
8/26～28	第 64 回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省、全日本少年野球連盟、全国児童自立支援施設協議会ほか	福岡県宗像市・グローバルアリーナほか
10/11	全国脊髄損傷者連合会「第 37 回九州ブロック会議福岡大会」	後援	全国脊髄損傷者連合会ほか	西鉄グランドホテル
10/13・27	第 50 回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	福岡市市民福祉プラザ、博多スターレーンほか
11/10～ 12/10	第 61 回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
11/16	第 34 回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省、日本歯科医師会、大分県歯科医師会ほか	大分市・i i c h i k o 総合文化センター
11/17	平成 25 年度ふれあい体育祭	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市小倉北体育館
12/1	第 16 回北九州市手話フェスティバル	後援	北九州市聴覚障害者協会ほか	北九州市立黒崎ひびしんホール

チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

【日本画】

(あ行)

相嶋崇人	青山博之	赤井春水	赤沢嘉則	秋本幸一	浅島裕志	朝比奈陽心	荒井孝
新井陽子	有賀明文	安藤徹	池田夏乎	石踊紘一	石崎昭三	石田幸誠	石塚青篁
伊勢巧	板垣青仁	市川保道	市野鷹生	市野晴美	市橋豊美	井手康人	伊藤獨
伊藤美月	伊藤正男	井上耐子	植田清子	上村淳之	鵜飼千佐子	臼井治	内田広己
烏頭尾精	梅原幸雄	江川照美	江口佳寿子	蝦名芳枝	遠藤隆稔	大嶋英子	大竹紫水
太田小晴	大塚千聰	大月紅石	大野廣子	大野幹彦	大森運夫	大矢時保	大矢十四彦
大矢紀	大矢眞弓	岡田郁子	岡田繁憲	岡信孝	小川国亜起	小倉理山	押元一敏
落合初美	小山硬	折式田生子					

(か行)

春日あけみ	加知満	勝田幸男	加藤恵	加藤美恵子	加藤哲男	兼島聖司	鎌田紀子
上岡奈苗	川合和子	河合重政	川崎マリ子	河嶋淳司	川島睦郎	川嶋渉	河津胖子
河村沙希	川本淑子	神林久子	菊川三織子	菊池治子	岸野圭作	木村光宏	金原保則
久芳道信	久保吉郎	久保孝久	久保嶺爾	倉島重友	倉田富美	倉地千枝子	栗原幸彦
黒光茂明	小泉智英	郷倉和子	香西坦子	香野ルミ子	小島光径	後藤順一	後藤紳也
後藤純男	後藤芳世	小林裕子	小林正直	小林六博	近藤ミヤ		

(さ行)

齋藤陽	斉藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明
佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	里見穎伸	猿橋幸治	重岡良子	品川成明	清水史郎
清水達三	清水信行	下川辰彦	下島洋貫	下田義寛	霜鳥忍	杉谷彩光	鈴木竹柏
鈴木至夫	千住博	染谷聡之					

(た行)

高越甚	高野純子	高橋新三郎	田口愛子	武市斉孝	田島奈須美	田代邦子	辰巳寛
伊達良	田中重造	田中瑞芳	谷井恵紅	谷口蕙香	田宮栄子	田村仁美	千村俊二
月居和子	辻村和美	津田勉	土長けい	土屋雅裕	角田範子	道家珍彦	戸田みどり
殿南直也	鳥山武弘						

(な行)

中岡友子	長崎莫人	中澤静	中島千波	永田実子	中谷温男	中庭隆晴	中野貴雄
中野嘉之	仲林敏次	中村宗弘	永森一郎	那波多目功一	成田環	新美葉子	仁木寿美子
西野陽一	西村勝廣	西村光人	西山英子	西脇繁華	沼本三郎	野原真澄	

(は行)

長谷川郁子	服部倫子	服部誠子	浜上俊和	濱田昇児	浜田泰介	林孝彦	林田啓江
林芳辰	林美枝子	原田巧	稗田一穂	日置宏輔	日比野光雄	平岩洋彦	平尾秀明
藤井康夫	藤原祐寛	二川和之	紅山幸水	堀川えい子	本間正英		

(ま行)

牧進	間瀬静江	間瀬静江	町田泰宣	松生歩	松尾敏男	松崎良太	松下勝正
松下宣廉	松下園江	松村公嗣	松室加世子	松本進	松本高明	松本実	真野尚文
三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	水野收	三谷青子	三宅和光
宮本脩子	宮本和胡	三輪晃久	村井玉峰	村田晴彦	村田林藏	森田りえ子	森英明

(や行)

矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳 績	柳沢正人	山口溪華	山口義明	山田伸
山平貞信	山本恭子	山本静香	山本しず子	山本真一	山本真也	山本兆揚	吉岡三樹子
吉田祥子	吉田多最	依田有立					

(わ行)

和田洸珀	和田利造	渡辺章雄	渡邊幸子	渡辺富栄	渡邊美喜		
------	------	------	------	------	------	--	--

【洋画】

(あ行)

饗庭昌貞	青江健二	青木今陽	阿久津正志	浅井清貴	浅井義弘	麻田博子	安食慎太郎
遊馬賢一	東弘孝	足立一夫	安達康夫	渥美静子	阿部信行	阿部晴美	安部英夫
天津恵	天野吉則	荒井孝	安藤公一	飯田道嗣	家田聖子	五百住乙人	池田くみ子
池田清明	池田洋子	恵俊彦	井阪仁	石川世始子	石阪春生	石田聖子	石根三千代
石野紀美子	石野容三	石橋武夫	石原章吾	石原ミチオ	泉富美	磯部徹男	板垣千鶴子
板倉美智子	伊丹重男	市村一	井手典子	伊藤郁	伊藤和義	伊藤清和	伊藤順子
伊藤純子	伊藤隆	伊東博子	伊藤弘之	伊藤文男	伊藤万几子	井藤雅博	伊藤康夫
稲垣龍雄	井上圭史	井上憲一	井上慎介	井上利哉	井口由多可	伊庭新太郎	今村昭寛
今村价男	入江観	岩井美津子	岩井康頼	岩崎雄造	岩瀬郁夫	岩田知幸	岩谷康世
岩渕晃三	岩本かずえ	イ・ワヤン・シーラ		上木伸之	植木美代子	上嶋スミコ	上尚司
上田真澄	上野憲一	上野千代子	上野理男	臼井恵之輔	碓井たか子	宇田喜久子	
打田幸男 (故人)		宇野孝之	宇野義行	生方純一	梅村徹	浦川彰子	栄永大治良
江上寿夫	榎本多恵子	江本繪門	江本佳寿子	遠藤晴夫	王前一馬	大石つね子	大岡立
大川浩市	大口邦子	大島泰子	大島幸夫	大谷哲生	大津英敏	大西生余子	大西弘之
大見巧	大森良三	大山富夫	岡貞徳	岡田俊一	緒方洪章	岡田全良	岡千秋
岡宏	岡本正尹	小川幸紅	小川周二	沖田廉平	奥田喜一	奥谷博	奥村聰臣
尾崎功	尾崎重春	納健	小澤一正	尾澤達也	小沢眞弓	小田島えい子	
織田義郎	越智節昇	乙丸哲延	小野仁良	小野知久	面矢元子	折本美祢子	

(か行)

加古千恵子	笠井誠一	梶浦寿布	春日井正	片山弘明	加藤助八	加藤千太郎	加藤トオル
加藤信子	金井順子	壁下孝	上所幹彦	嘉見敏明	辛島一誓 (故人)		加覧裕子
川井一義	川口輝夫	河西昭治	河野宗之蒸	川原比瑳子	河村科世子	河村雅文	木浦寛治
菊池郁子	菊地洋二	喜澤のり子	岸田淳平	岸田夏子	岸野昭	木谷利江	北見隆
北村美枝	北村美枝	橘田政明	木寺淳二	鬼頭恭子	城戸義郎	木下實之	樹林雅生
木村信之	木村正志	木村優博	木脇康一	日下直樹	草壁隆	草野直己	久世瑠璃
久保田政子	久保輝秋	倉田政子	倉持正	栗田政勝	栗牧慶次	黒川彰夫	黒木郁朝
黒木邦彦	黒木トシ子	黒木雅彦	黒沢信男	黒田秀方	黒田富紀子	黒田勝	黒田保臣
桑島春彦	小池かよ	小泉元生	小泉守邦	甲谷武	河本和子	小阪謙造	五島まさを
小杉小二郎	小瀬垣宏郎	後藤昭夫	小早川協右	小林千枝	小林八重子	小林裕児	小柳晟
小柳幸代	小柳吉次	小山成	近藤昭彦				

(さ行)

斎藤吾朗	斎藤孝弘	斎藤千川予	斎藤由比	佐伯浩	酒井英利	坂谷和夫	坂本直
坂本よしこ	櫻井孝美	桜井陽彦	佐光亜紀子	佐崎紘一	佐々木澄江	佐々木友幸	佐藤一成
佐藤勝信	佐藤潤	佐藤富美子	佐藤義光	佐野千津子	佐伯喜三郎	猿渡士郎	志賀源吾
四方道夫	鹿野富子	七里和子	芝田キク	柴田美智子	芝芳雄	嶋谷卓之	嶋谷美鈴
島田安雄	嶋津俊則	清水亟悞	清水鉄彌	清水佳子	下園由莉	庄司栄吉	白川順子

白坂介明	白鳥三郎	白山扶士子	新宅光男	杉浦充	杉田明維子	杉本澄男	杉山英子
鈴江章郎	鈴木勝之	鈴木貞子	鈴木田俊二	鈴木延雄	鈴木福男	鈴木マサハル	
瀬尾一嘉	関口貴美	瀬下ゆり子	世利徹郎	園山幹生	祖父江弘幸		
(た行)							
大門正忠	高浦雅子	高木政彦	高松政子	多賀谷無人	滝沢直次	滝滋	瀧田依子
宅田忠正	田口正子	田口貴久	竹内喜久江	竹内重行	竹内靖夫	竹生節男	竹原邦樹
多田すみえ	辰将成	楯岡和子	田中敏夫	田中仁士	田中良	田辺新吾	谷川泰宏
谷口和正	谷本暁雄	田伏勉	玉谷明美	玉谷優	田村正幸	知念正文	中條健史
塚田清	塚原ヨリ子	塚本英一	塚本吉廣	津川純子	津田勝利	堤慶	椿野浩二
鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一	出口修	出村幸代	寺沢順子	寺西進三郎	土井邦晃
遠山源吾	戸高明義	外処旭	富澤尚美	友成晴雄			
(な行)							
中井一誠	長井宏之	長澤すみ江	長澤卓重	ナカジマカツ		中嶋国博	中島裕司
中嶋美瑛子	中田順	中谷健三	長富博子	中西文彦	中西良招	中野治朗	長濱伶子
中村郁夫	中村英	中村晃子	中村光幸	生井京子	檜崎重視	難波忍	仁木雅子
西井義晃	西澤知江子	西田藤三郎	西野一郎	西村純子	西村壽郎	西山徹	新田ゆき子
丹羽直子	抜井亀良	塗師祥一郎	沼尾雅代	沼田月光	根萩斎門	野田富三郎	ノブサチ
野村亜紀子	乃村豊和						
(は行)							
萩原栄文	橋本忠夫	長谷岩友	長谷川和子	長谷川仂	馬場一郎	浜口美和	濱田進
濱田弘康	濱本恵一	早川勝	林孝三	林茂樹	原田たかし	原田嘉徳	原尚子
原秀樹	半澤満	日賀野兼一	樋口貞男	平磯彰	平岩郁郎	平尾倫子	平川富貴子
平野昭子	廣岡清武	広瀬範	広田和典	深川和久	深津静男	福岡幸子	福岡通男
福永紀子	福原満江	福満よさ美	藤井多鶴子	藤井勉	藤浪成喜	藤村サツ子	藤本正男
藤森悠二	布施久美子	船本清司	ブライアン・ウィリアムズ			別府忠雄	帆足ゆり
保ヶ渕静彦	細川進	細谷久美子	堀井克代	堀尾一郎	堀太郎 (故人)		堀博喜
本間千恵子							
(ま行)							
前川雅幸	前島隆宇	槇利光	牧野美代子	卷山昌宏	正木茂	桎木高	真砂貞二
マサルW	松井茂樹	松井三希央	松浦正博	松浦安弘	松樹路人	松沢茂雄	松田貴美子
松永罇子	松原政祐	松村和紀	松室重親	松本年晃	馬淵鈴美	三浦敏和	三浦勉
三木義尚	水野伊津子	水野輝子	水野一	水野尚	溝淵泰史	源尊磨	三柊明子
三宅四郎	宮崎進	宮下由夫	宮田翁輔	宮平勉	宮本裕之	宮山博司	村井成好
村井洋子	村岡顕美	村瀬京平	村田伊佐夫	村山容子	村山陽	毛利弘子	森勇
森下ヒロ子	森田眞	森田幸宏	森長武雄	森文男	森本計一	森本有一	
(や行)							
八木時子	安井啓二	安井正子	安居素子	安富信也	安福葉子	柳瀬俊泰	矢野喜久男
矢萩武三志	八尋隆徳	藪野健	山尾才	山岸用之介	山口剛生	山口静治	山口隆夫
山口美佐子	山下恒子	山下毅	山田正二	山田精一	山田嘉彦	山手正彦	山寺重子
山之内弘	山本亜稀	やまもと悦子		山本悦子	山本虎雄	山本文彦	横井三郎
横内襄	横山申生	横山了平	吉岡耕二	吉城弘	吉田清光	吉田淳一	吉田敏男
吉田緑	吉野清	吉村美令由	米田整弘	米満大九郎	余村展		
(わ行)							
脇幹夫	渡辺明	渡辺一夫	渡辺卓美	渡辺正夫	渡邊妙法	渡辺良一	和田行雄
渡紀美子							

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木拳	栗生屋東洸	青山鉄郎	赤毛敏男	秋野宏和	浅蔵五十吉
浅蔵一華	浅原千代治	足利直子	東正之	与勇輝	安達章	安達雅一	新欽嗣
雨宮弥太郎	荒井さつき	荒川達	嵐一夫	有松進	有本空玄	安藤和久	安藤則義
安藤博允	井尾建二	池島玲子	池田珪子	石井視子	石川満	石崎光四郎	石野泰造
石橋裕史	石山静男	伊豆蔵幸治	伊勢崎淳	伊勢崎創	磯部晃	市川博一	市川正美
市野悦夫	市野勝磯	市野元祥	市野元和	市野信水	市野哲次	市野年成	市野英一
市野雅彦	市野正大	市野勝	糸井康博	伊藤敦子	伊藤憲一	伊藤公洋	伊藤優
伊東祐一	伊藤良典	伊藤渡	稲垣太津男	稲垣幹夫	稲嶺盛吉	稲荷作	井上浩一
井上萬二	井上康德	井上楊彩	今泉今右衛門		今井紀昭	今井政之	今西方哉
伊村徳子	井村まゆみ	岩井香楠子	岩瀬健一	岩本孝志	植竹敏	上田哲也	後田和孝
宇田川溪山	宇田川玄翁	(故人)	内堀敏房	内村幹雄	内山政義	浦上光弘	うら林あきお
永楽善五郎	江口康成	大石督幸	大泉讃	大上巧	大河内泰弘	大川正洋	大倉貞義
大倉真汝	大塩玉泉	大塩昭山	大須賀選	大角幸枝	太田和明	大谷昌祐	太田貢
大槻昌子	大野晃幹	大野耕太郎	大野昭和斎	大野誠二	大橋聡子	大橋裕	大場匠
大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋長左衛門		大樋年雄	大平和正	大平孝昭	岡澤伸之
岡田崇人	岡田親彦	岡田春海	岡田裕	岡本篤	岡本信也	岡本白水	
岡本碧山	(故人)	小川真之助	小川長楽	小川二楽	荻内善晴	荻原毅久	荻原守彦
奥田浩堂	小口千鶴子	奥村公規	奥山峰石	小倉健	小椋範彦	桶谷洋	尾西楽齊
小畑裕司	尾張裕峯						

(か行)

角谷英明	各見飛出記	隠崎隆一	加古勝己	鹿児島成恵	笠居久男	鹿島和生	梶原茂正
勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	加藤永司	加藤錦雄	加藤錦三	加藤溪山
加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤作助	加藤春鼎	加藤唐三郎	加藤土史路	加藤土代久	加藤陽児
加藤嘉明	加藤廉平	可児一広	金子信彦	金子認	金重晃介	金重利右衛門	
加納義光	樺澤健治	鎌田幸二	神谷英介	亀井幸一	亀井勝	加守田太郎	川井明子
川井明美	河井喜代子	河合竹彦	河井透	河井敏孝	川合正樹	河上恭一郎	川上力三
川喜田敦	川北浩彦	川北良造	河口純一	川口保規	川崎鳳嶽	河島洋	河内國平
川手敏雄	河端一海	川端近左	川端文男	川原和夫	川淵直樹	神崎継春	神崎正英
神戸義憲	菊池昭	菊池挙子	岸本久泉	菊地弘	北大路泰嗣	北岡省三	北岡秀雄
北口夢石	北野勝彦	北村和義	北村堅治	北村英昭	吉向孝造 (九世松月)		
吉向琮斎	(八世松月)	衣川俊仁	木村芳之助	木村玉舟	木村素静	木村展之	木村雅子
木村充良	木村盛和	木村盛伸	木村盛康	木村好博	清水六兵衛	吉良博	久野勝生
栗林一夫	黒岩卓實	黒木国昭	黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	桑原みさ雄	元田五山
鯉江廣	厚東建信	神山直彦	神山易久	小島憲二	小嶋太郎	小峠葛芳	小西陶蔵
小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小林一雄	小林一富美	小林東洋	小林浩	小林文一
小林貢	小林勇超	小林理恵	小南吉彦	小森邦衛	小谷内和央	小柳種園	小山貴由
近藤しゅうじ		近藤精宏	今野春雄				

(さ行)

斎木勲	齋藤修	斎藤鷹郎	斉藤則行	斉藤裕子	西念秋生	佐伯健剛	坂井修
坂井貂聖	坂井教人	酒井博司	酒井芳樹	榊原啓司	榊原勇一	坂高麗左衛門 (十三世)	
坂田甚内	坂手春美	坂本利夫	坂本俊人	佐久間藤也	笹岡基三	佐々木厚	佐々木省庵
佐々木二郎	佐々木苑子	佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子		佐藤和彦	佐藤苔助
佐藤喬	佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	寒川栖豊	寒川義崇	澤克典

澤清嗣	沢田重雄	沢田豊山	柴岡信義	柴田好明	芝山吉邦	島岡桂	島田緋陶志
島田文雄	島本悠次	清水潮	清水潤	清水醉月	清水剛	清水千代市	清水俊彦
志村ふくみ	志村洋子	庄村健	白武初芳	白幡明	城間栄順	新庄貞嗣	新谷一郎
神農巖	杉浦文泰	杉江明美	杉江善次	杉本貞光	鈴木藏	鈴木環	鈴木五郎
鈴木茂至	鈴木爽司	薄田浩司	鈴木富雄	鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山	瀬津純司
曾我阿嬉子	十河慶子						
(た行)							
平良敏子	高内秀剛	高岡久美子	高権成	高聡文	高橋彰	高橋佐門	高橋新六
高橋政男	高橋楽斎	高橋和三郎	高原卓史	高見勝代	滝口和男	瀧口喜兵衛	武石和春
竹内眞三郎	武腰潤	武腰敏昭	竹田忠生 (尋牛)		武田敏男	竹之内彬裕	炬口佳枝
武村豊徳	竹村繁男	田島明	多田光宏	伊達陽一	田中忍	田中紀子	田中悠子
田邊小竹	谷川仁	谷口玄	谷口幸二	谷口正典	谷清右衛門 (五代)		谷野明夫
谷野剛惟	谷本あけみ	谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛	玉村松月	玉村登陽	田村敬星
力石俊二	塚原三千勝	塚本治彦	塚本満	辻英芳	辻毅彦 (故人)		辻常陸
津田哲司	土田友湖	土屋典康	筒井修	筒井辰也	都築青峰	堤圭一	恒岡光興
出口清廣	手塚隆	手塚央	寺井恭	寺池静人	寺田みのる	寺本守	天坊昌彦
徳田明美	徳田八十吉	豊住和廣	豊場惺也	豊本信子			
(な行)							
長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中川進	中川つや子	中里重利	
中里太郎右衛門 (十四代)			中里壽	中島翁助	中島卓	中嶋武仁	中嶋虎男
中島宏	中島保美	中島悠紀夫	中田呂尚	中塚佐一	中根秀介	中野一政	中野亘
中村眞一	中村宗哲	中村雅明	中村實	中村豊	中村芳弘	並木恒延	難波好陽
難波誠治	新野素子	新美吉昭	二貝清一	西浦武	西岡良弘	西尾茂	西尾瑞舟
西尾武人	西川勝	西川實	西田真也	西村源治	西村松逸 (優)		西村直城
二十歩文雄	根崎隆博	納富晋	野坂和左	野坂康起	野嶋峰男	野田東山	延原勝志
(は行)							
萩井一丘	萩井一司	迫二郎	橋爪靖雄	蓮善隆	糠川孝之	長谷川文陽	長谷川豊
秦蔵六	波多野善蔵	波多野英生	羽田登	波多野正典	麦畑耕生	花輪滋實	羽石修二
馬場九洲夫	馬場弘吉	羽原一晃	浜田英峰	濱中月村	早川嘉則	林慶六	林健人
林寧彦	林亮次	原清	原田拾六	原田隆峰	ピーター・ハーモン		稗田寿炎
東田茂正	東直人	樋口大桂	樋口雅之	久田邦男	樋上千哲	平澤登	平野祐一
平野由佳	廣澤益次郎	広沢葉子	広田優美子	深川巖	福井由美	福岡琢也	福島武山
福田喜重	福田参平	藤井敬之	藤田潤	藤塚松星	藤村州二	藤原楽山	冬柴文廣
古堅幸雄	古瀬堯三	古田好孝	古谷徹	古家喜義	帆足まおり	堀俊郎	堀野証嗣
堀菱子	本郷大田子						
(ま行)							
前田泰昭	前端雅峯	前史雄	味舌隆司	眞清水蔵六	増田昌弘	松井康陽	松尾潤
松崎健	松嶋弘	松平順彦	松林正人	松村仁団望	松村拓夫	松村昌子	松本為佐視
松本勝哉	松本佐一	マツモトタカシ		松本達弥	松本政昭	松本良夫	丸田延親
三木表悦	水野敬子	水野静仙	水野鈺一	水野教雄	水野真澄	溝上藻風	三田村有純
三ツ井詠一	美藤康夫	皆川隆	宮川香雲	宮川香齋	宮川弘尚	宮田豊	宮田亮平
宮地生成	宮地陶博	宮本直樹	美和隆治	向山文也	夢童由里子	村井一郎	村上東市
村瀬玄之	村田肇一	室瀬和美	室町勝廣	モーガン・ルイス		百田暁生	森一蔵
森伊呂久	森一洋	森勝資	森克徳	森里秀夫	森下育郎	森大雅	森田芳伯
森陶山	森本英助	森泰司	森山寛二郎	森脇文直			

(や行)

安田道雄	矢内齊	柳橋修二	山内厚可	山内一生	山口堅造	山口宏夢	山城建司
山田和	山田和俊	山田耕作	山田孝藏	山田進二	山田正博	山田みどり	山田義明
山近剛	山近泰	山出勝治	大和潔	大和努	大和保男	大和祐二	山中辰次
山本修	山本象成	山本眞輔	山本唯与志	山本雄一	山本竜一	湯村京子	横山尚人
吉賀将夫	吉川千香子	吉川正道	吉田隆	吉田美統	吉田喜彦	吉富文代	好本宗峯
吉本正	米田萬太郎						

(わ行)

若尾経	若尾利貞	若宮隆志	脇田宗孝	脇本定三	和田桐山	渡辺松華 (礼而)	
渡辺琢哉	和田一人						

【版画】

(あ行)

秋元幸茂	安東菜々	井川鉦之介	池上壮豊	池間英治	井堂雅夫	井上勝江	植野史煌
浦田周社	えもときよひこ		大槻玲子	尾崎淳子	尾崎斎晃	小原喜夫	園城寺建治

(か行)

片山誓泉	河内成幸	木嶋ちさ加	木田安彦	木村秀樹	清田雄司	日下賢二	日下里美
國安珣子	熊谷吾良	黒木良典	古賀章	小崎侃			

(さ行)

サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	塩田みはる	志野和男	白木俊之	須田敏夫	世古剛
-------	-------	------	-------	------	------	------	-----

(た行)

高部多恵子	高柳裕	瀧秀水	田中喜一	田中良平	地井紅雲	辻憲	鶴岡さゆり
富田文雄	富張広司						

(な行)

中野洋一	中林忠良	西貝和子	野田哲也	乗兼広人			
------	------	------	------	------	--	--	--

(は行)

浜本幸男	原三佳恵	藤田慶次	船坂芳助	星野美智子	堀江良一		
------	------	------	------	-------	------	--	--

(ま行)

増田陽一	三田村努	宮田三郎	望月厚介				
------	------	------	------	--	--	--	--

(や行)

柳沢京子	山本桂右	山本光生	吉田正樹				
------	------	------	------	--	--	--	--

(わ行)

米倉泰民	渡辺達正	渡会純价					
------	------	------	--	--	--	--	--

【書】

(あ行)

浅井機山	綾村捷子	新井光風	飯高和子	石飛博光	石本法子	江口大象	榎倉香邨
大石三世子	太田義久	小川東洲	尾崎邑鵬				

(か行)

笠原祥道	榎本桑牛	金澤翔子	杭迫柏樹	黒田賢一	黒野清宇	小島寿	後藤汀鶯
小伏竹村							

(さ行)

佐藤煒水	師村妙石	鈴木春朝					
------	------	------	--	--	--	--	--

(た行)

高木聖鶴 田口尹基子 竹中青琥 田中光穂 田中蘆雪 鼓芳石

(な行)

中川裕皓 永倉史煌 中野北溟 中村秀峰

(は行)

秀島踏波 藤野北辰 甫田鶏川

(ま行)

増永広春 水嶋山耀 村上俄山

(わ行)

渡邊笙鶴

【著名人】

(あ行)

藍弥生	秋元きつね	吾妻ひでお	有馬頼底	安齋肇	いしいひさいち	石田隆
市田ひろみ	井筒啓之	稲畑汀子	植田豊弼	上野道善	上村貞郎	宇野亜喜良
榎木孝明	蛭原あきら	王貞治	大野玄妙	岡田圭介	小澤一雄	江上泰山

(か行)

香川元太郎	かしわらあきお	片山治之	加藤一二三	金子兜太	かわぐちかいじ	
川津祐介	河村立司	木内達朗	喜田川昌之	きたざわけんじ		北見けんいち
きむらゆういち		清原なつ	黒井健	河野太通	こうの史代	小林太玄
小林隆彰	小山幸容	工藤直子				

(さ行)

さいとう・たかを	酒井駒子	坂田藤十郎	狭川宗玄	佐藤邦雄	三遊亭圓歌	三遊亭円楽
ジェームス三木	下村瑞晃	宿輪貴子	笑福亭仁鶴	しりあがり寿		新川和江
鈴木英人	千玄室	千宗左	千宗室	千宗守	ソリマチアキラ	

(た行)

高田明浦	高田良信	高橋真琴	多川俊映	武内祐人	田島征三	田代卓	立本倫子
田中恭一	谷川浩司	ちばてつや	中条春野	辻和雲	寺門孝之	唐仁原教久	

(な行)

内藤貞夫	永井ひろし	中原誠	中村梅之助	なかむらるみ	鯨江光二	成瀬國晴
西巻茅子						

(は行)

萩尾望都	長谷川大眞	長谷川義史	蜂谷宗玄	羽生善治	はまのゆか	ヒサクニヒコ
日野西光尊	日比野克彦	平野甲賀	弘兼憲史	藤子不二雄④	古川薫	古川タク
堀江滌子	堀内宗心					

(ま行)

前田孝道	前田昌道	増山修	松浦俊海	松久保秀胤	松長剛山	マツモトヨーコ
松本零士	美樹本晴彦	嶺興嶽	村上康成	森清範	モンキー・パンチ	

(や行)

やくみつる	八代亜紀	安井寿磨子	安彦良和	山口哲司	山口はるみ	ヤマザキマリ
山田ケンジ	山藤章二	やよいとしん		蓬田やすひろ		

(わ行)

若尾真一郎

【Next Art 展推薦作品の制作者】

青木香保里	a k a t i n	飴本崇久
市塚寛子	伊藤尚尋	稲恒佳奈
岩崎夏子	うじまり	梅田美里
大平由香理	佐々木敬介	佐藤明日香
社本奈美	進川桜子	すー
鈴木啓正	財田翔悟	立木美江
立澤香織	田村美智子	中島淳志
仲山佳菜	西宏武	西村万里
濱川芽依	前田龍一	松尾彩加
松川佳代	松本実桜	横山なおみ
涼		



写真は朝日新聞のチャリティー美術展特集紙面。東京展（右上）、大阪展（左下）、名古屋展（右下）

ご寄付をいただいた皆様

2013年度に全国の皆様から当事業団に寄せられたご寄付は、総額2億1001万9087円にのぼりました（当事業団の東日本大震災救援事業への寄付4572万1384円を含む）。朝日新聞読者をはじめ、企業、団体、グループ、学校など、多くの皆様が当事業団を寄託先として選んでくださいました。また、近年は香典返しや遺贈の送り先に当事業団をご指定いただくことも増えてまいりました。ご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志はこの事業報告で紹介している、さまざまな福祉事業に充てさせていただきます。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご寄付いただいた皆様は次の通りです（敬称略）。

※掲載スペースに限りがあるため、東日本大震災救援事業へご寄付いただいた方のお名前は、匿名希望の方とともに省かせていただきました。

- 【北海道】 出立直行、右川美子、大島陽太郎、長内諄子、加藤一衛、川端暢文、坂井洋一、札幌市・チャリティーコンサートvol. 4、清水幸子、鈴木真知子、高木医院、田代理枝子、田中幸男、登尾政樹、西田聖、発寒中央病院、花岡知之、浜島泉、右川美子
- 【青森県】 天野正文、石井淳夫、工藤協志、今洋治、佐藤絹代、佐藤内科小児科医院、佐藤祐逸
- 【岩手県】 飯島仁、石川洋子、佐々木茂、佐藤文夫、沢良恭、菅原一成、安井豊
- 【宮城県】 天粕典子、熊谷真理子、佐々木潔、宍戸富士夫、菅原裕子、日野洋子、松本真奈美
- 【秋田県】 金田真理子、田中典子、鶴田貢、宮下正弘
- 【山形県】 斎藤万一郎、島津博達、高橋耕三、成瀬牧子
- 【福島県】 ASA福島北部、阿部勇、荒井俊子、上野照男、中島康夫、樋口勇、星熊雄、室井秀一
- 【茨城県】 ASA牛久西部、畦倉信子、内山桂子、大原和夫、大村三樹男、岡山伸一、荻原奉祐、奥沢裕二、小澤皓雄、川島房宣、菊田公明、窪田敏廣、駒井英子、斉藤恒秋、酒井弥寿子、佐藤正喜、袖山昌子、高橋森音、田中忍、辻久茂、根本承次郎、藤本律子、村田明、縦山診療所、横瀬利昭
- 【栃木県】 縣君子、新井正男、石井平弥、市村優佳、伊藤洋子、ウエストリバーデングolfフェーズクラブ、鎌田正信、滝童内のり子、手塚正志、成田、平野敬、福田仁、星野恵子、三村美知子、湯浅末吉
- 【群馬県】 ASA前橋西部、石北明、金井清、斉藤恵利華、鈴木憲一、高橋信二郎、田中嘉親、橋本新聞販売(株)、三田真由美
- 【埼玉県】 青木克美、秋元睦子、ASA小手指・狭山ヶ丘、新井諒、荒木正弘、磯芳枝、伊藤節子・壮、井上桂子、猪俣眼科医院、上杉清秀、植野むめ、内堀多美子、内山豊美、浦上知子、大久保典義、落合富士也、鬼塚磐雄、加須ほくさい美術館、加藤徹、金子千侍、河内利雄、川田実、菊池巖、北沢正嗣、鯉登信義、鴻生会小室クリニック、古郡嶽雄、後藤節子、小林治美、小松佐敏、西塔美代子、佐藤一利、澤野宏、シニアユニバーシティ大宮中央校6期校友会、柴田真樹、志村潤子、鈴木清、鈴木道明、鈴木芳子、関本千恵子、高木恒太郎、高崎道子、高澤正子、高橋洋子、高橋治男、高橋光男、田口滋郎、田代すぎ、田林クリニック、辻千代子、津田信一、手塚リリ子、鉄子写真頒布の会、寺本昌雄、内藤哲、中出満子、永松弘子、名越啓史、名村てる江、西間木久子、西森幸雄、橋本哲男、服部侃、馬場夕美子、浜中隆彦、早川宣彦、平野勝誠、深井勝己、福田利幸、藤高誠一郎・小葉莉、プラスワン印刷企画、古谷信雄、星恭治、星野宗弘・伸子、星野昇三、堀内文治、堀内威男、町田金治、松本繁雄、宮崎恵子、宮嶋祐一、宮本眼科医院、村岡美佐男、茂木克己、八代義治、山田俊二、山田雄三、脇谷精二、渡辺茂樹、渡部二六
- 【千葉県】 秋山貴子、ASA青堀、浅井邦彦、ASA行徳東部、(株)朝日カルチャーセンター千葉、天野昌紀、雨森勇、荒川峰夫、安斉悦子、安藤博、飯塚登、池田守、池田キコリ、石井正男、石井従道、磯辺栄、一井美代子、今田利江、上野一則、薄葉千恵、宇都宮利善、江刺富美子、(有)エル・

ティーマツウラ、大沢珪、大谷洋平、大屋康夫、岡部匡克、岡村和則、小川裕、奥谷賢一郎、加瀬威、加藤章吏、唐木田卓司、川島正治、川田雅昭、川浪良子、岸波弥栄、木下進、木下義雄、木村スミ、清古高志、黒川五郎、小池菊平、小泉惇子、興和台ピンポンクラブ、桑折勇一、小坂部正巳、小西祥枝、小林一博、小宮山良男、今裕之・久子、斎藤たかし、坂野康郎、佐々木正子、佐々木信代、笹島一江、佐藤、椎根良治、嶋田博子、生涯現役ときわ会、白濱雄三、杉谷道子、スギヤ英数塾、鈴木恵美子、薛久光、善當治昌、高木逸子、高野とし子、高橋和哉、高橋宏美、田口久雄、田口泰子、武富末廣、立田文夫、棚橋智子、田村郁夫、「小さな親切」運動ちばぎん支部、千葉北部朝日会、角田邦子、照山栄、土気南中学校区青少年育成委員会、土橋順三、都丸司、とみうら薬局、長塚猛・一枝、中野幸子、中村浩明、名取光博、生天目里枝、西牧正孝、日本芸能の集い、根本達久、野田市立山崎小学校、橋本正夫、畠山アイ子、蜂谷佳子、服部恒明、服部貴志江、はっぴい・べっせる、林道子、林雅意、林常蔵、広田栄次郎、福地美津子、藤谷玲子、古川医院、平成会、細田康子、前田永子、松下優子、松戸いずみ幼稚園、松丸博昭、三浦洋、溝江茂樹、三石昭、宮内謙二郎、宮崎芳男、牟田口良子、武藤弘、村尾和子、望月照正、森田力、山内幸夫、山田修一、大和均、山本勲、山本守之、鎗田努、吉岡真利子、吉田勤、力武医院、若佐行延

【東京都】相澤勇、秋田三穂子、秋山健一、秋山栄、阿久根英昭、ASA大塚仲町、ASA白金、ASA八王子南口、ASA府中西部、浅賀登志子、朝日新聞信用組合、朝日新聞社販売局、朝日トップス(株)社員会、(株)朝日メディアネットワーク、油正男、阿部紀美雄、阿部和彦、天野重夫、安室礼三、鮎澤知枝子、有泉博、安藤丘・弘中幸子、飯塚京子、五十嵐篤男、五十嵐信日子、生田靖子、石井フミ、石井明美、石川百合子、石川国雄、石崎朝世、磯貝博司、市川政雄、伊藤欣治、伊藤文子、伊藤昌子、稲場昌助、井上敦夫、井上健、いの耳鼻咽喉科、今村旬之介、上野学園、上原博、上原京子、宇佐見清・勝美、宇田川亮一、宇田川正行、宇野勝巳、宇野昭二、梅村寛、羽立賢二、江川礼子、榎本明江、榎本淳子、m・f、遠藤早苗、遠藤耳鼻咽喉科・アレルギークリニック、櫻美会、大澤金政、大島尚子、大関兌、太多和彦一、大鶴錦利、大西謙造、大沼正博、大野医院、大房順雄、岡崎久子、岡田和義、岡田敬子、岡田肇、岡部長廣、岡見千代子、小川順子、小川美恵子、越智信夫、乙黒耕一、小野百合子、小野瑛子、小野寺フミ、海藤ヒデ子、垣添忠生、角田邦明、春日一浩、加藤直行、加藤幸雄、加藤季子、加藤須賀子、加藤徹郎、加藤正弘、金本しげり、金山信夫、金子千恵子、鎌田昭次、川久保福市郎、川端章一、川畑俊和、河辺町4丁目囲碁愛好会、河部寛美、菊地まり、岸田隆秀、北澤正子、北田和幸、北村トミ、北村満子、杵勝会、木下澄江、木村文治、木村順子、清瀬薫、草野てい、工藤三夫、工藤美、功刀正仁、久保孝行、窪田武雄、倉持ひろ子、栗田直次郎、栗原一郎、黒坂圭太、黒須誠、梶谷クリニック、国府田七郎、小勝竹雄、小平三郎、小林一正、小林金太郎、小林建次、小林光江、小林巳之、小林ユキ、小船次子、小峰真紀子、古屋武史、小山睦子、近藤麗、近藤和恵、彩季会、齊藤善五郎、斉藤武子、坂井悦子、坂井則幸、坂井昭七、阪口耀子、坂口悟、坂口比呂子、佐久間コマツ、櫻井澄子、佐々木胤郎、指田實郎、佐竹芳浩、佐藤静夫、佐藤恵子、佐藤文雄、澤田稔子、サン・マルコ、実践家政科会福祉部、清水勝・厚子、清水太一、清水歯科医院、下山静子、城北学園父母会、白石みどり、白井鈴子、杉浦和子、杉田隆志、鈴木雅子、鈴木正義、鈴木幸雄、鈴木正次、鈴木荘一、鈴木誠、鈴木陽朗子、須田明子、スチューデンテン仙川、聖学院幼稚園、聖学院幼稚園保護者会、仙頭邦子、添田トシ子、添田行雄、大東学園高校ものづくり研究所部一同、高岡信男、鷹野寿恵子、高橋不二夫、武井鑑、武井靖子、竹上秋彦、竹中勇、蛸井眞、田島昌子、田代田鶴子、橘ダンススクール、田中喜久子、田中啓司、田中正大、田中ゆき子、田辺眼科、谷下一夫、田部美智子、田村義昌、田村クリニック、小さなかけ橋合唱団、千葉瓊子、中央大学・校友会・体育連盟・アメリカンフットボール部、朝陽同窓会・新八会、韓国家庭料理・珍味、辻暁子、辻久美子、土田豊・あつ子、堤次雄、鏑晃一・与志江、椿弥一、津保善次郎、寺坂孝子、寺澤真由美、寺田眞文、天狗連、都甲雄介、利根澤正弘、飛田満彦、富田博樹、富永聖一、富村憲一、内藤齊、中井章夫、中川潔・泰子、中川雅代、中小路淑江、長沢淳、中沢昌子、中島明道、中西則子、永野修、中道秀和、永峯寿美子、中村斐子、中村邦彦、名取こずえ、奈良昌一、鳴海忠市、南晴病院、西川とし、新田國夫、日本コントラクトブリッジ連盟、沼沢良樹、野本登、橋中孝枝、(有)橋本新聞舗、羽田竹美、羽月昌子、羽鳥公子、浜田隆、早野良子、原田環爾、原野進、「ハレ女委員会冬の学園祭」特別協賛社一同、伴亘、日向重之、日上操、平井俊策、平野真弓、廣瀬明、深川スミ子、福井正行、福井一彦、福代衛、藤川順子、藤原弘子、フラ・ハーラウ・オ・マカナニ、星野富榮、細田美

代子、堀義久、本浄寺、本多武、眞板幸子、前川信朝、増田照雄、松原昌尚、松森肇、丸山彰、三浦すみ子、三上訓正、水井君枝、水上篤・よし美、水越次男、水野園、三角偉友、宮内繁、宮崎蓉子、宮崎澄子、宮澤信一、向井昌子、村松栄幸、目黒進、持田政彦、矢野一男、山形昭、山岸悠子、山口八千代、山崎清、山崎敏光、山下国俊、山下清子、山下妙子、山中偉光、山村伸一郎、山室和夫、山本松次、山脇学園中学高校、湯原孝夫、横田清子、吉岡容子、吉澤忠一、吉澤禮子、吉田昭二、吉村友里、レジデンシア春日安藤坂自治会、若林英敏、若山麻美、鷺嶺邦彦、和田恭則、渡辺伎美、渡辺和美、和田裕久、渡部通英

【神奈川県】愛甲雅子、曾田秀介、青木幸雄、青木稔、秋本典子、秋山康吉、ASA青葉台北部、ASA上永谷、ASA大沼、ASA上大岡社員一同、ASA港北NT東部、ASA田園田奈社員一同、ASA中山、ASA藤沢中央、ASA妙蓮寺、ASA三ツ境南部、あしび・石田隆子・井内紀子・森田栄子・馬籠妙子・前田博一・佐藤眞津美・松野すみ子・増谷豊子・岩沢容子・大字君子・原口由美子・石井ふみ子、芦村隆生、阿部潔、阿部純和、新井敏文、栗野瑞子、安斉京子、飯田喜八郎、飯沼和夫、家本誠一、池川明、生駒初枝、石井啓子、石川忠雄、石田一郎、磯崎功、磯野喜美子、市村淑子、伊藤長門、伊東欣二、伊藤道子、井上昭、今津弘、今村義弘、岩橋節子、上田富恵、内山哲哉、内海伸子、(株)エイワ、恵畑欣一、蛭名基子、m・m、遠藤ゆきと歌仲間、及川博樹、大越政子、大関タカ、大堀末雄、大山行雄、岡木隆敏、岡田啓介、岡村内科医院、岡本啓子、奥村莊哉、小栗正文、小沢英雄、小野蕙子、梶谷恵子、梶原孝久、春日廣之助、加藤弘道、加藤光子、加藤映子、加藤敏平、神奈川県少林寺武道競技連盟、金子正久、川上庄司、川島敏男、川邊和夫、川村康子、瓦田信彦、菅野喜和、菊地政義、菊池武、喜久村繁、北村美恵、北村シヅミ、木下眞理子、木村ひな子、木村真太郎、京嶋俊信、日下誠二、国井勝江、久保田知子、倉知千枝子、桑田光子、高口湧太郎・颯太郎、小嶋一夫、小杉弘、小菅興正、小林清吉、小室真、斎藤捷彦・万寿子、齊藤きよら、斉藤清、斉藤好次、佐伯泰志、三枝雅樹、嵯峨紀久子、坂田廣愛、桜井祐二、佐々木光明、佐々木秀雄、さつき町ファーマーズ、佐藤マツ子、里見桂子、座間博、猿田逸夫、沢田叶也、沢田君代、(有)三和看護婦家政婦紹介所、(有)三和看護婦家政婦紹介所・ステラ、宍戸信子、島和子、清水トシエ、湘南新聞販売(株)、白石秀男、新川雅子、神野照子、スーツ猫、菅野利孝、鈴木初子、須藤一夫、関ひさ、洗足学園中学高校洗足会、高崎修、高崎昌司、高谷喜美子、高野弘子、高橋宏之、滝澤佑哉、竹市義弘、竹内一治、(株)武田新聞舗、多田梅子、立石セツ子、伊達美絵、田中さわこ、田中京子、田中耳鼻咽喉科医院、田辺幸子、たまなわ新聞、田村寛、濤崎恭平、栃木勇・佳代子、飛松和子、富山重成、戸村隆子、内藤眞喜子、中尾英一、中川美榮子、中里厚実、中島善範、中野泰子、長南東三、中村俊夫、名取悦子、西富房江、西野喜一郎、野澤ヒロ子、野澤美重子、野村則子、橋詰直孝、パシフィックホスピタル、(株)島山販売、花澤武、浜和子、羽毛田修、原田豊郎、菱沼保幸、肥田敦美、平田キヨ、広野富士夫、(有)深沢新聞店、深澤哲夫、福田芳子、福田稔子、袋康男、藤澤節子、藤田まさみ、藤野芳郎、藤原美佐子、保坂浩正、細谷正二・洋子、本田昌子、前田一朗、松岡豊治、松川いづみ、松下利兵衛、松田久美子、松本静枝、三浦恵子、ミキプルーン剣持グループ有志一同、水田正年、峰岸美佐子、宮本尚武・美也子、三好征子、(有)森国薬局、守屋次郎、安岡照雄、八十田医院、谷田部英雄、矢野耕司、山口喜一、山口勝巳、山崎絹子、横浜さがみ会200回記念チャリティーコンペ参加者一同、横浜市立田奈中学校PTA、横山田鶴子、由井平和、吉野恭子、代田治彦、依田國平、六角薫、和久井勝江、和田尚道、渡辺昭江、渡辺当美、渡辺克己

【新潟県】石黒正子、(有)岩崎新聞店、風間淑子、片桐正隆、金子美智子、栗田鈴子、小島善蔵・ふゆ、田中純子、田辺アツ子、土屋浩二郎、増沢清、三輪浩次、渡辺元

【富山県】浅畑道子、櫻井芳子、嶋田洋美、藤井多津子

【石川県】木場清子、斉藤薫、船塚隆久

【福井県】川口雄二、吉田正美

【山梨県】大塚捷子、窪田重美、堤正夫、内藤典子、永井夕美子、中沢久子、日原良二、藤田みや子、堀田幸江、増田あきの、湯本星華

【長野県】赤羽清夫、浅沼直和、上田腎臓クリニック、釜口医院、坂口茂代、重松秀一、篠田仁宏、清水もと子、新海信雄、立木委枝、田中昭子、塚田修、常盤欣司、二條貞子、藤森克之、宮川實、宮沢東洋雄、望月正子、師岡順司

【岐阜県】赤田千代乃、ASA多治見中央、大迫輝通、尾関たみ代、加藤健彦、黒田英郎、澤田英夫、篠原厚子・けい子、下出きよ子、杉浦久夫、寺崎啓一、長谷川弘、松本美千代、水口和子、八賀

弘、吉田伸子

- 【静岡県】浅井真美、石田敏、宇野眼科医院、川合房子、菊地國弥、稀代幸雄、小室雅恵、佐野ヒフ科クリニック、静岡県高校野球連盟、(有)多々良新聞店、龍神美穂、長貫運送(有)、服部医院、樋口すみ、日野昌徳、牧野照子、松下産婦人科医院、村松尚代、山本順之佑、吉川医院、吉田三毅夫
- 【愛知県】愛知商業高校生徒会、青木茂、青島鍵一、青島正次郎、浅井久雄、ASA日進、浅野和男・恵津子、浅野四郎、朝日新聞一宮販売(株)、ASA碧南、安藤君衛、安藤政男、池内良照、池田隆義、石川勇、板倉尚子、伊藤栄一、伊藤隆之、稲垣脩世、稲垣克己、上阪堅一郎、臼井昭仁、内海紀章、梅基富美子、大石文恵、太田宏、大野泰司、小川麻子、奥山富子、尾関博、尾野忠雄、勝田由紀子、加藤文男、蟹江大作、神谷一嘉、川口澄男、河村勝也、木村タエ子、黒田斌嗣、小出忠孝、小林昌雄、駒田隆子、近藤恵子、斎木清治、坂野一博、坂野光子、佐藤孝一、佐野裕、志賀博、柴田紀作、清水緑、杉本宗孝、杉本祐二、鈴木京子、鈴木慎裕、巢山美枝子、瀬川昂生、瀬川多恵子、千賀園子、竹田勝代、竹端清子、立川武蔵、谷口国男、(株)中部朝日広告、豊嶋春恵、中尾嵩、中村雅彦、名古屋美術青年会、名古屋深雪会、七ツ村繁、成田綾子、野田一三、野武二郎、長谷川宏治、服部明、早川常彦、原千賀子、平塚久男、深谷攻、藤井捷二郎、藤川鈕子、藤丸勝己、古田明夫・ハツ子、前田喜代子、前田豊子、松下ヨガ教室生徒一同、松野辰弥、松原知津子、松本直良、水谷澄男、水谷満子、三輪菊夫・栄子、村越誠一、森本順子、安間哲史、山口徹、山田恵子、山田美智子、山脇宏、渡辺剛
- 【三重県】ASA津販売、井坂世紀子、稲田有美子、江上芳夫、垣内佐十志、亀井邦明、小崎喜代子、酒徳芙美子、中世古浩子、中村文世、平松美澄、別所禮三、盆栽友人趣味の会、前島小夜、水谷皓子、水谷鎮至、柳瀬恒範、米山芳久
- 【滋賀県】RLJSチャリティーコンペ、網谷利治、石名栄佑、井上ミチコ、岩元俊子、植村良雄、北村郁夫、小西眞、澤剛、新宅暢夫、田沼進、辻寅建設(株)、鳥居久仁子、比叡山延暦寺、古家重光、松田武、村井宏行、山川慶子、横田泰三
- 【京都府】浅輪信子、石井範洋、石井美紀、井上信子、大隈靖彦、大滝義一、太田映司・浪子、岡崎芳弘、奥田成子、折井英子、菊岡啓子、京都聖母学院中学校・高校・生徒会、古玉克平、小牧貫治、小山うかう、坂ノ上知子、佐藤紀之、志村ミエ子、高石照子、田上亮子、月川兆、坪井藤二、中島桂子、中村善治、長谷川きくゑ、畑一、原田尚子、前田裕子、升山春彦、三角勝敏、持田一郎、森下ヒサ子、山内喬興、山川達治郎、山下郁代、山田健一、山本武司
- 【大阪府】青木正繁、赤松利隆、秋田仁士、秋友達也・野々村修、朝日新聞大阪中央販売(株)、朝日新聞河南販売(株)、芦田綱雄、(有)アネット、荒川房江、荒元忠彦、井倉康雄、生江2南生栄会、井坂良子、石井美也、石城戸博子、石田章、石田晋一、泉原昭三、出原弘之、伊藤雄大、稲向絹子、井上友治、井上正子、井上健司、井上晴太郎、今石秀則、今村明美、入木邦子、岩井壽恵子、岩佐和子、岩永弘道、植田律子、上田孝之、上田輝雄、上田逸子、上田裕、上田優、上田陽蔵、植東左千子、上村弘、魚住美智子、宇野米太郎、梅川邦夫、マロン・ハッピー・プリン、ラッキー・サクラ、梅本修公、S・M、大黒孝満、大阪シティ信用金庫、大阪府リクリエーション協会(朝日民踊大会)、大澤静江、大槻博司、大野俊彦、大橋輝雄、大矢明子、岡田小夜子、岡本純恵、小河文治、尾寄博、尾崎善博、小濱松次郎、柿本隆重、片山悦子、片山哲子、加藤英二、金澤文子、金沢楨、亀井愛子、狩野貴子、河村良太郎、関西学生チャリティー茶会実行委員会、関西ハーモニカ連盟、菅野正夫、木岡逸子、北之坊皓司、北箸一雄、喜田充郎、北村幾恵、木村富雄、木本弘子、行尾嘉孝、切通良昭、近鉄タクシー(株)、日下敦子、楠村満彦、グレース幼稚園、桑田洋太郎、月輪寺・榎本智照、甲田尚子、神戸喜代子、甲村文子、小島志堅、後藤和彦、五嶋心一、小林タマエ、小峰聖子、小山敏子、坂元博行、澤充子、(株)サンディ、JX日鉱日石エネルギー労働組合関西支部、塩見克美、四方公代、四條畷学園中学、清水政太郎、清水勇、下出喜久子、社領文子、人生道場、新藤修三、杉浦幸弘、杉本房枝、鈴木サヨ子、星翔高校生徒会、鯛島達雄、高岡千代、高草保視、高野和浩、高橋良子、高本圭造、嶽下和栄、武林明、辰巳孝、田中由喜男、田中良憲、田中勝美、田淵美恵子、玉井正光、段野邦夫、調枝潮、次井義泰、辻千行、辻外科リハビリテーション病院、津本クリニック、土居利夫、百目鬼主計、友近綾子、中尾英樹、中尾サチ子、長尾光子、長岡洋子、中尾みどり、中川チサエ、中川有二、中島正典、中島チエ子、中島正幸、中西昭次、中村正明、仲矢美佳、新船満江、西内スミエ、西浦貴美子、日曜画家協会、日本システム技術(株)有志一同、能楽協会大阪支部、野口美智子、野下之男、(株)バイオソーシング、梅花中学校、萩原永美子、萩原克己、橋本美知子、波多博美、八田智代、林トミ子、林篤子、林昭男、林威三雄、日笠修宏、東大阪大学・東大阪

大学短期大学部・翔愛祭実行委員会、人見哲史、日野泉哉、百野隆一、平山純之、福井富美恵、福一東町会、福永正弘、福中善弘、福山章紀、藤井喜美子、藤井賢市、藤田一、フジタ病院、船越恒子、細川福義、堀切裕行、増田健一、松井きみ子、松下ゆり、松原美佐男、松本忠能、松本富夫、円尾クリニック、丸尾芳子、三浦茂子、水谷泰子、水野診療所・患者・職員一同、南方茂樹、峯岡宣重、箕面自由学園学園まつり実行委員会、宮崎弘、宮本恵子、村田泰教、明浄学院高校吹奏楽部、森昭、森快三、森川育子、森本正明、八木黎子、安岡邦昭、安仲信子、山内香住、山本美幸、山田幸子、山田愛子、やまださちこ、大和梱包、山中守、山村弘子、山本和恵、山本勝治、山本清光、山本恒雄、湯浅康子、芳井恒治、吉岡和子、吉川裕子、吉田清壽・幸枝、吉田正、吉永由美子、脇田武利、鷺尾勢伊子、和田綾子、和田信矢、渡辺雅美、渡辺信子

【兵庫県】ASA尼崎東、ASA江原まるにし、浅岡芳司、朝日新聞名谷販売所、五十嵐哲也、池本輝久、池本恒彦、石田光代、一隅運動極楽寺支部、井上壽子、猪原退蔵、岩本芳照、上村富栄、恵村順次、大江良一、大野忠嗣、大庭武夫、岡野富久子、笠原千義、割烹小松、神澤正三、上平康夫、河崎勝明、河村慶子、清荒神清澄寺、小西孝彦、混声合唱団「遊」創立25周年記念演奏会、斉藤博、佐野信三、澤井幸子、重内皋月、柴田寛、嶋村郁子、白野教一、真生園有志、菅村和弘、杉本力、外山妙子、高村英子、瀧谷泰博、竹内竹司、竹田弓子、龍田早苗、田中誠一朗、田中幸雄、谷稔子、鼓敏光、永澤喜美、中島昭子、中園日出彦、成田充啓、南甲こだま、西川百合子、西内明子、野木正彦、橋本幸太郎、畑尾雅子、畠中正昭、平井由美、平尾宗幸、廣辻逸郎、福西秀信、藤岡賢子、藤本洋敏・陽子、藤本須美子、佛立寺婦人会、船綱義夫、坊淳、松下洋子、松本茂、松山春子、三井田祐子、水谷修子、水本雅子、三宅洋一、三宅征彦、宮西トキ子、森本教司、山下兼一、山本潔子、山本牧伸、吉田貞芳、吉田元恵、吉田和雄、吉永栄時、脇坂正之

【奈良県】上野邦一、大西和子、岡嶋俊男、奥野匡宥、表千家青嵐会、川畑宗一、川本俊治、笹内信行、芝原俊一、崇徳寺・安井良道、高田高女二三の会、竹村久仁子、谷義郎、調子慶子、東大寺、西川泰次、西川昌代、野村淑子、野村進、日根文男、藤井昌代、扶藪光雄、峯健治、八木一夫、山田貢、山田米子、横嘉伸

【和歌山県】木下総一郎、竹中信夫、有田市立田鶴小学校児童会、野口稔、東谷好子、馬淵義也、山本一郎

【鳥取県】足立仁、組藤弼郎、福嶋佑二、矢谷啓

【島根県】石田尚志、江口茂雄、田淵忠彦、半田貢雪、山根武・愛子

【岡山県】今井真澄、今村郁夫、氏平一郎、江草安彦、大森忠次・マサ子・香奈、金光義弘、サニーローレル、高木郁太、高橋辰雄、田窪建吾、寺川利子、徳山孝義、難波良之、西崎渥雄、星野謙蔵、松本英明、和気晴信

【広島県】石井美智子、石田泰正、井上年光、岡田ユミカ、金田鈴江、栗田康雄、佐藤嘉展、曾根順子、高畑和春、中谷正弘・勢津子、中村耕也、中村好江、根師一郎、長谷川明子、東三千年、藤高為能、藤原紀男、藤原久子、古本和枝、槇殿透、村上益夫

【山口県】赤川医院、朝日新聞下関販売所、朝日新聞周防美和販売所、伊藤和弘、伊藤経亮、井本芳宣、岩国中央病院、大島喜代子、県立大津緑洋高校日置校舎生徒会、岡基子、織田哲至、かぐや姫、河上勲、河上和洋、河村茂延、河本眞龍、木村猛雄、古賀明友、護國寺、隅田茂生、高松恵美子、高山晋洋、武居稔博、徳山小学校ボランティア委員会、友近洋、中林磨俐、原田巖（初称）、櫃本孝志、平井敏正、平井直一、広重清子、深本良一、藤本裙子、松崎浩司、明林寺、山根喜美、山根惇、山本春夫、湯田自動車学校、吉見ラジオ体操おはよう会、吉村内科医院スタッフ一同

【徳島県】泉公允、小畑安子、小山国雄、上甲哲史、中津忠則、原田寛子、溝部登久美、山崎健治

【香川県】金香コナミ、南雲正義、(有)藤田新聞舗、山下知里

【愛媛県】ASA北条、越智睦美、笠原正直、金柿有子、桑村勝久、合田治二、瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ実行委員会、続木孝子、砥部焼陶芸館・館長・中村昭光、東忠利、百田彰克、山本義久

【高知県】嶋崎薫

【福岡県】青山整形外科医院、秋枝蕭子、秋成府左治、朝日カルチャーセンター、朝日ボウリングクラブ、朝日新聞苅田販売店、朝日メディアテック社員一同、穴井頼信、油絵屋大哲、阿部志朗、荒木不動産、有田和徳、有馬護宏、安藤倫子、飯田隆之、飯塚聖母幼稚園、池上康稔、池田暁彦・

加寿子、池野美都子、石崎光治、石田明男、石橋大海、石原タロー、伊豆皮フ科医院、一森軍生、伊東直子、(株)井上商会、井上祐毅・麻衣子・直哉、井上明人・みどり、井上聰、井上静子、今村寿和、今本久美子・文徳、井本浩之、井本武彦、岩崎健治、岩田光雄、上田末雄、上田シズエ、植田朋子、上野潔、上野芳範、歌うつどいの会、内田満寿、内山健治、梅谷敬哲、梅津法、戎原響子、遠藤信重・ひろみ、王子淳、大石雅史、扇谷範可、大久保主税、大塚保人、大西純一、大西克己、大林るり子、大村公人、岡田良一、緒方聖子写真展、緒方峰夫、岡村幸子、岡本規且、沖永喜代太、荻本策一郎、奥野豊、奥平成男、小倉弘孝、OZUMIクリニック、小原秀俊、小山田秀子、柿添皮膚科医院、加来勉、風師山早朝登山会、梶務、加治屋三郎、加藤隆、角野斉胤、金子隆彦、嘉村起美子、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ一同、川村勝自、神野国男・由美子、木下景子、木下京子、木村幸隆、木村賢示、吉良山勇、朽原幸郎、工藤五六、熊谷新、倉富千鶴、藏永知彦、藏本一郎、倉本和美、倉本恵美子、栗原悟、栗山徳太郎、黒田哲玄、久和世史郎、桑名純恵、桑原純、桑原俊治・しのぶ、小石純也・優美・真理子、河野直重、小方和子、国際ソロプチミスト北九州一東、小熊坂公千、小嶋房江、児玉正子、小橋修、金光教若松教会・ニコニコバザー、西生寺護持会、酒井チヨ子、坂田春海智、坂本嘉之、佐々木愛子、佐々木清、佐々木弘泰、貞松堂印房、佐藤武美、佐藤直子、茶道裏千家淡交会北九州支部、佐保肇、椎野千代子、清水久枝、白石敏、白石内科医院、白石徹、白土八郎、田尾美智代、高砂熱学工業(株)九州支店、高村広、多川洋子、田川勇、竹中久、田島栄次、田中厚子、田中敬子、田中啓介、田中時雄、谷口正純、田端一敏、田原整形外科医院、丹下重則、長治良知、ツジ胃腸科医院、土川勝美、土倉外科胃腸科医院、恒富誠、(株)坪井商店、手嶋啓治・ヒトミ、手嶋秀子、天満紀子、土居麗子、徳永昇・栄子、戸田三七生、富岡春子、友井滋、豊田秀子、長岡重観子、中島乃婦子、中島与志行、中嶋洋滋、中荘政子、永田諫也、長濱昭三、中村寿、中村洋子、中村壹郎、中村栄治、中村進一、成重博美・まり子、西哲丸、西明義晃、西尾病院、西日本カラオケ連合、日鉄住金ハード(株)、野上智宏、野口貢、野原勲、芳賀幸助、橋本俊吾、浜本早司・正子、原照秋、原田礼子、原田しかの、東司エミ子、日高孝枝、日野喜美男、日比生隼斗、姫路秀明、冷牟田つる子、平井信廣、平井重晴、平田淑子、平野敏弘、平松隆壽、吹原正子、福岡県吹奏楽連盟、福岡国税局一同、福田宏行、福永逸雄、福吉新、藤尾且一郎、藤崎良人、藤崎節子、藤巻義範、藤巻隆男、藤見胃腸科内科医院、藤好三千代、藤由会、渕上鯉一、古川和則、古庄三喜男、法泉寺、前田奉一郎、牧山薫、真島敬一郎、益田アヤコ、増田正躬、松井昭子、松井和弘、松岡順之介、松尾謙慈、松木俊正、松下徹、松田正春、松田善子、松原建彦、丸野了、丸山隆志、三浦豊、水上宇吉、溝口義春、溝部忠増、三千里、光安内科医院、光安孝夫、南誠子、魅モード1、宮崎冬樹、宮田英、宮本産商(株)、宮本祐一、向笠洋三、牟田芳子、村上信行、村上啓子、村上歯科医院スタッフ一同、村上葉子・靖子、村田純治、明治学園小学校児童会、目原清嗣、メンバーズ椿、メンバーズ椿・椿杯ゴルフコンペ一同、本村彪、保永惇治、安村茂男、安元サツ、矢野寿啓、山下新一郎、山下春子、山下幸子、山田初子、山本哲夫、ヨコクラ病院、吉永正人・郁子、吉原武利、四浦夕起子、米倉医院、米村泰宏、渡邊千鶴子

- 【佐賀県】 石井外科医院、大野武子、小野静次、坂井貞義、潮田實、豊田俊明、長谷川敏子、森病院
- 【長崎県】 赤木輝子、伊藤檜路美、後田敏子、須磨律子、高岡願生、藤原直子、百田眞瑤彦、森克典
- 【熊本県】 浦田誓夫、大野耕治、佐藤堯、高群由美子、竜山内科リハビリテーション病院、田中忠夫、樽海友希、長崎イク、長野久雄、中村修、野中正治、姫戸医院、藤田英介、増岡光義、松本勵子、宮家隆次、宮田和子、(有)宮本新聞店、森本政幸、山田葉
- 【大分県】 朝日新聞南大分店、石崎晃一郎、石橋弘行、小原敏秀、河野洋平、神戸信之、栗本康江、河野なみ子、(株)古城新聞店、佐藤カホル、佐藤トシ子、中山政己、成安浩治、丹羽瑛、野上和恵、野木憲二、野坂浩代、原嘉徳、原隆、深川充、本田和子、松岡郁男、松成満男、美登公希、棕園ミヨ子、村上和代、柳瀬陽之助、矢野智子、山崎福男、吉松忠徳
- 【宮崎県】 赤池義昭、朝日新聞宮崎販売(株)、市原美宏、樺山資紀、県南病院、佐藤昭吾、田中栄次、松山広子、山田和子
- 【鹿児島県】 出水郡医師会広域医療センター、木村龍一郎・理、久木田康、蔵屋一枝、杉安浩一郎、田原睦郎、徳世津夫、春山雅美、平田裕子、福山茂雄、脇本病院
- 【沖縄県】 仲村宏春

新3年計画 2013-2015

朝日新聞厚生文化事業団は「新3年計画2013-2015」を作り、2013年3月28日の理事会・評議員会で承認されました。

「新3年計画」は、2008年10月に定めたガイドライン「朝日新聞厚生文化事業団の改革と今後の運営」（以下「2008計画」）を改めて総括したうえ、13年に創立85年を迎えた事業団が歩む新しい道筋を示そうと、中長期的な視野も踏まえてまとめたものです。

また、定期預金資産についての新規事業計画による活用や資金運用の基本方針も織り込むこととし、当事業団の理事らで構成する財務委員会の意見も仰いで検討しました。

新3年計画のうち、事業、資産の運用の概要は次の通りです。

事業

（1）3本柱の継続

「2008計画」で重点事業とした「障害のある人」「子ども」「高齢者」の事業3本柱は、朝日新聞厚生文化事業団の独自性を示すものとして評価を受け、事業の態勢も整いつつある。新たな3年計画においても、この3本柱を重点事業として踏襲していく。それぞれに、東日本大震災関連の救援事業も取り込んで、今後も他のメディア事業団にはない独自性を発揮していく。

（2）定期預金資産を活用して新規事業計画

事業団は現在、約20億円の定期預金資産を保有している（基本財産3億円を含まず、東日本大震災指定寄付5億円を含む）。

この定期預金資産を活用した積立資金を充て、3つの特定目的事業に取りかかり、継続中の東日本大震災救援事業とともに実施することとする。創立85周年記念事業を含んで、向こう4-5年を目途に実施していきたい。積立資金の合計額は約13億円とする。

①自閉症支援センターを設立するための事業

積立資金3億円

当事業団の自閉症支援事業は、TEACCHプログラムの紹介、普及を中心に25年を超える実績を持ち、福祉や教育現場に大きな影響を与えてきた。これまでに培った実績と人的資源のネットワークを生かし、自閉症の人への支援を前進させるために「自閉症支援センター（仮）」を創設するプロジェクトをスタートさせる。2013年度は準備や調査に充て、14年度に準備室開設、15年度の本格スタートを目指す。

②グリーフステーションを全国に普及促進する事業

積立資金3億円

東日本大震災に遭った子どものグリーフケアのために学習や生活支援を行う事業を2012年9月に仙台でスタートさせた。この活動の拠点を今後、岩手（陸前高田）と福島（いわき市）にも広げていく予定だが、震災だけでなく交通事故や自殺、病気、あるいは増加する虐待や離婚な

どによって「親を失った子ども」（社会的養護）へのケアができる機関として全国に拡大することを目指すプロジェクトを推進する。

③高齢者在宅ケアモデル事業

積立資金 2 億円

人生の最期を迎えるときに、住み慣れた自宅やまち、地域で支援を受けながら生活を送るために何が必要かを具体的にし、在宅（地域）介護の全国モデルとなる事業を実践する。2013年度は事前検討会議、準備室開設にあて、14年度から実施のための事業立案を行う。センター機能を持った在宅看護・介護の拠点を開設し、ユニークな活動を展開することを目指す。

④東日本大震災救援事業

積立資金 5 億円

東日本大震災救援で当事業団に寄せられた指定寄付金を積立資金として、事業団が独自に行う同震災救援事業の事業費として活用する。②の事業でも、同震災に関連する部分はここから支出する。救援事業は今後3年間にとどまらない。どの事業にも息の長さが求められることを想定して対応していく。

財産の運用

定期預金資産約20億円のうち、「事業」で積立資金として活用するとした計13億円を除く7億円は運用財産として、安定的に運用し、利子収入を事業に活用する。

効率的で安全な運用を図るために、新たに資産運用規程を策定した上で、国債、公債、社債などの安全、安定的な運用方法（投資有価証券の購入）を選択する。

この7億円については、1本にまとめて運用するのではなく、緊急の事態発生時にも臨機応変に支出対応できるよう、分割して運用することとする。財務委員会では、運用財産の活用方法として、突発的に発生する次の災害に即応できるような「災害対策準備積立資金」の設置案もあったが、使用が災害に限定されてしまうため、より広範に即応できるよう、限定をつけずに運用財産とする。

朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内

◆朝日福祉ガイド DVD◆

『自閉症の人が求める支援 全3巻』 セット価格 9,900 円 (2014 年 9 月末まで) 各巻 4,320 円	自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した画期的なDVDです。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。
『自閉症の人が見ている世界 全3巻』 セット価格 10,692 円 各巻 4,320 円	自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点です。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。
『自閉症の子どもの評価 全4巻』 セット価格 18,144 円 各巻 4,860 円	自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。
『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』 セット価格 13,608 円 各巻 4,860 円	「自分是可以する」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。

自閉症児の治療教育シリーズ(米国ノースカロライナ州 TEACCH プログラム) 各巻 3,024 円

『自閉症児の明日のためにーTEACCHのねらいと考え方ー』	プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)。
『親のための TEACCH プログラム』	親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)。
『教師のための TEACCH プログラム』	教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)。
『青年期・成人期の TEACCH プログラム』	学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)。

◆朝日福祉ガイドビデオ◆

『自閉症の治療教育』 3,024 円	全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。(60分)
『TEACCH』 3,024 円	TEACCH部で行われている1週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。(90分)

◆朝日福祉ガイドブック◆

『なるほど高次脳機能障害』 1,296 円	高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加まで、豊富な事例で解説しています。
『みんなのうつ』 1,080 円	うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書。治療法や対処法も解説。監修は精神科医の大野裕さん。
『認知症とともに』 1,080 円	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。
『自閉症の人を支援するということ』 864 円	TEACCHプログラムの最高責任者、ゲアリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。
『自閉症のひとたちへの援助システム』 540 円	TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。
『100%あらたくん』 648 円	自閉症のあらたくんの大活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。
『精神障害者のホームヘルプサービス』 864 円	精神障害を正しく理解し、当事者の立場で支援できるよう、関係者の体験談や豊富な事例で分かりやすく解説しています。
『きみといっしょに』 540 円	全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解や付き合い方をまとめた手引。Q&Aと、推薦する相談・診断機関なども掲載。
『くるまいす-第3改訂版』 324 円	車いすの種類や構造、介助の基礎的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。
『新・川崎病がわかる本改訂増補版』 540 円	乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。

※価格はいずれも税込み（2014年5月1日現在）

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かファクス、電子メールで下記までお申し込みください。

（タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記してください）

ホームページ（<http://www.asahi-welfare.or.jp/>）からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

tel : 03-5540-7446 fax : 03-5565-1643

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食料、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食料や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ね

る「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIPPON」を開催しています。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は1984年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

08年には創設80年を迎え、記念事業として「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」を実施しました。「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」も継続しています。09年度からは「子ども」「障害のある人」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもと、活動を続けています。今後とも、これまでの実績を生かし、人間尊重の原点に立って、「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、先駆的な事業に取り組んでまいります。

2013年度 収支計算書

(2013年4月1日～2014年3月31日)

単位：円

事業活動収入	429,484,832	事業活動支出	513,229,257
事業収入	183,570,361	事業支出	235,167,563
児童福祉事業	5,154,503	児童福祉事業	65,200,161
障害者福祉事業	20,749,366	障害者福祉事業	29,527,403
高齢者福祉事業	2,025,040	高齢者福祉事業	37,254,854
医療と公衆衛生	3,798,108	医療と公衆衛生	516,487
福祉啓発推進	0	福祉啓発推進	1,468,056
朝日福祉ガイド(DVD 他)	23,364,220	朝日福祉ガイド(DVD 他)	17,679,002
チャリティー事業	128,479,124	チャリティー事業	83,521,600
寄付金収入	210,019,087		
引当金戻入	35,056,040	引当金繰入	23,270,887
雑収入	839,344	人件費	203,805,524
		事務費	49,735,964
		減価償却費	1,118,159
		その他	131,160
事業活動外・特別収入	8,271,685	事業活動外・特別支出	0
財産運用収入	3,820,727		
過年度貯蔵品修正	4,450,958	当期活動収支差額	-75,472,740
合計	437,756,517	合計	437,756,517

理事・監事・評議員名簿

2014年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事6人、監事2人、評議員13人) 敬称略・順不同

理事長	池内 文雄	朝日新聞社常勤顧問、公益財団法人森林文化協会理事長
常務理事	高畑 芳秋	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理 事	佐々木正美	川崎医療福祉大学特任教授
同	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長、元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
監 事	南 靖武	社会福祉法人恩賜財団済生会支部東京都済生会業務担当理事
同	亀岡 保夫	公認会計士、大光監査法人理事長
評議員	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家専務理事
同	野村 寛	元社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	影山 秀人	弁護士、NPO法人子どもセンターてんぼ理事長
同	石川 到覚	大正大学人間学部社会福祉学科教授
同	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
同	佐野 信三	元社会福祉法人博愛社理事長
同	長浜 力雄	NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク理事長
同	吉原 健二	財団法人厚生年金事業振興団顧問、元厚生事務次官
同	佐藤 佳則	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	関戸 衛	元朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	鈴木 健	朝日新聞社ブランド推進担当補佐
同	田畑 良治	朝日新聞社財務本部長
同	池内 文雄	朝日新聞社常勤顧問、公益財団法人森林文化協会理事長

お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL 03 (5540) 7446 FAX 03 (5565) 1643

□郵便振替…口座番号「00130-1-9166」

□銀行振り込み…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島2-3-18

TEL 06 (6201) 8008 FAX 06 (6231) 3004

■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1

TEL 093 (563) 1284 FAX 093 (563) 1287

■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3

TEL 052 (221) 0307 FAX 052 (221) 5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求ください。銀行振り込みの場合は事前にご連絡ください。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められています。

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿（2014年3月31日現在）

■本部（東京）

事務局長 大井屋 健 治
 事業部長 福 田 年 之
 企画部長 池 谷 澄 子
 管理担当部長 大 羽 淳 一
 広報担当部長 谷 啓 之
 野 崎 貴 士
 中 村 宣 人
 落 合 すが子
 古 屋 厚 子
 小 林 明 由
 松 岡 百 合
 中 村 智佐子

■大阪事務所

事務所長兼西日本事業部長
橋 本 文 雄
 事業担当部長 中 村 茂 高
 岩 切 修 次
 柳 沢 佐和子
 小 倉 玲 子
 勝 見 文 子

■西部事務所

事務所長 重 光 雄 二

■名古屋事務所

事務所長 田 中 彰
 山 田 たまみ

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2013

平成25年度

事業
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

2013年度 事業報告

2013年4月 1日から

2014年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団